

2019
履修案内

横浜国立大学
経営学部

目 次

I. 2019年度 学事暦	1
II. 履修・成績評価	3
1. 履修登録	3
(1) 概要	3
(2) 履修登録手順	4
(3) 履修登録単位数の上限について	4
(4) 履修登録に関する注意事項	5
(5) 再履修登録に関する注意事項	7
2. 授業時間	7
3. 成績評価	7
(1) 評価方法	7
(2) 成績評価	8
(3) 成績の確認	9
III. 2017年度以降入学生 <一般プログラム学生>	10
1. 卒業要件	10
(1) 卒業資格基準	10
(2) 1単位当たりの授業時間	11
(3) 9月卒業について	11
2. 全学教育科目	12
(1) 履修方法	12
(2) 基礎科目の必修科目について	12
(3) 全学教育科目一覧表	12
(4) 健康スポーツ科目	20
(5) 英語科目	20
(6) 英語以外の外国語科目（初修外国語）	22
(7) 外国人留学生のための授業科目	24
3. 学部教育科目	25
(1) 履修方法	25
(2) 履修条件のある科目について	25
(3) 学部教育科目一覧表	26
4. 経営学部以外の授業科目の履修	29
5. ゼミナール	31
6. 卒業論文試験	32
履修モデル	34
IV. 2017年度以降入学生 <GBEEP学生>	38
1. 卒業要件	38
(1) 卒業資格基準	38
(2) 1単位当たりの授業時間	39
(3) 9月卒業について	39
2. 全学教育科目	39
(1) 履修方法	39
(2) 基礎科目の必修科目について	39
(3) 全学教育科目一覧表	40
(4) 健康スポーツ科目	40
(5) 英語科目	40
(6) 英語以外の外国語科目（初修外国語）	40
(7) 外国人留学生のための授業科目	40

3. 学部教育科目	41
(1) 履修方法	41
(2) 履修条件のある科目について	41
(3) 学部教育科目一覧表	42
4. 経営学部以外の授業科目の履修	49
5. ゼミナール	50
6. 卒業論文試験	50
履修モデル	51
V. 2016年度以前入学生 <昼間主コース>	52
1. 卒業要件	52
(1) 卒業資格基準	52
(2) 1単位当たりの授業時間	53
(3) 9月卒業について	53
2. 教養教育科目	53
(1) 履修方法	53
(2) 教養コア科目必修科目表	53
(3) 教養コア科目一覧表	54
(4) 基礎演習科目	62
(5) 英語科目	62
(6) 留学生の英語履修について	63
(7) 英語以外の外国語科目	63
(8) 健康スポーツ科目	66
(9) 外国人留学生のための授業科目	66
3. 専門教育科目	68
(1) 履修方法	68
(2) 専門教育科目一覧表	69
(3) 専門教育科目新旧対照表	73
(4) 分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	73
(5) 夜間主コースとの相互履修	74
4. 経営学部以外の授業科目の履修	74
5. ゼミナール	77
6. 卒業論文試験	77
VI. 2016年度以前入学生 <夜間主コース>	80
1. 卒業要件	80
(1) 卒業資格基準	80
(2) 1単位当たりの授業時間	81
(3) 9月卒業について	81
2. 教養教育科目	81
(1) 必修科目	81
(2) 夜間主教養教育科目一覧表	81
(3) 外国語科目	82
3. 専門教育科目	83
(1) 履修方法	83
(2) 専門教育科目一覧表	84
(3) 専門教育科目新旧対照表	86
(4) 分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	86
(5) 昼間主コースとの相互履修	86
4. 経営学部以外の授業科目の履修	87
5. ゼミナール	89
6. 卒業論文試験	89

VII. キャリア教育	90
1. 経営学部インターンシップ	90
2. 海外インターンシップ	91
3. インターンシップ留学制度（海外・地域）	92
4. 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス	93
VIII. 海外での学修	94
1. 交換留学（派遣）、私費留学（大学・短期大学）	94
(1) 交換留学（派遣）について	94
(2) 私費留学について	94
2. 海外学修科目について（2017年度以降入学者のみ）	95
IX. 教育職員免許状（2016年度以前入学者のみ）	96
X. 学務関係諸手続き	98
(1) 休学、退学、除籍	98
(2) 学生証の携帯	99
(3) ゼミ室の使用	99
(4) 経営学務係窓口受付時間帯	99
(5) 在学中の証明書の発行	99
(6) 住所変更等の届け出	100
(7) 経営学部コンタクト教員制度（担任制度・2013年度以降入学生対象）	100
(8) 住所・勤務等届の提出（社会人教育プログラム・夜間主コースのみ）	100
(9) 駐車許可証交付（社会人教育プログラム・夜間主コースのみ）	100
(10) 進路調査票の提出（4年次生）	101
(11) 留学生支援制度	101
(12) その他	101
XI. 横浜国立大学経営学部規則	102
XII. 教員一覧	104
XIII. 経営学部建物および教室配置図	106
1. 建物配置図	106
2. 教室配置図	107
(1) 経営学部講義棟	107
(2) 経営学部1号館	108
(3) 経営学研究棟	108

I. 2019 年度 学事暦

学期・ターム・月		日	月	火	水	木	金	土				
春学期	第1ターム	4月		1	2	3	4	5	6	4/2 (火) 入学式		
			7	8	9	10	11	12	13	4/3 (水) 英語プレイスメントテスト (1年生のみ)		
			14	15	16	17	18	19	20	4/5 (金) ~8/2 (金) 春学期 (セメスター科目)		
			21	22	23	24	25	26	27	4/5 (金) ~6/6 (木) 春学期前半 (第1ターム科目)		
			28	29	30					4/5 (金) ~4/19 (金) 履修登録期間 (土日除く)		
	5月				1	2	3	4		4/30 (火) ~5/2 (木) は授業を行わない		
		5	6	7	8	9	10	11		5/6 (月) は授業を行う (祝休日開講日)		
		12	13	14	15	16	17	18		5/7 (火) ~5/9 (木) 履修登録確認・訂正期間		
		19	20	21	22	23	24	25		5/13 (月) ~5/17 (金) 履修登録キャンセル期間		
		26	27	28	29	30	31		5/18 (土) ~5/19 (日) 清陵祭 (5/18 (土) は準備を含む)			
	第2ターム	6月							1		5/31 (金) ~6/6 (木) 第1ターム試験期間	
			2	3	4	5	6	7	8		(セメスター科目は通常授業)	
			9	10	11	12	13	14	15		6/7 (金) ~8/2 (金) 春学期後半 (第2ターム科目)	
			16	17	18	19	20	21	22		6/24 (月) ~6/28 (金) 履修登録キャンセル期間	
			23	24	25	26	27	28	29		(第2ターム科目)	
	7月	30										
			1	2	3	4	5	6		7/15 (月) は授業を行う (祝休日開講日)		
		7	8	9	10	11	12	13				
		14	15	16	17	18	19	20		7/26 (金) ~8/2 (金) 春学期・第2ターム試験期間		
		21	22	23	24	25	26	27		(8/2 (金) は試験の予備日)		
	第3ターム	8月	28	29	30	31						
							1	2	3		8/3 (土) ~9/30 (月) 夏季休業期間 (第3ターム)	
			4	5	6	7	8	9	10			
			11	12	13	14	15	16	17			
			18	19	20	21	22	23	24			
		9月	25	26	27	28	29	30	31			
			1	2	3	4	5	6	7			
			8	9	10	11	12	13	14			
			15	16	17	18	19	20	21			
			22	23	24	25	26	27	28			
			29	30								
秋学期	第4ターム	10月			1	2	3	4	5	10/2 (水) 秋季入学式 (予定)		
			6	7	8	9	10	11	12	10/7 (月) ~2/12 (水) 秋学期 (セメスター科目)		
			13	14	15	16	17	18	19	10/7 (月) ~12/3 (火) 秋学期前半 (第4ターム科目)		
			20	21	22	23	24	25	26	10/7 (月) ~10/18 (金) 履修登録期間 (土日除く)		
			27	28	29	30	31			10/14 (月) は授業を行う (祝休日開講日)		
	11月						1	2		10/23 (水) ~10/25 (金) 履修登録確認・訂正期間		
		3	4	5	6	7	8	9		11/2 (土) ~11/4 (月) 常盤祭 (11/2 (土) は準備を含む)		
		10	11	12	13	14	15	16		11/5 (火) ~11/8 (金) 履修登録キャンセル期間		
		17	18	19	20	21	22	23				
		24	25	26	27	28	29	30		11/27 (水) ~12/3 (火) 第4ターム試験期間		
	第5ターム	12月	1	2	3	4	5	6	7		(セメスター科目は通常授業)	
			8	9	10	11	12	13	14		12/4 (水) ~2/12 (水) 秋学期後半 (第5ターム科目)	
			15	16	17	18	19	20	21		12/16 (月) ~12/20 (金) 履修登録キャンセル期間	
			22	23	24	25	26	27	28		(第5ターム科目)	
			29	30	31						12/25 (水) は金曜日の授業を行う (授業振替日)	
	1月				1	2	3	4		12/26 (木) ~1/3 (金) 冬季休業期間		
		5	6	7	8	9	10	11				
		12	13	14	15	16	17	18		1/17 (金) ~1/19 (日) 大学入試センター試験休業		
		19	20	21	22	23	24	25		(1/18 および 1/19 は大学構内入構不可)		
		26	27	28	29	30	31					
第6ターム	2月							1		2/4 (火) ~2/12 (水) 秋学期・第5ターム試験期間		
		2	3	4	5	6	7	8		(2/12 (水) は試験の予備日)		
		9	10	11	12	13	14	15	2/13 (木) 英語統一テスト (英語LR) 試験日			
		16	17	18	19	20	21	22	2/14 (金) ~3/31 (火) 春季休業期間 (第6ターム)			
		23	24	25	26	27	28	29	2/25 (火) 前期日程試験 (大学構内入構規制)			
	3月	1	2	3	4	5	6	7				
		8	9	10	11	12	13	14				
		15	16	17	18	19	20	21	3/12 (木) 後期日程試験 (大学構内入構規制)			
		22	23	24	25	26	27	28				
		29	30	31					3/24 (火) 卒業式・修了式 (予定)			

28	試験期間	29	試験期間(予備日)
	英語統一テスト・プレイスメントテスト		
	授業振替日		
	祝休日開講日		

2019年度 学事暦

事 項	期 日 又 は 期 間	備 考
春季休業期間	4月 1日 (月) ～ 4月 4日 (木)	
入学式	4月 2日 (火)	
英語プレイスメント (統一) テスト	4月 3日 (水)	1年生のみ
春 学 期 開 講	4月 5日 (金)	※1
春 学 期 前 半 (第1ターム)	4月 5日 (金) ～ 6月 6日 (木)	
授 業 休 講 期 間	4月30日 (火) ～ 5月 2日 (木)	
祝 休 日 開 講 日	5月 6日 (月・祝)	
補 講 週 間	5月13日 (月) ～ 5月17日 (金)	※2
清 陵 祭	5月18日 (土) ～ 5月19日 (日) (5月18日 (土) は準備を含む)	
開 学 記 念 日	6月 1日 (土)	
第 1 ターム 試 験 期 間	5月31日 (金) ～ 6月 6日 (木)	※3
春 学 期 後 半 (第2ターム)	6月 7日 (金) ～ 8月 2日 (金)	
補 講 週 間	7月 8日 (月) ～ 7月12日 (金)	※2
祝 休 日 開 講 日	7月15日 (月・祝)	
春 学 期 ・ 第 2 ターム試験期間	7月26日 (金) ～ 8月 2日 (金) (8月2日 (金) は試験の予備日)	※3
夏季休業期間 (第3ターム)	8月 3日 (土) ～ 9月30日 (月)	(予定)
秋 季 卒 業 式 ・ 修 了 式	9月13日 (金)	
春 学 期 終 講	9月30日 (月)	
夏季休業期間	10月 1日 (火) ～ 10月 6日 (日)	
秋 季 入 学 式	10月 2日 (水)	(予定)
秋 学 期 開 講	10月 7日 (月)	※4
秋 学 期 前 半 (第4ターム)	10月 7日 (月) ～ 12月3日 (火)	
祝 休 日 開 講 日	10月14日 (月・祝)	
常 盤 祭	11月 2日 (土) ～ 11月 4日 (月) (11月2日 (土) は準備を含む)	
補 講 週 間	11月 5日 (火) ～ 11月11日 (月)	※2
第 4 ターム 試 験 期 間	11月27日 (水) ～ 12月 3日 (火)	※3
秋 学 期 後 半 (第5ターム)	12月 4日 (水) ～ 2月12日 (水)	
授 業 振 替 日	12月25日 (水)	※5
冬季休業期間	12月26日 (木) ～ 1月 3日 (金)	
大学入試センター試験休業日	1月17日 (金) ～ 1月19日 (日)	
補 講 週 間	1月20日 (月) ～ 1月24日 (金)	※2
秋 学 期 ・ 第 5 ターム試験期間	2月 4日 (火) ～ 2月12日 (水) (2月12日 (水) は試験の予備日)	※3
英 語 統 一 テ ス ト	2月13日 (木)	
春季休業期間 (第6ターム)	2月14日 (金) ～ 3月31日 (火)	
個別学力検査等試験日 (前期日程)	2月25日 (火) ～ 2月26日 (水)	
個別学力検査等試験日 (後期日程)	3月12日 (木) ～ 3月13日 (金)	
卒 業 式 ・ 修 了 式	3月24日 (火)	(予定)
秋 学 期 終 講	3月31日 (火)	

※1 4月4日 (木) までにオリエンテーション等を行い、4月5日 (金) を春学期開講日とする。

※2 補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第6限に実施するが、事情によりこの時間帯に実施し難い場合は、各部局の判断により別途日時を設定して補講を行なうものとする。

※3 ターム試験期間には45分間相当の授業時間を含む。なお、セメスター科目は通常授業を行う。

※4 10月4日 (金) までにオリエンテーション等を行い、10月7日 (月) を秋学期開講日とする。

※5 12月25日 (水) は金曜日の授業を行う。

II. 履修・成績評価

1. 履修登録

(1) 概要

授業科目を履修するときには、指定された期間内に学務情報システムで履修登録を行う必要があります。履修手続きを行わないと、授業科目試験の受験資格がありません。たとえ授業に出席し、試験を受けたとしても単位は与えられませんので注意してください。

春学期オリエンテーションで配布される『全学(教養)教育科目履修案内』(※1年次のみ)、『経営学部履修案内』、『経営学部授業時間割』および学務情報システム上にあるシラバス(授業概要)を参照し、1年間の履修計画を立て、履修登録を行いましょう。これらは1人1冊しか配布しませんので、1年間大切に保管してください。

履修登録期間	春学期 第1・2・3ターム	2019年4月5日(金)～4月19日(金) 9:00～21:00 土日除く ※最終日の終了時間は17:00(社会人教育プログラム・夜間主コース学生は20:00)まで
	秋学期 第4・5・6ターム	2019年10月7日(月)～10月18日(金) 9:00～21:00 土日除く ※最終日の終了時間は17:00(社会人教育プログラム・夜間主コース学生は20:00)まで
履修登録ができる場所	経営学部1号館(C棟)3階PC教室(303教室)等 (Matrix認証接続サービスを利用して学外からの登録も可能)	
相談窓口	履修登録に関する質問・相談：経営学務係(N3-4) 学務情報システムに関する質問・相談：学生センター(学務部教育企画課)(S5-1)	

【注意事項】

- ① 学務情報システムのログインは、YNU ログイン ID とそのパスワードで行われます。
- ② 学内のパソコンからだけでなく、情報基盤センターホームページから **Matrix** 認証接続サービスを利用することで自宅のパソコンからも履修登録することができます。
- ③ 学務情報システムおよび **Matrix** 認証接続サービスの利用方法の詳細については、オリエンテーションで配布される資料を参照してください。

【システムについて】

- ① 学生情報システム (<https://siss.jmk.ynu.ac.jp/>)
→休講、教室変更、時間割変更、補講、学生呼出、入学料・授業料免除選考結果、就職、お知らせ等
- ② 学務情報システム (https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/)
→履修登録、成績参照、学習記録、ポートフォリオ等
- ③ 授業支援システム (<https://lms.ynu.ac.jp/>)
→授業資料配布、レポート課題提出等
※授業支援システムで利用仮登録をただけでは、授業科目の履修はできません。必ず学務情報システムで履修登録を行ってください。
- ④ Matrix 認証接続サービス(<https://matrixauthsv.ynu.ac.jp/>)
→学外からの履修登録、成績参照
- ⑤ YNU メール (Office365) (<https://portal.office.com/>)
→大学からのメールは YNU メールへ送信されます。

(2) 履修登録手順

以下の手順で履修登録を行ってください。

- ① 履修計画を立てる。
- ② 履修登録に関する質問や相談がある場合は、事前に経営学務係で確認する。
- ③ 履修登録期間中に学務情報システムで履修登録を行う。期間内の訂正は何度でもできます。
- ④ 学務情報システムの履修時間割表で自身が立てた履修計画と照合し、訂正がある場合は、訂正期間内に学務情報システムで訂正する。
- ⑤ 履修登録確認の手続きは、登録エラーがなくなるまで行う。

(3) 履修登録単位数の上限について

経営学部では、履修科目の過剰登録を防ぎ、授業時間外学修の充実を図るため、履修登録できる単位数に上限を設定しています。学修目標に沿った履修計画を立てた上で履修登録を行って下さい。

【2017 年度以降入学者】

- ① 履修登録できる合計単位数の上限は、「半期 22 単位(1 年次)」「半期 24 単位(2 年次以上)」です。ただし、成績優良者(直前半期の GPA3.0 以上の者)については、上限を緩和し 28 単位まで履修登録することができます。
 - ② 上記のうち、全学教育科目を履修登録できる単位数の上限は「半期 12 単位」です。なお、グローバル教育科目(国際交流科目)は、半期 12 単位に加えて 4 単位を上限に超過して履修登録ができます。ただし、履修登録できる合計単位数の上限は変わりません。
 - ③ 履修上限の対象に含まれない科目は、経営学リテラシー、学科必修科目(学部教育科目)、ゼミナール、演習、集中科目、インターンシップ、学部教育科目として認定される国際交流科目、グローバル Plus ONE(英語で行われる授業のうち卒業資格外単位となる科目)、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目、横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)および理工学部・教育学部・都市科学部開講の学部教育科目です。
- ※交換留学(派遣)等、学部長がやむを得ない理由があると認めた場合は、経営学務係に申請し、「通年 48 単位」以下で春学期・秋学期間の調整を行うことができます(交換留学(派遣)決定者および同留学後の学生については、出発年度と帰国年度に限る)。ただし、全学教育科目については「半期 12 単位」の上限に変更はありません。

【2011 年度～2016 年度入学者】

- ① 履修登録できる単位数の上限は、「半期 24 単位」です。ただし、成績優良者(直前半期の GPA3.0 以上の者)については、上限を緩和し 28 単位まで履修登録することができます。
 - ② 上記のうち、教養教育科目を履修登録できる単位数の上限は「半期 20 単位」です。ただし、YCCS 特別プログラムにより教養教育科目として開講されている科目は、教養教育科目半期 24 単位、全体 28 単位まで上限が緩和されます。履修登録する場合は経営学務係の窓口へ申し出てください。
 - ③ 履修上限の対象に含まれない科目は、学部必修科目(専門教育科目)、ゼミナール、集中科目、インターンシップ、教職科目、国際交流科目、グローバル Plus ONE(英語で行われる授業のうち卒業資格外単位となる科目)、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目、横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)および理工学部・教育学部・都市科学部開講の専門教育科目です。
- ※交換留学(派遣)等、学部長がやむを得ない理由があると認めた場合は、経営学務係に申請し、「通年 48 単位」以下で春学期・秋学期間の調整を行うことができます(交換留学(派遣)決定者および同留学後の学生については、出発年度と帰国年度に限る)。そのうち教養教育科目については、「半期 20 単位」の上限が「半期 24 単位」に緩和されます。

(4) 履修登録に関する注意事項

履修登録は、春学期の登録期間に春学期(春セメスター、第 1・2・3 ターム)開講科目と通年科目、秋学期の登録期間に秋学期(秋セメスター、第 4・5・6 ターム)開講科目を登録してください。履修登録をしていない科目は受講できず、試験を受けても単位は付与されません。履修登録エラーが残っている科目も同様です。

健康スポーツ科目や外国語科目等の一部の科目を除いて、既に単位を修得した授業科目を再履修登録することや、同一時に複数の授業を履修登録すること(重複登録)はできません。

キャンセル期間を過ぎてしまうと履修のキャンセルはできません。たとえ当該科目を受講しなかったとしても評価は「不可」となり、GPA の計算上不利となりますので注意してください。

クラス指定のある授業科目は、指定されたクラス分けに従って履修登録をしてください。また、受講制限・受講調整を行う科目では、「受講者名簿」に記載のない学生はそれらの科目を履修登録できません。

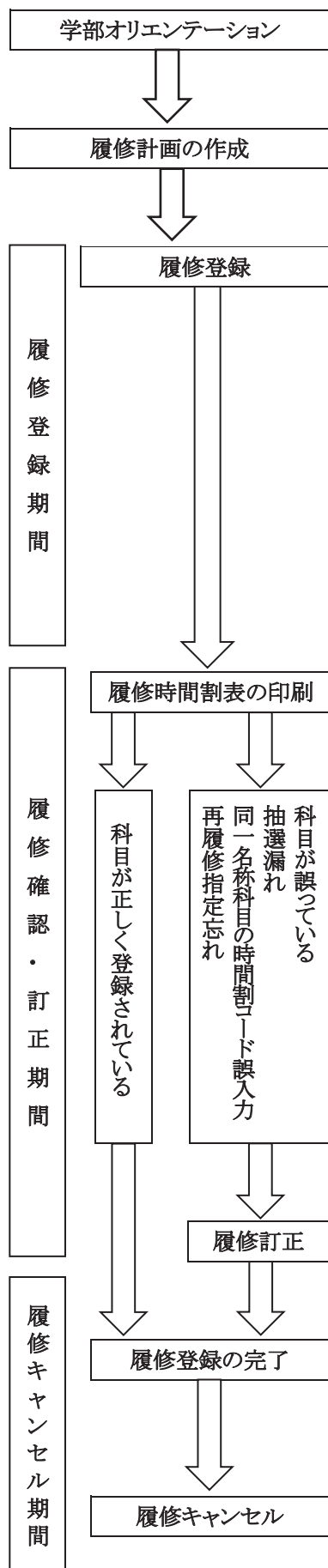
交換留学(派遣)決定者および同留学後の学生は、履修登録期間外の履修登録を認める場合があります(出発年度と帰国年度に限る。また、授業担当教員の十分な履修指導を受けることができる場合に限る)。詳細は経営学務係の窓口で確認して下さい。

履修確認・訂正 期 間	【春学期、第 1・2・3 ターム】 5 月 7 日(火)～5 月 9 日(木) 9:00～21:00 【秋学期、第 4・5・6 ターム】 10 月 23 日(水)～10 月 25 日(金) 9:00～21:00 ※最終日の終了時間は 17:00(社会人教育プログラム・夜間主コース学生は 20:00)まで
履 修 登 録 の キャンセル期間	【春学期、第 1 ターム】 5 月 13 日(月)～5 月 17 日(金) 9:00～21:00 【第 2 ターム】 6 月 24 日(月)～6 月 28 日(金) 9:00～20:00 【秋学期、第 4 ターム】 11 月 5 日(火)～11 月 8 日(金) 9:00～21:00 【第 5 ターム】 12 月 16 日(月)～12 月 20 日(金)9:00～20:00 ※第 2 ターム、第 5 タームのキャンセルは窓口申請のみ(詳細は掲示板で連絡します。) ※最終日の終了時間は 17:00(社会人教育プログラム・夜間主コース学生は 20:00)まで

履修登録の確認は、忘れずに学務情報システムで行ってください。

- ① 履修登録した内容を確認し、「登録した内容と異なっている場合」および「重複登録などの履修登録エラーがあった場合」は、上記期間中に学務情報システムで訂正を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、経営学務係へ申し出てください。
- ② 履修登録完了後に取りやめたい科目が発生した場合は、上記期間中に必ず手続きをしてください。
- ③ 履修登録エラーの授業科目がある場合は、キャンセル期間に学務情報システムで「履修科目のキャンセル」を行うことができません。キャンセルする場合には、上記期間中に経営学務係に申し出てください。
- ④ 履修登録エラーが発生した授業科目があるにも関わらず、上記期間内に「履修登録の訂正」や「履修科目のキャンセル」の手続きを行わなかった場合は、当該科目は履修することができません。

【学部学生の履修登録の手順】



履修登録に必要な資料を受け取ります。(履修案内・時間割表など)

履修案内、WEB シラバス、時間割表で履修方法・履修条件等を確認し、自分自身が履修する授業科目の時間割表を作成してください。

初回の授業で抽選による履修人数制限をおこなう科目もありますので注意してください。

学期ごとの履修登録対象科目は次のとおりです。

春学期、第 1・2・3 ターム	秋学期、第 4・5・6 ターム
・春学期および通年開講科目 ・ターム開講科目	・秋学期開講科目(通年科目は春学期が履修登録期間なので登録できません) ・ターム開講科目

履修登録は、以下の期間内に学務情報システムで行ってください。

春学期、第 1・2・3 ターム	秋学期、第 4・5・6 ターム
4 月 5 日(金)～4 月 19 日(金) [土日は除く]	10 月 7 日(月)～10 月 18 日(金) [土日は除く]

学務情報システムの利用時間は 9:00～21:00 です。ただし、最終時は 17:00 (社会人教育プログラム・夜間主コース学生は 20:00) までです。

なお、学部指定パソコン教室の開放時間による制約がありますので、掲示等で教室の利用時間を確認してください。

学務情報システムから各自で履修時間割表を印刷してください。

履修計画どおりに履修登録されているか必ず確認してください。

履修登録・訂正期間は次のとおりです。

春学期、第 1・2・3 ターム	秋学期、第 4・5・6 ターム
5 月 7 日(火)～5 月 9 日(木)	10 月 23 日(水)～10 月 25 日(金)

エラー科目は履修登録されていません。確認・訂正をしないでそのままにしておくと、その科目は単位認定の対象にはなりませんので注意してください。

確認の結果、履修計画どおりに登録できなかった、受講調整により履修不許可になった、エラー科目がある場合は、上記の期間内に学務情報システムで履修訂正を行ってください。履修訂正は、履修登録期間内に履修登録した者しか手続きできません。

学務情報システムの利用時間は、履修登録期間と同じです。

履修登録完了後に履修を取りやめたい科目が出た場合は、以下の期間内に学務情報システムで履修キャンセルを行ってください。ただし、第 2 ターム、第 5 タームのキャンセルは窓口申請のみです。その場合、履修キャンセル以外の追加・訂正はできません。

履修キャンセル期間は次のとおりです。

春学期、第 1 ターム	秋学期、第 4 ターム
5 月 13 日(月)～5 月 17 日(金)	11 月 5 日(火)～11 月 8 日(金)
第 2 ターム	第 5 ターム
6 月 24 日(月)～6 月 28 日(金)	12 月 16 日(月)～12 月 20 日(金)

学務情報システムの利用時間は、履修登録期間と同じです。

(5) 再履修登録に関する注意事項

外国語科目、健康スポーツ科目、および特殊講義(学部(専門)教育科目)を再履修する場合は、科目により履修方法が異なるので、十分注意してください。特殊講義の再履修者は、同一名称の特殊講義が開講されている場合は、その科目を履修してください。

同一名称の特殊講義が廃止となった場合は、特殊講義の中から1科目を選択し再履修してください。

2. 授業時間

時限	時間帯	備考
第1時限	8:50 ~ 10:20	昼間時間帯
第2時限	10:30 ~ 12:00	
第3時限	13:00 ~ 14:30	
第4時限	14:40 ~ 16:10	
第5時限	16:15 ~ 17:45	昼夜相互時間帯
第6時限	17:50 ~ 19:20	夜間時間帯
第7時限	19:25 ~ 20:55	

3. 成績評価

授業科目の成績は、試験またはレポートの結果、出席状況、通常の授業における学習態度等を総合して判定します。

(1) 評価方法

① 試験

対 象 者	履修登録をし、かつ授業回数の2分の1以上出席した者。
試験実施時期	原則として学期またはターム末。ただし、担当教員が必要と認める場合は、学期またはターム中に行うことがあります。
受験上の注意	学生証の提示がない学生は受験できません。学生証は試験期間中に限らず常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行申請してください。(窓口:学務部教育企画課)再発行までに要する日数は、申請から7日後(土日・祝日を除く)です。 ※試験日程その他詳細については掲示により通知します。
不正行為を行った場合の措置	不正行為を行った場合は、その学期にかかわるすべての履修登録科目の単位を没収するとともに、2ヶ月以上の停学処分とします。 ※停学処分開始時期は原則として学期初めとし、停学処分期間中の履修登録は認められません。

② レポート

レポートの提出先、提出要領および提出期限等については、掲示あるいは担当教員の指示に従ってください。なお、提出期限を過ぎてから経営学務係窓口へ提出しようとしても受理することはできないので、注意してください(99ページを参照)。

③ 追試験

次に該当する事由により、学期末試験期間内に行われた科目を受験できなかった場合には、当該科目について追試験の申請をすることができます。

申請事由	必要書類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書
両親又は同居の親族の死亡	事実を確認・証明できる書類
交通機関の著しい遅延・運休	
その他、部局長がやむを得ない理由があると認めたとき	

申請する際は、学期末試験期間終了後の翌日 17 時(休日の場合にはその翌日)までに経営学務係まで申し出てください。本人が直接窓口申請できない場合には、代理人やメールによる申請も可能です。詳細は経営学務係まで問い合わせてください。なお、グローバル教育科目(国際交流科目)は申請窓口が学生センター(学務部国際教育課国際教育係)となりますので、注意してください。

(2) 成績評価

成績評価は、シラバスに示す評価の重み付けを加味した到達度評価とし、秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、および不可(59 点以下)の5段階で標記します。「可」以上の成績を修得した者に、所定の単位を与えます。なお、秀、優の成績評価基準は以下のとおりです。

秀は履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること。

優は履修目標を十分達成しており、「秀」につぐ優秀な成績をおさめていること。

また、それぞれの科目の評価に GP(Grade Point)を与え、学期ごとに学生の個々の履修科目の GP にその科目の単位数を掛け、その総和を履修登録科目の総単位数で割って GPA(Grade Point Average)を算出します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{各科目の(GP} \times \text{単位数)の総和}}{\text{履修登録単位数}}$$

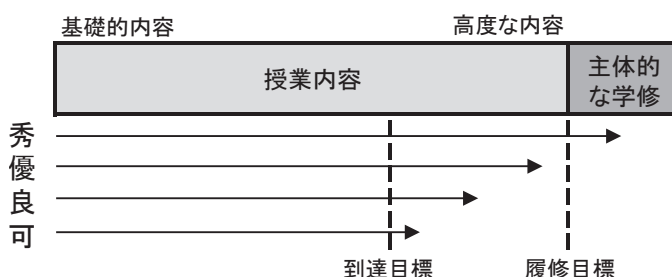
成績と GPA の関係を示すと、以下の通りです。

成績	Grade Point	評価点	基準
秀	4.5	100 — 90 点	履修目標を越えたレベルを達成している
優	4	89 — 80 点	履修目標を達成している
良	3	79 — 70 点	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
可	2	69 — 60 点	到達目標を越えたレベルを達成している
不可	0	59 点以下	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

到達目標：授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

※履修目標、到達目標と成績グレードとの関係
(右図)



GPA は卒業論文提出資格要件(卒業論文試験を受験する年度初めの時点で通算 GPA が 2.0 以上)および卒業要件(卒業認定の時点で通算 GPA が 2.0 以上)となりますので、十分に注意してください。卒業論文提出要件や、卒業要件については、所属プログラム・コースのページで確認してください。

成績評価のうち、「不可」については、同一科目の再履修を認めます。再履修を行った場合には、再履修後の成績が採用されます。

また、再履修の場合は GPA の分母(履修登録単位数)は増えません。履修キャンセル期間を過ぎて履修または試験を放棄した場合は「不可」となり、その科目の GP は 0 となるので、注意してください。

なお、以下の科目は卒業にかかわる単位に算入しますが、GPA に算定しません。

入学前既取得単位として認定された科目
編入学による認定科目
横浜市内大学間単位互換制度(放送大学含む)による認定科目【注 1】【注 2】
交換留学(派遣)・休学中の留学による認定科目【注 1】【注 2】
国際交流科目【注 1】【注 3】
インターンシップ科目
国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目【注 1】

【注 1】卒業にかかわる単位に算入できる単位数に上限があります。所属プログラム・コースの「経営学部以外の授業科目」を参照してください。

【注 2】単位認定されない場合もありますので、詳細は経営学務係までお問い合わせください。

【注 3】国際交流科目の取り扱いについての詳細は、所属プログラム・コースの「経営学部以外の授業科目」を参照してください。

以下の科目は、卒業に必要な単位に算入せず GPA にも算定しません。

教職に関する科目
理工学部、教育学部および都市科学部の学部(専門)教育科目
グローバル Plus ONE 副専攻プログラムの開講科目「科目群 A」
卒業資格外単位となる科目

(3) 成績の確認

年 2 回(4 月上旬・10 月上旬)、それまでに履修登録した授業科目の成績を「個別成績表」として各自に通知します。この個別成績表は再発行できないので、卒業まで大事に保管してください。各年度に渡された個別成績表(1 年～4 年次の成績)を自分自身で整理し、卒業資格を満たしているかどうか必ず確認してください。

個別成績表配布日から約 1 週間(4 年生の卒業判定時については、別途期間を設定)を経営学部開講科目(全学(教養)教育科目含む)の「成績確認期間」としています。直前学期の経営学部開講科目の成績に異議のある学生は、「履修科目成績確認願」を経営学務係に提出してください。「成績確認期間」終了後は、成績異議申し立て等は一切受け付けません。経営学部開講の全学(教養)教育科目一覧は掲示で確認してください。他学部開講の科目については、開講学部等の定めに従ってください。

成績訂正の対象となるのは、教員サイドの転記ミス並びに採点ミスのみであり、成績に関する嘆願は一切受け付けません。

なお、「卒業者名簿」は、卒業判定会議(3 月中旬)を経てから、学生掲示板に掲示します(電話・メール等での照会には応じません)。

2017年度以降入学者用
(一般プログラム学生対象)

III. 2017 年度以降入学生 <一般プログラム学生>

1. 卒業要件

- ① 経営学部にて4年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目および単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算 GPA(Grade Point Average)が 2.0 以上あること(GPA については8ページを参照)
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(経営学)」の学位を授与します。

(1) 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、全学教育科目(基礎科目、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、高度全学教育科目、外国語科目および健康スポーツ科目)および学部教育科目に区分します。

以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までにこれらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表(一般プログラム)

全学教育科目	基礎科目	人文社会系科目	4 単位以上	高度全学教育科目 から 3 年次以降に 4 単位以上【注 2】
		自然科学系科目 (うち統計科目は必修)【注 1】	4 単位以上 (2 単位必修)	
	グローバル教育科目		—	
	イノベーション教育科目		—	
	外国語科目	英語【注 3】	8 単位以上	
		英語以外の外国語	2 単位以上	
	健康スポーツ科目(選択科目)【注 4】		2 単位まで	
	自由選択科目		—	
計			34 単位以上	
学部教育科目	経営学リテラシー(必修科目)		4 単位	
	専門基礎科目(必修科目)		6 単位	
	専門基幹科目(選択必修科目)		12 単位以上	
	専門応用科目	グローバルビジネス分野	8 単位以上	
		法律科目	6 単位以上	
	ゼミナール 【注 6】	基礎ゼミナール【注 5】	2 単位	
		ゼミナール	8 単位	
	自由選択科目		—	
計			90 単位以上	
合 計			124 単位以上	

【注 1】全学教育科目の「統計学 I - A」は必修科目です。

【注 2】全学教育科目のうち、指定された科目の単位を3~4年次に修得した場合は、卒業にかかわる高度全学教育科目の単位数に算入することができます。(19 ページを参照)

(例) 3年次に基礎科目(人文社会系)の「英米文学」2単位を修得した場合は、「基礎科目(人文社会系科目)」および「高度全学教育科目」の両方の卒業にかかわる単位数に計上される。ただし、全学教育科目合計(34単位以上)および総合計(124単位以上)には2単位として計上される(4単位にはならない)。

【注 3】経営学部生の英語科目の履修基準は TOEFL スコアごとに異なります。(20 ページを参照)

【注 4】健康スポーツ科目の単位は 2 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注 5】基礎ゼミナールは 2 単位の選択科目で 2 年次秋学期に開講します。2 年次の春学期に行われるゼミナール加入ガイダンスにて提示される手引きを参考にして、履修してください。(31 ページを参照)

【注 6】ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は、学部教育科目から単位を修得してください。(31 ページを照)

(2) 1単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目 1 単位当たりの授業時間を次のとおり定めています。

講義(外国語科目を除く)、基礎ゼミナールおよびゼミナールⅠ・Ⅱ 15 時間

外国語科目、実験、実習 30 時間

講義、演習、実験、実習または実技のうち 2 つ以上の方法を併用する授業科目については、その組み合わせに応じ、別途時間数を定めます。なお、時間割上の 1 時限(90 分)は、2 時間として単位を計算します。

外国語科目を除く講義科目、ゼミナール等演習形式の科目の場合、1 週間に 1 時限の授業であれば、15 週で 2 単位になります。

(3) 9月卒業について

9 月卒業の要件は下記のとおりです。また、9 月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

<9 月卒業の要件>

以下の①～④全てを満たす者。

- ① 卒業認定の前年度までに卒業論文試験に合格していること
- ② 経営学部に 4 年 6 ヶ月以上在学していること(休学、停学期間※を除く) ※停学期間が 3 ヶ月を超える場合
- ③ 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目および単位数を修得していること
- ④ 卒業認定時に通算 GPA(Grade Point Average)が 2.0 以上あること

2. 全学教育科目

(1) 履修方法

全学教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『全学教育科目履修案内』に従ってください。
なお、全学教育科目は半期 12 単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません。(4ページを参照)

(2) 基礎科目の必修科目について

経営学部生は、「統計学Ⅰ－A」は必修科目です。また、「統計学Ⅱ－A」「微分積分Ⅰ・Ⅱ」「線形代数Ⅰ・Ⅱ」は経営学の学修に非常に重要であるため、履修奨励科目(※必修科目ではありません)としています。

(3) 全学教育科目一覧表

a. 基礎科目：人文社会系(4 単位以上)

(【高度】は高度全学教育科目)

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
哲学	2	【共通】	1～4	【高度】
宗教学	2	【共通】	1～4	【高度】
東洋思想史	2	【共通】	1～4	【高度】
現代芸術論	2	【共通】	1～4	【高度】
Cinema	2	教・済・営・理	1～4	【高度】
国際理解 芸術による社会変革ソーシャルインクルージョン入門	2	【共通】	1～4	【高度】
歌の魅力	2	【共通】	1～4	【高度】
音楽の基礎	2	【共通】	1～4	【高度】
民族音楽学入門	2	【共通】	1～4	【高度】
音楽と自然	2	【共通】	1～4	【高度】
美術の見かた	2	【共通】	1～4	【高度】
水彩画基礎技術	2	【共通】	1～4	【高度】
色彩論	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
基礎造形 B	2	【共通】	1～4	【高度】
日本の近代文学	2	【共通】	1～4	【高度】
中国の古典文学	2	【共通】	1～4	【高度】
英米文学	2	【共通】	1～4	【高度】
ヨーロッパ文学	2	【共通】	1～4	【高度】
日本の言語	2	【共通】	1～4	【高度】
国際理解 国際交流における日本語の役割	2	【共通】	1～4	【高度】
地誌学概論	2	【共通】	1～4	【高度】
日本近現代史	2	【共通】	1～4	【高度】
ヨーロッパ近現代史	2	【共通】	1～4	【高度】
古代ギリシアの神話と歴史	2	【共通】	1～4	【高度】
古代ローマの伝説と歴史	2	【共通】	1～4	【高度】
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	2	【共通】	1～4	【高度】
地域連携と都市再生 B(かながわ地域学)	2	教・済・営・理	1～4	【高度】 ※1
国際理解 日韓関係論	2	【共通】	1～4	【高度】
横浜学--地域の再発見--	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
文化人類学の考え方	2	【共通】	1～4	【高度】
国際理解 日中比較文化論	2	【共通】	1～4	【高度】
日本国憲法	2	【共通】	1～4	

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
現代と法	2	【共通】	1～4	
法学概論	2	【共通】	1～4	
法と人間	2	【共通】	1～4	
現代政治(日本)	2	【共通】	1～4	【高度】
現代政治(国際)	2	【共通】	1～4	【高度】
<良い議論>をするための法哲学	2	【共通】	1～4	【高度】
神奈川のみらい	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
経済学の諸課題 I	2	【共通】	1～4	【高度】
経済学の諸課題 II	2	【共通】	1～4	【高度】
社会科学概論 A	2	【共通】	1～4	【高度】
社会科学概論 B	2	【共通】	1～4	【高度】
社会科学の方法	2	【共通】	1～4	【高度】
社会科学の歴史	2	【共通】	1～4	【高度】
現代の経済 A	2	教・営・理・都	1～4	【高度】
現代の経済 B	2	教・営・理・都	1～4	【高度】
現代の経営	2	【共通】	1～4	
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	【共通】	1～4	※1
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	【共通】	1～4	
現代の物流経営	2	【共通】	1～4	※1
経営者の役割と従業員の役割	2	【共通】	1～4	【高度】
実践新商品企画	2	【共通】	1～4	【高度】
実践地域と起業	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
アントレプレナー入門	2	【共通】	1～4	【高度】
アート・マネジメント	2	【共通】	1～4	【高度】
心理学 A	2	【共通】	1～4	【高度】
心理学 B	2	【共通】	1～4	【高度】
障害と周辺領域 I	2	【共通】	1～4	【高度】
心理学史	2	【共通】	1～4	【高度】
社会心理学入門	2	【共通】	1～4	【高度】
人と動物の関係学	2	【共通】	1～4	【高度】
人と動物の幸せな共生を考える	2	【共通】	1～4	【高度】
教育学(教育と人間)	2	【共通】	1～4	【高度】
学校教育最前線	2	【共通】	1～4	【高度】
子どもの発達や課題の理解	2	【共通】	1～4	【高度】
職業と教育	2	【共通】	1～4	【高度】
家庭科で考えるこれからの人生	2	【共通】	1～4	【高度】
特別支援教育入門	2	【共通】	1～4	【高度】
日本語を教えよう	2	【共通】	1～4	【高度】
現代社会論	2	【共通】	1～4	【高度】
家族生活と法	2	【共通】	1～4	【高度】
戦争文化論	2	【共通】	1～4	【高度】
危機管理学	2	【共通】	1～4	【高度】
哲学 I	2	【共通】	1～4	
哲学 II	2	【共通】	1～4	
論理・倫理 I	2	【共通】	1～4	
論理・倫理 II	2	【共通】	1～4	
美学及び美術史 I	2	【共通】	1～4	
美学及び美術史 II	2	【共通】	1～4	

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
国語・国文学Ⅰ	2	【共通】	1～4	
国語・国文学Ⅱ	2	【共通】	1～4	
歴史Ⅰ	2	【共通】	1～4	
歴史Ⅱ	2	【共通】	1～4	
法学	2	【共通】	1～4	
社会科学概論Ⅰ	2	【共通】	1～4	
社会科学概論Ⅱ	2	【共通】	1～4	
経済Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済Ⅱ	2	【共通】	1～4	
心理学	2	【共通】	1～4	
社会学Ⅰ	2	【共通】	1～4	
社会学Ⅱ	2	【共通】	1～4	

※1 この科目は地域交流科目です。全学教育科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子を確認してください。

b. 基礎科目：自然科学系(4単位以上)

(【高度】は高度全学教育科目)

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
線形代数学入門	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
数学の見方	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
例からはじめる微分積分	2	【共通】	1～4	【高度】
微分積分Ⅰ	2	経営	1～4	
微分積分Ⅱ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅰ	2	経営	1～4	※2
線形代数Ⅱ	2	経営	1～4	※3
数理科学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
数理科学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
数理科学概論	2	【共通】	1～4	【高度】
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き A	1	【共通】	1～4	【高度】
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き B	1	【共通】	1～4	【高度】
トポロジー	2	【共通】	1～4	【高度】
コンピューターで学ぶ統計学A	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学B	2	【共通】	1～4	
統計学Ⅰ－A	2	教・済・営・社	1～4	※4
統計学Ⅱ－A	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界 A	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
物理の世界 B	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
体験物理科学 A	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
体験物理科学 B	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
物理工学概論	2	【共通】	1～4	【高度】
地球と惑星の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】
地球と惑星の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】
科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	2	【共通】	1～4	【高度】
基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
化学の世界 A(物質観としての化学)	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
化学の世界 B(生活の化学)	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
化学の世界 C(環境の化学)	2	教・済・営・社	1～4	【高度】
化学の世界 D(生命の化学)	2	教・済・営・社	1～4	【高度】 ※5

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
生物地理学入門	2	【共通】	1～4	【高度】
生命科学	2	【共通】	1～4	【高度】 ※5
生態工学	2	【共通】	1～4	【高度】
古生物の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】
古生物の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】
生物の世界Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】
生物の世界Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】
身近な電気と機械	2	【共通】	1～4	【高度】
科学技術史	2	【共通】	1～4	【高度】
海事技術史	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
物質工学と社会	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
材料学入門	2	【共通】	1～4	【高度】
エネルギー工学序論	2	【共通】	1～4	【高度】
機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1～4	【高度】
海洋工学と社会	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
土木史と文明Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】
土木史と文明Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】
国土学とグローバル社会Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】
国土学とグローバル社会Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	2	【共通】	1～4	【高度】
図形科学	2	【共通】	1～4	【高度】
POV-Ray で学ぶ はじめての 3DCG 制作	2	【共通】	1～4	【高度】
情報科学	2	済・営	1～4	【高度】
地球環境と情報	2	【共通】	1～4	【高度】
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	【共通】	1～4	【高度】
電子情報システム概論	2	【共通】	1～4	【高度】
情報工学概論	2	【共通】	1～4	【高度】
情報と社会	2	【共通】	1～4	【高度】
デジタルクリエイティブ基礎	2	【共通】	2～4	【高度】
情報セキュリティ入門	2	【共通】	1～4	【高度】
情報ネットワークシステム入門	2	【共通】	1～4	【高度】
プログラミングによる思考と表現の基礎	2	【共通】	1～4	【高度】
ICT ナレッジマネジメント・コラボレーション	2	【共通】	1～4	【高度】
環境化学概論	2	【共通】	1～4	【高度】
海洋地質学入門	2	【共通】	1～4	【高度】
エネルギーと環境	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
安全・環境と社会	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
建築の環境と防災	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
都市と建築	2	【共通】	1～4	【高度】
環境リスクとつきあうⅠ	1	【共通】	1～4	【高度】
環境リスクとつきあうⅡ	1	【共通】	1～4	【高度】
環境をめぐる諸問題Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】 ※1
環境をめぐる諸問題Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】 ※1
地域連携と都市再生 A(ヨコハマ地域学)	2	教・済・営・理	1～4	【高度】 ※1
応用気象学	2	【共通】	1～4	【高度】
地質リスクマネジメントⅠ	1	【共通】	1～4	【高度】
地質リスクマネジメントⅡ	1	【共通】	1～4	【高度】
居住環境論	2	【共通】	1～4	【高度】

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
食教育論	2	【共通】	1～4	【高度】
健康の科学	2	【共通】	1～4	【高度】
食育	2	【共通】	1～4	【高度】
研究開発論－大学・企業・イノベーション－	2	【共通】	2～4	【高度】
天才科学者列伝	2	【共通】	1～4	【高度】
2020年東京オリンピック・パラリンピックと共生社会	2	【共通】	1～4	【高度】
数学Ⅰ	2	済・営	1～4	※2
数学Ⅱ	2	済・営	1～4	※3
統計学Ⅰ－B	2	教・済・営・社	1～4	
統計学Ⅱ－B	2	教・済・営・社	1～4	
物理学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
物理学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
化学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
化学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	

※2 「線形代数Ⅰ」「数学Ⅰ」は、片方の科目のみ履修することができます。すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。

※3 「線形代数Ⅱ」「数学Ⅱ」は、片方の科目のみ履修することができます。すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。

※4 経営学部「経営学科」の必修科目です(社会人教育プログラムを除く)。

※5 「化学の世界D(生命の化学)」「生命科学」は、片方の科目のみ履修することができます。すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。

c. グローバル教育科目：世界事情科目

すべて高度全学教育科目になります。

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
台湾事情	2	【共通】	1～4	
韓国事情	2	【共通】	1～4	
ベトナム事情	2	【共通】	1～4	
インドネシア事情	1	【共通】	1～4	
ブラジル事情	2	【共通】	1～4	
パラグアイ事情	2	【共通】	1～4	
中国事情Ⅰ	1	【共通】	1～4	
中国事情Ⅱ	1	【共通】	1～4	
現場から考える国際開発協力：JICA 連携講座	2	【共通】	1～4	
グローバル・シティズンシップ	2	【共通】	1～4	
グローバル人材と国際協力：JICE 連携講座	2	【共通】	1～4	
日本事情 日本の就職事情	2	【共通】	1～4	※6
日本事情 日本の企業システム	2	【共通】	1～4	※6, ※7

※6 留学生のみ履修可能です。

※7 「日本の企業システム」(学部教育科目として認定する国際交流科目)との重複履修はできません。

d. グローバル教育科目：国際交流科目

単位を修得しても卒業資格外単位となる科目もあるので、不安な方は経営学務係で確認してください。

卒業資格外単位となる科目以外は、すべて高度全学教育科目になります。

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	2	【共通】	1～4	
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work	2	【共通】	2～4	
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career	2	【共通】	2～4	
Academic Presentation Skills	2	【共通】	2～4	
Business Presentation Skills	2	【共通】	2～4	
World Legal Systems and Management Philosophy	2	【共通】	2～4	
Arabic language and its Culture	2	【共通】	1～4	
Elements of Linguistic Knowledge	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture A	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture B	2	【共通】	1～4	
Multicultural Practice	2	【共通】	1～4	
Multiethnic Japan	2	【共通】	2～4	※8
Multiethnic Japan (Seminar)	1	【共通】	2～4	※8
Yokohama Studies	2	【共通】	2～4	※9
Yokohama Studies (Seminar)	1	【共通】	2～4	※9
Advertisement Art A	2	【共通】	1～4	
Advertisement Art B	2	【共通】	1～4	
Business Logics and Team Consensus	2	【共通】	1～4	
Business Problem Solving Logics and Framework	2	【共通】	1～4	
Business Planning with Accounting and Finance	2	【共通】	2～4	
Business with Accounting & Finance for Entrepreneurs-ST3	2	【共通】	1～4	
Business with Accounting & Finance for Entrepreneurs-SM	1	【共通】	1～4	
Global Leadership & its Communication-ST1	2	【共通】	1～4	
Global Leadership & its Communication-SM	1	【共通】	1～4	
Modeling with Statistics and Meta-Data	2	【共通】	2～4	
Business Planning and Proposal	2	【共通】	2～4	
Business Problem Solving and Project Management	2	【共通】	2～4	
Life-Long Planning and Global Career Design	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Empowerment for Team Building	2	【共通】	2～4	
Business Communication and Emotional Literacy	2	【共通】	1～4	
Business Planning with Intellectual Property	2	【共通】	2～4	
Plagiarism and its Regulations	2	【共通】	1～4	
ICT Literacy	2	【共通】	1～4	
ICT Project	2	【共通】	1～4	
Cyber Studies	2	【共通】	1～4	
Modeling with Calculus and Algebra	2	【共通】	1～4	
Advertisement Art A I (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art A II (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art B I (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art B II (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Multicultural Conferece C (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conferece D (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conferece A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	
Elements of Linguistic Knowledge #2	2	【共通】	1～4	
Collaborative Studies #2	2	【共通】	1～4	
Collaborative Studies #1	2	【共通】	1～4	
Collaborative Studies #3	2	【共通】	1～4	
Collaborative Studies #4	2	【共通】	1～4	
Collaborative Assistanship A	1	【共通】	1～4	
Collaborative Assistanship B	1	【共通】	2～4	
Collaborative Associateship A	1	【共通】	2～4	
Collaborative Associateship B	1	【共通】	2～4	
海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理Ⅱ	1	【共通】	1～4	
Practice in International DiplomacyⅠA	1	【共通】	1～4	
Practice in International DiplomacyⅠB	1	【共通】	1～4	
Practice in International DiplomacyⅡA	2	【共通】	1～4	
Practice in International DiplomacyⅡB	2	【共通】	1～4	
Transcultural Practice in OverseasⅠ	1	【共通】	1～4	
Transcultural Practice in OverseasⅡ	1	【共通】	1～4	
International VolunteerⅠ	1	【共通】	1～4	
International VolunteerⅡ	2	【共通】	1～4	

※8 「Multiethnic Japan」「Multiethnic Japan (Seminar)」は、同一学期内に同時履修することが必須です。

片方の科目だけを履修することはできません。

※9 「Yokohama Studies」「Yokohama Studies (Seminar)」は、同一学期内に同時履修することが必須です。

片方の科目だけを履修することはできません。

e. グローバル教育科目：海外研修

海外研修については、経営学部では卒業資格外単位となります。

f. イノベーション教育科目

（【高度】は高度全学教育科目）

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
生涯発達の特徴と課題	2	済・営・理・都	1～4	【高度】
現代社会と心理学	2	済・営・理・都	1～4	【高度】
ESD(持続可能な開発のための教育)と消費者教育	2	済・営・理・都	1～4	【高度】
Global Economy	2	【共通】	2～4	【高度】 ※10
都市科学 A(グローバル・ローカル)	2	教・済・営・理	1～4	【高度】
都市科学 B(リスク共生)	1	教・済・営・理	1～4	【高度】
都市科学 C(イノベーション)	1	教・済・営・理	1～4	【高度】
都市環境リスク共生論 A	1	教・済・営・理	2～4	【高度】
スキル向上につなげる「英語」	2	【共通】	1～4	【高度】
数理統計	2	【共通】	2～4	【高度】 ※10
システム・エンジニアリング	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
イノベーションと社会	2	【共通】	2～4	【高度】
知的財産法	2	【共通】	3～4	【高度】 ※10
国際イノベーションマネジメント論	2	【共通】	3～4	【高度】 ※10
技術経営論	2	【共通】	2～4	【高度】 ※10

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
知的財産権	2	教・済・営・社	2～4	【高度】
都市計画と交通	1	【共通】	2～4	【高度】
地域課題実習Ⅰ	1	【共通】	1～4	【高度】 ※1
地域課題実習Ⅱ	1	【共通】	1～4	【高度】 ※1
地域課題実習Ⅲ	1	【共通】	2～4	【高度】 ※1
地域課題実習Ⅳ	1	【共通】	2～4	【高度】 ※1
工業経営	2	【共通】	1～4	【高度】
Zero Carbon Yokohama ー文理融合・産官学民で考えるサステナビリティー	2	【共通】	1～4	【高度】
イノベーション・マネジメント概論	2	【共通】	2～4	【高度】
Wake up! プロジェクト	2	【共通】	1	
まなび座Ⅰ・校友会リレートーク	2	【共通】	1	
キャリアデザイン	2	【共通】	1～2	
グローバル化と日本人	2	【共通】	1～4	【高度】 ※1
ビジネス・コミュニケーション	2	【共通】	2～4	【高度】
まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2	【共通】	2～4	【高度】
キャリア・ケーススタディ	2	【共通】	2～4	【高度】
ライフキャリアを考える	2	【共通】	1～4	【高度】

※10 学部教育科目の同一名称科目との重複履修はできません。全学教育科目と学部教育科目では時間割コードが異なるので、履修計画を立てる際は注意してください。

g. 高度全学教育科目（3年次以降に4単位以上）

3～4年次に履修することにより、高度全学教育科目に認定される科目は以下のとおりです。ただし、卒業資格外単位となる科目は、高度全学教育科目として認定されませんので、注意してください。

（基礎科目 人文社会系）

経営学部開講科目以外の全ての科目を、高度全学教育科目に指定します。

2019年度の指定科目は、12 ページ～14 ページを参照してください。

（基礎科目 自然科学系）

経営学部開講科目、必修科目（統計学Ⅰ－A）、履修奨励科目（統計学Ⅱ－A、微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ）以外の全ての科目を、高度全学教育科目に指定します。

2019年度の指定科目は、14 ページ～16 ページを参照してください。

（グローバル教育科目）

グローバル教育科目で開講されている科目すべて。ただし、卒業資格外単位として認定される科目は対象外です。

（イノベーション教育科目）

イノベーション教育科目で開講されている科目。ただし、「キャリア形成実践知（領域）YNU ナンバリング 1000 番台の科目は1年次の履修を推奨するため、高度全学教育指定科目に含まれません。

※ナンバリングについては、『全学教育科目履修案内』を参照

【授業科目名変更・読替科目等に伴う重複履修禁止科目について】

次の表の「2019 年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

2019 年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
家族生活と法	社会生活と法 (2018)
化学の世界 D(生命の化学)	生命科学 (2018)
生命科学	化学の世界 D (生命の化学) (2018)
日本事情 日本の就職事情	日本事情 日本で働く (2017)
Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci (2017)
ESD(持続可能な開発のための教育)と消費者教育	ESD(持続可能な開発のための教育)入門 (2018)
	ESD(持続可能発展教育)入門 (2017)
生涯発達の特徴と課題	生涯発達論 (2018)
現代社会と心理学	心理学 B (2018)
Global Economy	Global Economy<経済学部教育科目> (2018)
数理統計	数理統計<経済学部教育科目> (2018)
知的財産法	知的財産法<経済学部教育科目> (2018)
国際イノベーションマネジメント論	国際イノベーションマネジメント論<経営学部教育科目> (2018)
技術経営論	技術経営論<経営学部教育科目> (2018)

(4) 健康スポーツ科目

「健康スポーツ演習 B」は 2 単位まで卒業資格にかかわる単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

受講を希望する者は、『全学教育科目履修案内』および掲示等で確認してください。履修定員を超えた場合は、抽選を行い掲示により抽選結果を発表します。

(5) 英語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業にかかわる全学教育科目の単位数に算入します。

経営学部の学生は以下の表を参照して履修計画を立ててください。

① 英語科目一覧

科目名	単位	履修年次	備考
英語プレゼンテーション	1	1 年次から履修	※全て必修
英語ライティング	1		
自立英語	1		
英語 LR	1		
英語演習 1a (ITP450 点)	2	2 年次から履修	※選択必修
英語演習 1b (ITP500 点)	2		
英語演習 1c (ITP520 点)	2		
経営英語演習 A	2	2 年次から履修	※選択必修
経営英語演習 B	2		

② 経営学部の英語演習科目の履修方法(社会人教育プログラムを除く)

経営学部の英語演習科目は、1 年次終了時の TOEFL-ITP スコアにより、2 年次以降に 2 科目(各 2 単位)を履修します。英語演習科目の履修登録は半期 2 単位までなので、注意してください。

「経営英語演習 A」「経営英語演習 B」は学部教育科目として開講されますが、全学教育科目の英語科目として読み替えますので、全学教育科目履修登録上限の半期 12 単位に含まれます。

【TOEFL－ITP スコア別履修科目】

・TOEFL－ITP450 点未満の学生

→「経営英語演習 A」および「経営英語演習 B」

※「経営英語演習 A」と「経営英語演習 B」の両方を履修する場合は、それぞれ別の教員を選択してください。

・TOEFL－ITP450 点以上 500 点未満の学生

→「英語演習 1a」および「経営英語演習 A・B」のいずれか1科目

・TOEFL－ITP500 点以上 520 点未満の学生

→「英語演習 1b」および「経営英語演習 A・B」のいずれか1科目

・TOEFL－ITP520 点以上の学生

→「英語演習 1c」および「経営英語演習 A・B」のいずれか1科目

【履修例 1】 春学期に「経営英語演習 A」を履修する学生は、秋学期に「経営英語演習 B」を履修する。

【履修例 2】 春学期に「経営英語演習 A」を履修する学生は、秋学期に「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」のいずれかを履修する。

【履修例 3】 秋学期に「経営英語演習 B」を履修する学生は、春学期に「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」のいずれかを履修する。

③ 英語演習に読み替え可能な全学教育科目について

TOEFL iBT スピーキング対策演習(夏季集中)	卒業にかかわる外国語の単位(英語演習)とすることができます。 読替申請等の手続きは必要ありません。
英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習(夏季集中)	

④ 「TOEFL, IELTS 等スコアによる単位認定」について

TOEFL、IELTS、TOEIC、英検において、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。スコアは申請月から遡って 12 ヶ月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、単位認定は1回限りとし、すでに単位を修得した科目がある場合は認定できません。

認 定 基 準	TOEFL(プレースメントテスト、英語統一テストを含む)iBT100 以上、ITP600 以上 IELTS 7.0 以上 TOEIC 880 以上 実用英語技能検定(英検) 1 級
単 位 認 定 科 目	1 年次科目の場合 : 自立英語、英語 LR、英語ライティング、英語プレゼンテーションの 4 科目 4 単位について「秀」を認定します。 2 年次科目の場合 : 経営英語演習 A または B の 1 科目 2 単位について「秀」を認定 します。
申 請 期 間	春学期または秋学期の履修登録期間中に、各実施団体の証明書の写し等を添えて申請し てください。

⑤ 留学生の英語 (日本語科目については 24 ページを参照)

【英語圏からの留学生】

ドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語※・ロシア語のうちから 1 言語を選択し 8 単位(実習 4 単位 + 演習 4 単位)を修得することで、卒業にかかわる英語(外国語科目)の単位に読み替えることができます。希望する学生は、履修登録前に経営学務係へ申請してください。

※朝鮮語は 2017 年度入学生までが対象の外国語です。

【英語圏以外からの留学生】

英語(外国語科目)8単位(実習4単位+演習4単位)を修得してください。

(6) 英語以外の外国語科目(初修外国語)

英語以外の外国語(初修外国語)は1言語2単位以上を2年次から履修し、修得する必要があります。

初修外国語科目は、「実習科目」および「演習科目」に区分して編成しています。

科目名	単位	履修学年
中国語実習1【注1】	1	2年次生から実習1→実習2→演習の順序で履修します。
中国語実習2【注1】	1	
中国語演習	2	
ドイツ語実習1【注2】	1	
ドイツ語実習2【注2】	1	
ドイツ語演習	2	
フランス語実習1【注2】	1	
フランス語実習2【注2】	1	
フランス語演習	2	
イスパニア語実習1	1	
イスパニア語実習2	1	
イスパニア語演習	2	
ロシア語実習1	1	2年次以上
ロシア語実習2	1	
ロシア語演習	2	
朝鮮語実習1	1	
朝鮮語実習2	1	
朝鮮語演習	2	
ギリシア語【注4】	1	
ラテン語【注4】	1	
日本語中級(留学生のみ)	1	日本語プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。
日本語上級(留学生のみ)	1	
日本語演習(留学生のみ)	2	

【注1】中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、事前の予備登録等が実施される場合があります。

【注2】ドイツ語とフランス語では、「実習1(会話)」「実習2(会話)」のセットを「実習1」「実習2」のセットに代替することができます。

【注3】朝鮮語は2017年度入学者までが対象の外国語です。

【注4】ギリシア語およびラテン語の単位を修得した場合は、卒業にかかわる外国語の単位には算入せず、卒業にかかわる全学教育科目の単位として算入されます。

① 実習科目

初修外国語実習科目は、言語ごとに「〇〇語実習1」「〇〇語実習2」の2科目を開設しています。

春学期に「実習1」、秋学期に「実習2」を履修します。「実習」は「1」「2」の二つを合わせて1年間で完結するような授業内容ですので、原則として、春学期・秋学期を通じて同じ曜日・時限の同じ教員の授業を履修してください。ただし、「実習1」の単位を修得できなかった場合は、その秋学期の「実習2」を履修することはできません。

なお、同一の初修外国語について、**「実習1」+「実習2」の【1セット2単位】で履修しなければ、卒業に必要な初修外国語の単位に算入することができません**ので、注意してください。

2年次履修である経営学部の場合は、1年次春学期(7月頃予定)に希望言語の履修希望調査を行います。詳しくは掲示を確認してください。

英語等での半年以上の海外留学を検討している場合は、1 年次に実習科目を週 1 クラス(通年で 2 単位)でも履修することができます。詳細は『全学教育科目履修案内』を確認してください。

② 演習科目

演習科目は、専門領域の研究や卒業後のキャリアのため、より高度な知識・教養を修得させる中級レベルの授業内容とし、毎週 1 回 1 時限(90 分授業で 2 時間換算)を 1 セメスター(学期 15 週)履修により 2 単位修得する科目であり、授業時間での演習に加え、授業時間外における多くの学修課題が実習科目以上に付与されることになります。

演習科目は、「〇〇語演習」「〇〇語発展演習」の 2 科目を開設します。これら演習科目を履修するためには、あらかじめ実習科目 4 科目 4 単位の修得が必要です。

演習科目は、授業内容や習熟度等がクラスによって異なりますので、WEB シラバスをよく確認し、自分にとって授業内容とレベルがあったクラスを履修してください。

なお、学部教育科目の時間割の関係、あるいは学びたい言語の開講クラスが少ない等の事情で、実習科目 4 科目 4 単位の履修が困難な場合、条件を満たせば「実習科目」を 4 単位修得していなくても、その言語の「演習科目」を履修することができる「スピード履修」という制度があります。希望する学生は、各学期の履修登録最終日の 1 週間前までに学生センター(学務部教育企画課)に申し出てください。

③ 実習科目のスキップ履修

本学に入学する前に初修外国語を学習した経験があるなど一定の条件を満たしている場合、初修レベルの「実習科目」を履修せずに、中級レベルの「演習科目」から「スキップ履修」することができます。希望する学生は、各学期の履修登録最終日の 1 週間前までに学生センター(学務部教育企画課)に申し出てください。

＜履修条件＞

- ① 当該外国語の初級課程を高校その他の教育機関などで学習したことがあり、証明する文書(成績証明書、履修証明書、検定合格証書等)が提出できる学生
- ② 大学入試センター試験で当該外国語を受験した学生
- ③ 当該外国語教育に関わる本学教員が実施する初級学力試験に合格した学生

④ 検定初修外国語科目

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。

認定された場合は、卒業にかかわる初修外国語の単位に読み替えることができます。

申請する場合は、「検定初修外国語申請書」および検定試験の証明書(本学入学後に取得したもので、かつ取得後 2 年以内のものに限る)を学生センター(学務部教育企画課)に提出してください。(申請書は経営学務係にあります。)なお、複数の外部検定試験のスコアを獲得しても、1 科目につき単位認定できるのは 1 回のみとなります。

授業科目名	単位	外部検定試験のスコア基準
検定ドイツ語	2	ドイツ語技能検定試験(ドイツ語学文学振興会)4 級合格、またはドイツ語検定試験(ゲーテ・インスティトゥート)A2 合格
検定フランス語	2	実用フランス語技能検定試験(フランス語教育振興協会)4 級合格、または DELF(フランス国民教育省フランス語学習資格)A2 合格
検定イスパニア語	2	スペイン語技能検定(スペイン語技能検定委員会)5 級合格、またはスペイン語認定証(セルバンテス文化センター東京)DELE A2 合格
検定ロシア語	2	ロシア語能力検定試験(ロシア語能力検定委員会/東京ロシア語学院)4 級合格
検定中国語	2	中国語検定(HSK)3 級合格、または中国語検定試験(日本中国語検定協会)準 4 級合格
検定朝鮮語	2	ハングル能力検定試験(ハングル能力検定協会)5 級合格、または韓国語能力検定(韓国教育財団)1 級合格

(7) 外国人留学生のための授業科目

全学教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

① 日本語科目

大学で学修するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目の単位は「卒業にかかわる英語以外の外国語の単位」として算入されます。その詳細は下の表の通りです。

代替できる外国語と単位	備考
日本語科目 6 単位 (実習科目 4 単位、演習科目 2 単位) を初修外国語の単位として読み替えることができる。	他の外国語を履修した場合でも、左記の日本語科目 6 単位は必修※

※日本語プレイスメントテストで中級と判断された経営学部留学生は、上記 6 単位に加え、「日本語中級」4 単位を履修しなければなりません。

すべての外国人留学生は入学時点で日本語プレイスメントテストを受け、日本語力のレベルによって中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では、1 年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので、注意してください。

中級者は、日本語実習科目のうち、1 年次春学期には日本語中級を履修してください。1 年次秋学期からは日本語上級と日本語演習を履修していきます。

上級者は日本語中級を履修することができません。1 年次春学期から日本語上級を履修してください。1 年次秋学期からは日本語演習も履修できます。

以下は日本語教育担当教員が勧める日本語科目の履修モデルですので、参考にしてください。

中級者	1 年次春学期 : 日本語中級 4 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 4 単位、日本語演習 2 単位	合計 10 単位
上級者	1 年次春学期 : 日本語上級 2 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 2 単位、日本語演習 2 単位	合計 6 単位

日本語科目一覧

	授業科目	セメスター	単位数	履修年次	備考
実習科目	日本語中級 A	春	1	1 年次	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。中級者は 1 年次春学期に履修してください。 ※日本語中級 G は 2 時限連続授業のため 2 単位です。
	日本語中級 C	春	1		
	日本語中級 D	春	1		
	日本語中級 E	春	1		
	日本語中級 F	春	1		
	日本語中級 G	春	2		
	日本語中級 H	春	1		
	日本語上級 A	春	1	1 年次～4 年次	中級者は 1 年次秋学期から履修できます。
	日本語上級 B	秋	1		
	日本語上級 D	秋	1		
	日本語上級 E	春	1		
	日本語上級 F	春	1		
	日本語上級 H	秋	1		
	日本語上級 I	春	1		
	日本語上級 J	秋	1		
	日本語上級 K	春	1		
	日本語上級 M	春	1		
	日本語上級 O	春	1		

授業科目		セメスター	単位数	履修年次	備考
演習科目	日本語演習 A	春	2	1 年次～4 年次	演習科目は1 年次秋学期から履修できます。
	日本語演習 B	秋	2		
	日本語演習 C	秋	2		

② 日本事情科目

日本事情科目はグローバル教育科目（世界事情）において開講します。開講科目は全学教育科目一覧表を参照してください。

3. 学部教育科目

(1) 履修方法

次の「学部教育科目履修基準表」により、「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業に必要な必修科目および選択必修科目を「学部教育科目一覧表」（26～29 ページを参照）で確認し、履修してください。

学部教育科目履修基準表（一般プログラム）

区分	学 科	経 営 学 科
専 門 基 礎 科 目 (すべて必修科目)		経営学概論 2 単位 会計学概論 2 単位 経営科学概論 2 単位
専 門 基 幹 科 目		12 単位以上選択必修
専 門 応 用 科 目		グローバルビジネス分野 8 単位以上 法律科目 6 単位以上
演 習 科 目	経営学リテラシー（必修科目）4 単位【注 1】	
	基礎ゼミナール 2 単位 ゼミナールⅠ 4 単位 ゼミナールⅡ 4 単位	ゼミナールに参加しない者、ゼミナールに参加しても単位を未修得の者は 10 単位、基礎ゼミナールのみ修得した者は 8 単位、基礎ゼミナールとゼミナールⅠを修得したものは 4 単位を学部教育科目から修得してください。
	自 由 選 択 科 目	経営学部で開講している学部教育科目、インターンシップ等から選択できます。
計		90 単位以上

【注1】必修科目の「経営学リテラシー」は、入学時にクラス分けを行います。詳細は掲示等でお知らせしますので、各自確認してください。

(2) 履修条件のある科目について

以下の学部教育科目は、前提科目となる学部教育科目または全学教育科目の単位を修得していなければ履修出来ません。

学部教育科目	前提となる学部教育科目
簿記論Ⅱ	簿記論Ⅰ
国際会計制度	会計学概論
English for Business	経営学概論
管理会計論Ⅱ	管理会計論Ⅰ
データ解析論	統計学Ⅰ－A・Ⅱ－A

（3）学部教育科目一覧表

< 専門基礎科目 >

以下の3つの科目はすべて必修科目です。

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
経営学概論	春	2	1～4	高井 文子	
会計学概論	春	2	1～4	大雄 智	
経営科学概論	春	2	1～4	郭 沛俊	

< 専門基幹科目 >

以下の科目から 12 単位以上修得しなければなりません。

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
経営戦略論	秋	2	1～4	高井 文子	
経営組織論	秋	2	1～4	佐々木 秀綱	
キャリア・マネジメント	春	2	1～4	二神 枝保	
簿記論Ⅰ	春	2	1～4	泉 宏之	
簿記論Ⅱ	秋	2	1～4	原 俊雄	
原価会計論	秋	2	1～4	高橋 賢	
ビジネス・エコノミクス	春	2	1～4	森田 洋	
経営情報論	春	2	1～4	佐藤 亮	
マーケティング論	秋	2	1～4	鶴見 裕之	
コーポレート・ファイナンス	秋	2	1～4	森田 洋	
言語コミュニケーション論	春	2	1～4	小林 正佳	

< 専門応用科目・マネジメント分野 >

（※は非常勤講師）

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
組織間関係論	春	2	2～4	ヘラー ダニエル	
現代コミュニケーション論	秋	2	2～4	中野 弘美	
人的資源管理論	秋	2	2～4	二神 枝保	
経営管理論	春	2	2～4	山岡 徹	
経営史	春	2	2～4	公文 蔵人	
雇用社会論	春	2	2～4	小川 慎一	
産業社会論	秋	2	2～4	小川 慎一	
企業環境マネジメント論	春	2	2～4	孫 穎	
経営行動科学	秋	2	2～4	正木 郁太郎 ※	
地域環境マネジメント論	秋	2	3～4	孫 穎	
イノベーション・マネジメント論	秋	2	2～4	貴志 奈央子	
産業分析	春	2	3～4	貴志 奈央子	
技術経営論	春	2	2～4	真鍋 誠司	【注 1】
金融システム論Ⅰ	春	2	2～4	高橋 正彦 ※	
金融システム論Ⅱ	秋	2	2～4	高橋 正彦 ※	
比較経営史	秋	2	2～4	青木 洋	

【注 1】 全学教育科目の同一名称科目との重複履修はできません。全学教育科目と学部教育科目では時間割コードが異なるので、履修計画を立てる際は注意してください。

＜専門応用科目・アカウンティング分野＞

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員等	備考
財務会計論Ⅰ	春	2	2～4	木村 晃久	
財務会計論Ⅱ	秋	2	2～4	木村 晃久	
管理会計論Ⅰ	春	2	2～4	中村 博之	
管理会計論Ⅱ	秋	2	2～4	中村 博之	
監査論	春	2	2～4	前山 政之	
監査制度論	秋	2	2～4	前山 政之	
政府・非営利会計論	秋	2	2～4	齋藤 真哉	
税務会計論	春	2	2～4	藤井 誠 ※	
生態会計論	春	2	2～4	八木 裕之	
マクロ会計論	秋	2	2～4	大森 明	
財務分析論		2	3～4	休講	
戦略会計論	秋	2	3～4	高橋 賢	

＜専門応用科目・マネジメント・サイエンス分野＞

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員等	備考
意思決定論	春	2	2～4	郭 沛俊	
オペレーションズ・リサーチ	春	2	2～4	成島 康史 ※	
消費者行動論	春	2	2～4	寺本 高	
マーケティング・サイエンス	春	2	2～4	本橋 永至	
流通論	秋	2	2～4	鶴見 裕之	
経営数学		2	2～4	休講	
ファイナンス・リスク・マネジメント		2	2～4	休講	
ビジネスゲーム	春	2	3～4	田名部 元成	
情報システムとイノベーション	秋	2	3～4	田名部 元成	
Operations Management	春	2	3～4	松井 美樹	

＜専門応用科目・グローバルビジネス分野＞

以下の科目から 8 単位以上修得しなければなりません。

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員等	備考
国際経営論Ⅰ	春	2	3～4	河野 英子	
国際経営論Ⅱ	秋	2	3～4	河野 英子	
国際人的資源管理論	春	2	3～4	柴田 裕通	
国際イノベーション・マネジメント論	秋	2	3～4	高田 直樹 ※	【注 1】
国際会計制度	春	2	3～4	高須 悠介	
国際市場戦略論	春	2	3～4	谷地 弘安	
国際経営史	秋	2	3～4	竹内 竜介	
Business Reading	春	2	3～4	中野 弘美	
Business Reading	秋	2	3～4	中野 弘美	
International Business	秋	2	3～4	横澤 公道	
English for Business	秋	2	3～4	小林 正佳	
City Marketing and Tourism	秋	2	3～4	ミハイル マリノフ ※	

＜専門応用科目・法律科目＞

経営学部開講の法律科目および経済学部開講専門応用科目の法律科目から、6 単位以上修得しなければなりません。経営学部開講の全ての法律関係授業科目は、経済学部と共同で開講しています。どちらの学部の科目も同一科目・同一名称なので、経営学部の科目(時間割コードが3で始まる科目)で履修登録をしてください。

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	備考
憲法	春	2	2～4	御幸 聖樹	
行政法	春	2	3～4	友岡 史仁 ※	
人・物と法	春	2	2～4	宮澤 俊昭	
取引と法	秋	2	2～4	今村 与一	
契約と法	秋	2	2～4	渡邊 拓	
家族と法	春	2	3～4	常岡 史子	
商法Ⅰ	春	2	3～4	竹内 明世 ※	
商法Ⅱ	秋	2	3～4	竹内 明世 ※	
有価証券法	秋	2	3～4	笹岡 愛美	
裁判法		2	3～4	休講	

＜実践科目等＞

(※は非常勤講師)

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	備考
特殊講義	グローバルビジネス実践論	秋	2	2～4	関 仁 ※	
	ホスピタリティ・マネジメント	秋	2	2～4	森田 洋	【注2】 【注3】
	Hospitality Management					
	実務家が説く会計・監査・税務の最新事情	秋	2	2～4	木村 晃久	【注2】
	税理士による大学生のための租税法講義	春	2	2～4	原 俊雄	【注2】
	マーケティング・プラクティス	春	2	2～4	伊藤 淳司 ※	
	マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1～4	井上 徹 伊藤 淳司 ※	
	社会における実践体験－富丘会メッセージー	春	2	2～4	石原 健一 ※	
	金融システムと金融機関 (ニッセイアセットマネジメント寄附講座)	秋	2	2～4	伊藤 有希 有江 慎一郎 ※	【注2】
	アジアグローバル経営基礎	秋	2	2～4	国際交流委員長	
	Electric Vehicles and Corporate Strategy	秋	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	
	The Business of Mobility	春	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	
	横浜 DeNA ベイスターズスポーツ経営論		2	2～4		【注2】 別途揭示
	ビジネス慣行に学ぶ東南アジア諸国の本質	秋	2	2～4	森田 洋	【注2】
	International Business Accounting and Reporting - Intermediate	秋	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	
	Basics of Business Accounting	春	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	
	Basics of Business Accounting	秋	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	
	International Management and Strategy	秋	2	1～4	シング マヘンデラ ※	

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	備考
特殊講義	Technology Enabled Business	秋	2	1～4	シング マヘンデラ ※	
	特殊講義東京証券取引所連携講座 ファイナンシャルマーケット・ストラクチャー	秋	2	2～4	石田 慈宏 ※	【注 2】
	銀行論 横浜銀行連携講座	春	2	2～4	森田 洋	【注 2】
	ハイパフォーマンス企業研究 アクセシビリティ連携講座	春	2	2～4	関根 幸児 ※ 高橋 康文 ※	【注 2】
	ソーシャルマネジメント論 富士ゼロックス連携講座	春	2	2～4	林田 昌也	【注 2】
英語	経営英語演習A	春	2	2～4	掛川 啓子 ※	【注 4】
	経営英語演習A	春	2	2～4	白井 明 ※	【注 4】
	経営英語演習B	秋	2	2～4	掛川 啓子 ※	【注 4】
	経営英語演習B	秋	2	2～4	白井 明 ※	【注 4】
インターシップ	インターンシップ	[90 ページを参照してください]				
海外研修	英語討論(ベトナム)	秋	2	1～4	国際交流委員長	別途掲示
	英語討論(豪州)	春	2	1～3	国際交流委員長	別途掲示

【注 2】 民間企業等との連携講義のため、必ずしも毎年開講するとは限りません。履修計画を立てる際は留意してください。

【注 3】 「ホスピタリティ・マネジメント」と「Hospitality Management」は同一科目で同一曜日・時限に開講されますが、クラス分けを行います。日本語名称科目の時間割コードで履修登録した場合は日本語で行うクラスを、英語名称科目の時間割コードで履修登録した場合は英語で行うクラスを受講します。また、「ホスピタリティ・マネジメント」と「Hospitality Management」を重複して履修することはできません。

【注 4】 「経営英語演習 A・B」の単位は、全学教育科目の「英語科目」の単位に算入されます。

4. 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち次の表にある科目の単位を修得した場合は、最大 60 単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業にかかわる単位数に算入します。

それぞれの上限単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および卒業認定時に減算するので注意してください。

なお、修得した単位の取扱いについては、a～g のとおりです。

① 経済学部学部教育科目 ≤ 8 単位	} ①+②+③+④+⑤+⑥ ≤ 60 単位
② 経済学部法律関係授業科目 ≤ 6 単位	
③ 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ≤ 8 単位	
④ 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)認定科目 ≤ 8 単位	
⑤ 学部教育科目として認定される国際交流科目 ≤ 8 単位	
⑥ 交換留学(派遣)・休学中の留学による単位認定 ≤ 60 単位	

※ただし、入学前の既修得単位が本学の単位として認定された学生については、その認定単位数(最大 30 単位)を上限 60 単位から控除します。

a. 経済学部開講科目

- ① 経済学部の学部教育科目は、8 単位まで卒業にかかわる学部教育科目(自由選択科目)の単位数に算入します。ただし、ゼミナール等相互履修できない科目もありますので時間割表や掲示を確認してください。
- ② 成績は GPA に算定します。
- ③ 法律関係授業科目の単位の取り扱い
経済学部の法律関係授業科目を履修することができます。修得した単位のうち 6 単位までは上記①の 8 単位とは別に、学部教育科目履修基準表に規定する法律科目の単位数に算入します。法律科目の修得単数が 6 単位を超えた場合のみ、その超過分を上記①の単位数に算入します。
経営学部開講の全ての法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講しています。どちらの学部の科目も同一名称の同一科目なので、経営学部の科目(時間割コードが 3 で始まる)で履修登録するよう注意してください。
- ④ 経営学部生が履修できる経済学部学部教育科目(法律科目を含む)は、配布する時間割表に記載しています。

b. 教育学部、理工学部および都市科学部開講科目

教育学部、理工学部および都市科学部で開講される学部教育科目のうち、一部の科目を履修することができます。ただし、それらの科目の単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績も GPA に算定しません。履修希望者は経営学務係へ相談してください。

c. 地域交流科目

地域の課題解決を担う人材を、実践的に育てることを目的として開設しています。「副専攻プログラム」のひとつです。詳細は、「地域交流科目シラバス」を参照してください。

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

本学大学院国際社会科学府経営学専攻博士課程前期の開講科目を履修することができます。履修を希望する学生は、履修登録前に経営学務係に履修希望届を提出してください。

- ① 提供科目は原則として、社会人専修コース(ビジネス・スクール)を除くすべての開講科目です。
- ② 履修年次は 4 年次のみです。
- ③ 履修の可否は科目担当教員により決定されます。
- ④ 本人の申し出により、8 単位まで卒業にかかわる単位数に算入することができます。
- ⑤ 成績は GPA に算定しません。
- ⑥ 学部の卒業にかかわる単位数に算入せず、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期に進学した場合は、本人の申し出により、8 単位まで修了にかかわる単位数に算入することができます。

e. 横浜市内大学間単位互換制度(放送大学含む)

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある 12 の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、学部教育科目のみです。
- ② 8 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。
- ③ 成績は GPA に算定しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。

- ⑤ 単位認定は科目の内容および成績に基づいて、経営学部で行います。
※全ての科目が認定されるわけではありません。不安な方は経営学務係までお問い合わせ下さい。
- ⑥ 履修希望者は学務部教育企画課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務部教育企画課へ申請してください。
※放送大学の申請手続きは横浜市内大学間の手続きとは異なります。掲示で確認して下さい。
- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、学務部教育企画課より履修希望者に通知します。

f. 国際交流科目

国際交流科目は国際交流科目の時間割コードを用いて履修登録をしますが、単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績は GPA には算定しないので気を付けてください。

ただし、経営学部学部教育科目として認定する科目は、8 単位を上限として卒業にかかわる単位数に算入します。

2019 年度の認定科目は下記のとおりです。

(※は非常勤講師)

科目名	学期	単位	履修年次	担当教員	備考
日本の経営	春	2	1～4	ミハイル マリノフ ※	成績は GPA に算定しません。
日本型生産管理	春	2	1～4	松井 美樹	
日本の企業システム【注 1】	春	2	1～4	長谷川 健治	

※修得単位数が 8 単位を超えた場合は、卒業論文資格認定および卒業認定時に減算するので、注意してください。

【注 1】「日本事情 日本の企業システム」(全学教育科目)との重複履修はできません。

g. 留学による単位認定

交換留学(派遣)制度および休学期間中に外国の大学または短期大学において履修し単位を修得した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位を認定します。単位の認定方法は 94 ページを参照してください。

5. ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールへの参加は教員の承認を得る必要があります。ゼミナールⅠは基礎ゼミナール、ゼミナールⅡはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 選考・開始時期

ゼミナールの選考は原則として 2 年次春学期に行います。基礎ゼミナールは 2 年次秋学期、ゼミナールⅠは 3 年次、ゼミナールⅡは 4 年次から開始します。また、原則として同一教員のゼミナールに参加することになります。

③ 定員

各ゼミナールとも 1 学年につき 12 名程度とします。(ただし、交換留学(派遣)決定者は定員外とすることができます。)

④ 単位数

基礎ゼミナールの単位数は 2 単位、ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各 4 単位の選択科目です。基礎ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は 10 単位、基礎ゼミナールのみ単位を修得した場合は 8 単位、基礎ゼミナールおよびゼミナールⅠの単位を修得した場合は 4 単位を学部教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名および辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、指導教員は教授会の承認を得た上で学生をゼミナールから除名することができます。

ただし、学生が辞退を申し出たときは、指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず経営学務係へ申し出てください。

6. 卒業論文試験

① 時期

4 年次秋学期

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、3 年を超えて在学(休学や 3 か月を超える停学期間等は除く)し、ゼミナールの単位を除く、卒業にかかわる学部教育科目の単位を 48 単位以上修得済みで、かつ通算 GPA が 2.0 以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年(4 年次に受験の場合は 3 年次)秋学期までの成績で資格の有無が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の学部教育科目の小計からゼミナールの単位と経済学部教育科目など、卒業にかかわる単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位や、卒業資格外単位を減算して、資格の認定を行います。

6 月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

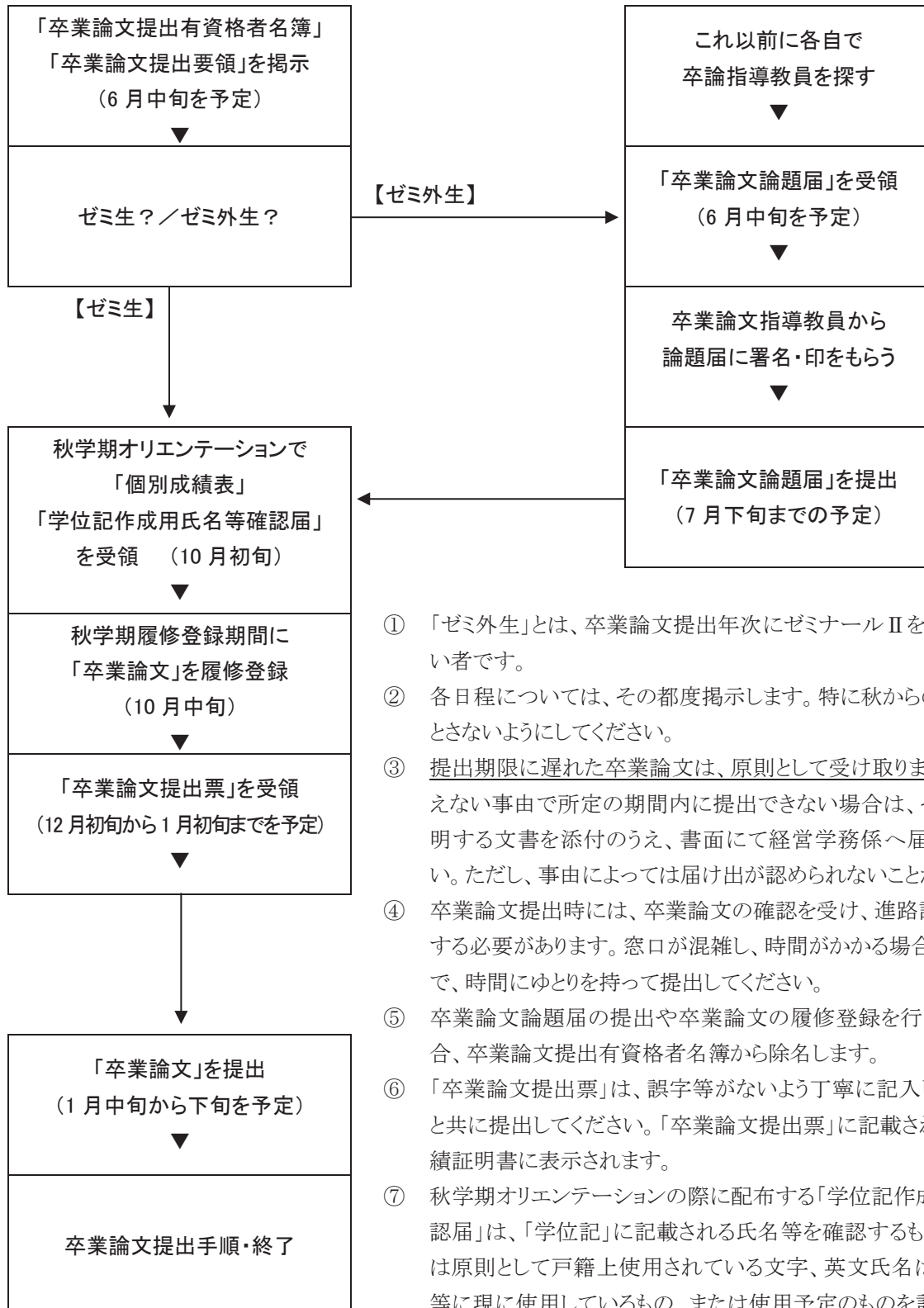
③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の 7 月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し(経営学務係では斡旋しません)、「卒業論文論題届」を経営学務係へ届け出てください(詳細は 6 月中旬に掲示します)。届け出なかった場合は、卒業論文有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

次ページ「卒業論文提出の流れ図」を参照してください。

＜卒業論文提出手順の流れ図＞



- ① 「ゼミ外生」とは、卒業論文提出年次にゼミナールⅡを履修していない者です。
- ② 各日程については、その都度掲示します。特に秋からの掲示を見落とさないようにしてください。
- ③ 提出期限に遅れた卒業論文は、原則として受け取りません。やむをえない事由で所定の期間内に提出できない場合は、その理由を証明する文書を添付のうえ、書面にて経営学務係へ届け出てください。ただし、事由によっては届け出が認められないことがあります。
- ④ 卒業論文提出時には、卒業論文の確認を受け、進路調査票を提出する必要があります。窓口が混雑し、時間がかかる場合がありますので、時間にゆとりを持って提出してください。
- ⑤ 卒業論文論題届の提出や卒業論文の履修登録を行わなかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。
- ⑥ 「卒業論文提出票」は、誤字等がないよう丁寧に記入して卒業論文と共に提出してください。「卒業論文提出票」に記載された論題は成績証明書に表示されます。
- ⑦ 秋学期オリエンテーションの際に配布する「学位記作成用氏名等確認届」は、「学位記」に記載される氏名等を確認するものです。氏名は原則として戸籍上使用されている文字、英文氏名は、パスポート等に現に使用しているもの、または使用予定のものを記入してください。

履修モデル(1) マネジメントとアカウンティング

教育への社会的ニーズ・育成する人材

社会的ニーズ: グローバル化が日常となった今日、企業を取り巻く環境は激変しており、経営戦略の策定、実行という視点と、それを画餅で終わらせないように経営活動の PDCA サイクルの実施をデータで支援するための管理会計という視点の両者の融合が求められている。

人材: 客観的データに基づいた解析能力を持ちつつ、戦略、事業計画の策定、実行、評価ができる人材。

科目群		学部教育科目 90 単位以上						
卒業 124 単位以上	全学教育科目 34 単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	専門応用科目				演習科目
				【マネジメント分野】	【アカウンティング分野】	【グローバルビジネス分野】	【法律科目】	
1 年次	英語(4) 統計学 I -A(2)	経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2)	キャリア・マネジメント(2) 簿記論 I (2) 経営情報論(2)					経営学リテラシー(4)
2 年次	英語(4) 初修外国語(2)		経営戦略論(2) 経営組織論(2) 原価会計論(2)	経営管理論(2) 経営史(2) イノベーション・マネジメント論(2)	管理会計論 I (2) 管理会計論 II (2)		取引と法(2)	基礎ゼミナール(2)
3 年次	高度全学教育科目			企業環境マネジメント論(2) 経営行動科学(2)	財務会計論 I (2) 財務分析論(2)	国際経営論 I (2) 国際経営論 II (2)	契約と法(2)	ゼミナール I (4)
4 年次					戦略会計論(2)	国際会計制度(2) International Business(2)	商法 I (2)	ゼミナール II (4)
卒業論文題目		サービス業におけるバランス・スコア・カードの効果に関する実証研究						
卒業後のキャリア・イメージ		製造業・サービス業の経営企画部門・コストマネジメント部門, コンサルティング						

履修モデル(2) アカウンティングとマネジメント・サイエンス

教育への社会的ニーズ・育成する人材

社会的ニーズ: グローバルスタンダードが確立された財務会計, 企業財務はいまやグローバル企業の財務セクションで働くビジネスパーソンに必須の知識であり, 学術的知識を身に付け, グローバルな企業が直面する財務的諸問題を発見・解決する能力を持つことが重要になっている。

人材: 国際会計基準, 財務分析手法を理解し, グローバルな企業に求められる財務的諸問題を発見, 解決できる人材。

科目群		学部教育科目 90 単位以上						
卒業 124 単位以上	全学教育科目 34 単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	専門応用科目				演習科目
				【アカウンティング分野】	【マネジメント・サイエンス分野】	【グローバルビジネス分野】	【法律科目】	
1 年次	英語(4) 統計学 I -A(2)	経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2)	簿記論 I (2) ビジネス・エコノミクス(2) 経営情報論(2)					経営学リテラシー(4)
2 年次	英語(4) 初修外国語(2)		経営戦略論(2) 原価会計論(2) コーポレート・ファイナンス(2)	財務会計論 I (2) 財務会計論 II (2)	意思決定論(2) オペレーションズ・リサーチ(2) 経営数学(2)			基礎ゼミナール(2)
3 年次	高度全学教育科目			マクロ会計論(2) 財務分析論(2) 監査論(2)	ファイナンス・リスク・マネジメント(2) 情報システムとイノベーション(2)	国際経営論 I (2) 国際会計制度(2)	商法 I (2) 商法 II (2)	ゼミナール I (4)
4 年次					Operations Management(2)	国際経営史(2) 国際市場戦略論(2)	有価証券法(2)	ゼミナール II (4)
卒業論文題目		日本の in-out 型 M&A 固有の財務的問題と解決策 ー外国企業買収におけるシナジー創出の問題についてー						
卒業後のキャリア・イメージ		製造業の財務部門, 金融機関(特に投資銀行部門)						

履修モデル(3) マネジメントとマネジメント・サイエンス

教育への社会的ニーズ・育成する人材

社会的ニーズ: グローバルなスケールでの企業間競争が激化しつつある今日、国際経営的観点から顧客価値創造の戦略を立案するとともに、異文化圏における人材マネジメントを効果的に実践することを通じて、企業の国際競争力の構築に貢献できるようになることが求められている。

人材: 客観的データに基づいたマーケットの解析能力を持ちつつ、異文化圏でのビジネス展開を踏まえた人材マネジメントを実践できる人材。

科目群		学部教育科目 90 単位以上						
卒業 124 単位以上	全学教育科目 34 単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	専門応用科目				演習科目
				【マネジメント分野】	【マネジメント・サイエンス分野】	【グローバルビジネス分野】	【法律科目】	
1 年次	英語(4) 統計学Ⅰ-A(2)	経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2)	キャリア・マネジメント(2) ビジネス・エコノミクス(2) 経営情報論(2)					経営学リテラシー(4)
2 年次	英語(4) 初修外国語(2)		経営戦略論(2) 経営組織論(2) マーケティング論(2)	人的資源管理論(2) 雇用社会論(2) 経営行動科学(2)	消費者行動論(2) マーケティング・サイエンス(2)		人・物と法(2)	基礎ゼミナール(2)
3 年次	高度全学教育科目			イノベーション・マネジメント論(2) 産業分析(2)	意思決定論(2) 流通論(2)	国際人的資源管理論(2) 国際イノベーション・マネジメント(2)	取引と法(2)	ゼミナールⅠ(4)
4 年次					ビジネスゲーム(2)	国際市場戦略論(2) City Marketing and Tourism(2)	商法Ⅰ(2)	ゼミナールⅡ(4)
卒業論文題目		新興市場におけるマーケティング戦略の展開と現地人材のマネジメントに関する実証的研究						
卒業後のキャリア・イメージ		マーケティング部門, 人材開発部門, 製造業・サービス業の経営企画部門						

【全学教育科目】

項目・科目名等			チェック欄	修 得 単位数	必要・上限 単位数	高度全学 教育科目 ※5
基礎科目	人文社会系				4単位以上	〔3年次以降に 4単位以上〕
	自然科学系 ※1	統計学Ⅰ－A（必修科目）			4単位以上	
		その他自然科学系科目				
グローバル教育科目					－	
イノベーション教育科目					－	
英語	全員対象	英語プレゼンテーション			8単位	
		英語ライティング				
		英語 LR				
		自立英語				
	TOEFL-ITP450 点 未満対象	経営英語演習 A ※2				
		経営英語演習 B ※2				
	TOEFL-ITP450 点 以上対象	英語演習1 ※3				
		経営英語演習 （A, Bのいずれか） ※2				
英語以外の外国語				2単位		
健康スポーツ科目（選択科目） ※4				2単位まで		
合計①					34単位以上	

※1 自然科学系は統計学の単位数を含む

※2 経営英語演習 A・B は学部教育科目として開講しますが、全学教育科目の英語の単位に振り替えられます。

※3 英語演習1 (TOEFL-ITP450 点以上)は、TEOFL-ITP のスコアに応じて、英語演習1a～1c いずれか 1 科目が必修となります。

※4 健康スポーツ科目は2単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。2単位を超えて卒業にかかわる単位数に算入することはできません。

※5 高度全学教育科目は、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、学部指定基礎科目の中から3年次以降に4単位以上修得する必要があります。

【学部教育科目】

項目・科目名等			チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数
必修科目	経営学リテラシー				4単位
	専門基礎科目	経営学概論			6単位
		会計学概論			
		経営科学概論			
選択必修	専門基幹科目				12単位以上
	専門応用科目	グローバルビジネス分野			8単位以上
		法律科目（経営学部開講法律科目）			6単位以上
		その他専門応用科目			－
自由選択	海外学修科目				－
	実践科目	インターンシップ			合計6単位まで
		海外インターンシップ			
		特殊講義			－
	その他科目 ※2	経済学部開講 法律科目 ※1			6単位まで
		経済学部開講 学部教育科目			8単位まで
		国際社会科学府 経営学専攻博士課程前期開講科目			8単位まで
		横浜市内大学間単位互換（放送大学含む）			8単位まで
		国際交流科目			8単位まで
ゼミナール	基礎ゼミナール				最大10単位
	ゼミナールⅠ				
	ゼミナールⅡ				
合計②					90単位以上
合計①＋②					124単位以上

※1 経済学部開講 法律関係科目について

この科目の単位は、6 単位まで選択必修科目の法律科目として算入できます。6 単位を超えて修得した単位は、経済・学部教育科目として算入することができます。ただし、経済・学部教育科目には上限が設定されていますで、8 単位を超えて算入することができません。

(例)法律関係科目 8 単位 ＋ 学部教育科目 6 単位 → 法律関係科目として 6 単位、学部教育科目として 8 単位を卒業にかかわる単位数に参入できる

(例)法律関係科目 8 単位 ＋ 学部教育科目 8 単位 → 法律関係科目として 6 単位、学部教育科目として 8 単位を卒業にかかわる単位数に算入し、法律関係科目として修得した残り 2 単位は卒業資格外とする

※2 その他科目について

経済学部開講法律関係科目 ＋ 経済学部開講学部教育科目 ＋ 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ＋ 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む) ＋ 学部教育科目として認定される国際交流科目 ＋留学認定科目 ≤ 60 単位

という上限があります。合計 60 単位を超えて卒業にかかわる単位数に算入することができませんのでご注意ください。

(但し、入学前の既修得単位が本学の単位として認定された学生については、その単位数を 60 単位から控除します。)

2017年度以降入学者用 (GBEEP学生対象)

IV. 2017 年度以降入学生 <GBEEP 学生>

1. 卒業要件

- ① 経営学部にて 4 年以上在学していること
 - ② 卒業資格基準表に定められた授業科目および単位数を修得すること
 - ③ 卒業認定時に通算 GPA (Grade Point Average) が 2.0 以上あること (GPA については 8 ページを参照)
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(経営学)」の学位を授与します。

※卒業時に副専攻プログラムとして、「Global Business and Economics 教育プログラム(主専攻:経営学、副専攻:経済学)」の修了証書を授与します。

(1) 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、全学教育科目(基礎科目、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、高度全学教育科目、外国語科目および健康スポーツ科目)および学部教育科目に区分します。

以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までにこれらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表(GBEEP)

全学教育科目	基礎科目	人文社会系科目	4 単位以上	高度全学教育科目 から 3 年次以降に 4 単位以上【注 2】
		自然科学系科目 (うち統計科目は必修)【注 1】	4 単位以上 (2 単位必修)	
	グローバル教育科目		—	
	イノベーション教育科目		—	
	外国語科目	英語【注 3】	8 単位以上	
		英語以外の外国語	2 単位以上	
	健康スポーツ科目(選択科目)【注 4】		2 単位まで	
	自由選択科目		—	
計			34 単位以上	
学部教育科目	経営学リテラシー(必修科目)		4 単位	
	専門基礎科目 (選択必修)	・経営系 4 単位以上 ・経済系 4 単位以上	8 単位以上	
	専門基幹科目 (選択必修)	・経営系 8 単位以上 ・経済系 8 単位以上	16 単位以上	
	専門応用科目 (選択必修)	・経営系 32 単位以上 ・経済系(専門応用科目Ⅰ・Ⅱ) 12 単位以上	44 単位以上	
	海外学修科目(選択必修)		2 単位以上	
	Global Business and Economics(GBE)科目群 (選択必修)【注 5】		10 単位以上	
	ゼミナール 【注 7】	基礎ゼミナール【注 6】	2 単位	
		ゼミナール	8 単位	
	自由選択科目		—	
	計			98 単位以上
合 計			132 単位以上	

【注 1】全学教育科目の「統計学Ⅰ－A」は必修科目です。

【注 2】全学教育科目のうち、指定された科目の単位を 3～4 年次に修得した場合は、卒業にかかわる高度全学教育科目の単位数に算入することができます。(19 ページを参照)

(例) 3 年次に基礎科目(人文社会系)の「英米文学」2 単位を修得した場合は、「基礎科目(人文社会系科目)」および「高度全学教育科目」の両方の卒業にかかわる単位数に計上される。ただし、全学教育科目合計(34 単位以上)および総合計(132 単位以上)には 2 単位として計上される(4 単位にはならない)。

【注 3】経営学部生の英語科目の履修基準は TOEFL スコアごとに異なります。(20 ページを参照)

【注 4】健康スポーツ科目の単位は 2 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注 5】10 単位を超えて単位を修得した場合は、42 ページから 48 ページの学部教育科目一覧表の区分に基づき超過した分の単位をそれぞれの区分に振り替えます。

【注 6】基礎ゼミナールは 2 単位の選択科目で 2 年次秋学期に開講します。2 年次の春学期に行われるゼミナール加入ガイダンスにて提示される手引きを参考にして、履修してください。(31 ページを参照)

【注 7】ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は、学部教育科目から単位を修得してください。(31 ページを参照)

(2) 1 単位当たりの授業時間

一般プログラムと同様です。(11 ページを参照)

(3) 9 月卒業について

9 月卒業の要件は下記のとおりです。9 月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

<9 月卒業の要件>

以下の①～③全てを満たす者。

- ① 経営学部にて 4 年 6 ヶ月以上在学していること(休学、停学期間※を除く) ※停学期間が 3 ヶ月を超える場合
- ② 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目および単位数を修得していること
- ③ 卒業認定時に通算 GPA (Grade Point Average) が 2.0 以上あること

2. 全学教育科目

(1) 履修方法

全学教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『全学教育科目履修案内』に従ってください。なお、全学教育科目は半期 12 単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません。(4 ページを参照)

(2) 基礎科目の必修科目について

経営学部生は、「統計学Ⅰ－A」は必修科目です。また、「統計学Ⅱ－A」「微分積分Ⅰ・Ⅱ」「線形代数Ⅰ・Ⅱ」は経営学の学修に非常に重要であるため、履修奨励科目(※必修科目ではありません)としています。

(3) 全学教育科目一覧表

a. 基礎科目:人文社会系(4単位以上)

一般プログラムと同様です。(12 ページを参照)

b. 基礎科目:自然科学系(4単位以上)

一般プログラムと同様です。(14 ページを参照)

c. グローバル教育科目:世界事情科目

一般プログラムと同様です。(16 ページを参照)

d. グローバル教育科目:国際交流科目

一般プログラムと同様です。(16 ページを参照)

e. グローバル教育科目:海外研修

一般プログラムと同様です。(18 ページを参照)

f. イノベーション教育科目

一般プログラムと同様です。(18 ページを参照)

g. 高度全学教育科目(3年次以降に4単位以上)

一般プログラムと同様です。(19 ページを参照)

【授業科科目名変更・読替科目等に伴う重複履修禁止科目について】

一般プログラムと同様です。(20 ページを参照)

(4) 健康スポーツ科目

一般プログラムと同様です。(20 ページを参照)

(5) 英語科目

一般プログラムと同様です。(20 ページを参照)

(6) 英語以外の外国語科目(初修外国語)

一般プログラムと同様です。(22 ページを参照)

(7) 外国人留学生のための授業科目

一般プログラムと同様です。(24 ページを参照)

3. 学部教育科目

(1) 履修方法

次の「学部教育科目履修基準表」により、「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業に必要な必修科目および選択必修科目を「学部教育科目一覧表」(42～48 ページを参照)で確認し、履修してください。

学部教育科目履修基準表(GBEEP)

区分 \ 学科	経 営 学 科	
専 門 基 礎 科 目	経営系から 4 単位以上 経済系から 4 単位以上	
専 門 基 幹 科 目	経営系から 8 単位以上 経済系から 8 単位以上	
専 門 応 用 科 目	経営系から 32 単位以上 経済系(専門応用科目Ⅰ・Ⅱ)から 12 単位以上	
海 外 学 修 科 目	2 単位以上 (95 ページを参照)	
G B E 科 目 群	10 単位以上 【注 1】	
演 習 科 目	経営学リテラシー(必修科目) 4単位	
	基礎ゼミナール 2 単位 ゼミナールⅠ 4 単位 ゼミナールⅡ 4 単位	ゼミナールに参加しない者、基礎ゼミナールに参加しても単位を未修得の者は 10 単位、基礎ゼミナールのみ修得した者は 8 単位、基礎ゼミナールとゼミナールⅠを修得したものは 4 単位を学部教育科目から修得してください。
自 由 選 択 科 目	経営学部で開講している学部教育科目、インターンシップ等から選択できます。	
計	98 単位以上	

【注 1】 10 単位を超えて単位を修得した場合は、42 ページ～48 ページの学部教育科目一覧表の区分に基づき、超過した分の単位をそれぞれの区分に振り替えます。

(2) 履修条件のある科目について

以下の学部教育科目は、前提科目となる学部教育科目または全学教育科目の単位を修得していなければ履修出来ません。

学部教育科目	前提となる学部教育科目
簿記論Ⅱ	簿記論Ⅰ
国際会計制度	会計学概論
English for Business	経営学概論
管理会計論Ⅱ	管理会計論Ⅰ
データ解析論	統計学Ⅰ－A・Ⅱ－A

(3) 学部教育科目一覧表

< 専門基礎科目 >

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	経営学概論	春	2	1～4	高井 文子	
	会計学概論	春	2	1～4	大雄 智	
	経営科学概論	春	2	1～4	郭 沛俊	
経済系	ミクロ経済学入門	春	2	1～4	佐野 隆司	
	マクロ経済学入門	秋	2	1～4	奥村 綱雄	
	グローバル・エコノミー入門	秋	2	1～4	金 明花	
	ポリティカル・エコノミー入門	春	2	1～4	居城 琢	
	経済史入門	秋	2	1～4	加島 潤	
	経済と倫理	春	2	1～4	深貝 保則	
	法学入門	春	2	1～4	白鳥 綱重	
	法哲学		2	1～4	休講	

< 専門基幹科目 >

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	経営戦略論	秋	2	1～4	高井 文子	
	経営組織論	秋	2	1～4	佐々木 秀綱	
	キャリア・マネジメント	春	2	1～4	二神 枝保	
	簿記論Ⅰ	春	2	1～4	泉 宏之	
	簿記論Ⅱ	秋	2	1～4	原 俊雄	
	原価会計論	秋	2	1～4	高橋 賢	
	ビジネス・エコノミクス	春	2	1～4	森田 洋	
	経営情報論	春	2	1～4	佐藤 亮	
	マーケティング論	秋	2	1～4	鶴見 裕之	
	コーポレート・ファイナンス	秋	2	1～4	森田 洋	
	言語コミュニケーション論	春	2	1～4	小林 正佳	
経済系	Global Economy	秋 4	2	2～4	張 馨元	GBE 科目 【注 1】
	International Economics	秋 4	2	2～4	竹内 紘子	GBE 科目
	経済原論 1	春 1	2	2～4	横山 章祐	
	経済原論 2	春 2	2	2～4	横山 章祐	
	経済原論 1	秋 4	2	2～4	土井 日出夫	
	経済原論 2	秋 5	2	2～4	土井 日出夫	
	ミクロ経済学 1	春 1	2	2～4	大滝 英生	
	ミクロ経済学 2	春 2	2	2～4	大滝 英生	
	ミクロ経済学 1	秋 4	2	2～4	無藤 望	
	ミクロ経済学 2	秋 5	2	2～4	無藤 望	
	マクロ経済学 1	春 1	2	2～4	藤生 源子	
	マクロ経済学 2	春 2	2	2～4	藤生 源子	
	マクロ経済学 1	秋 4	2	2～4	岡田 多恵	
	マクロ経済学 2	秋 5	2	2～4	岡田 多恵	
	現代経済システム 1	春 1	2	2～4	植村 博恭	
	現代経済システム 2	春 2	2	2～4	植村 博恭	
	現代経済システム 1	秋 4	2	2～4	内橋 賢悟	
	現代経済システム 2	秋 5	2	2～4	内橋 賢悟	
	経済史 1	春 1	2	2～4	石山 幸彦	

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経済系	経済史 2	春 2	2	2～4	石山 幸彦	
	経済史 1	秋 4	2	2～4	水野 里香	
	経済史 2	秋 5	2	2～4	水野 里香	
	経済政策 1	春 1	2	2～4	茂住 政一郎	
	経済政策 2	春 2	2	2～4	茂住 政一郎	
	経済数学	春	2	2～4	岸下 大樹	
	数理統計	春	2	2～4	永井 圭二	【注 1】
	計量経済学	秋 4	2	2～4	小林 正人	
	経済統計	秋 4	2	2～4	岡部 純一	
	憲法	春	2	2～4	御幸 聖樹	

【注 1】 全学教育科目の同一名称科目との重複履修はできません。全学教育科目と学部教育科目では時間割コードが異なるので、履修計画を立てる際は注意してください。

< 専門応用科目・経営系 >

・マネジメント分野

(※は非常勤講師)

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	組織間関係論	春	2	2～4	ヘラー ダニエル	
	現代コミュニケーション論	秋	2	2～4	中野 弘美	
	人的資源管理論	秋	2	2～4	二神 枝保	
	経営管理論	春	2	2～4	山岡 徹	
	経営史	春	2	2～4	公文 蔵人	
	雇用社会論	春	2	2～4	小川 慎一	
	産業社会論	秋	2	2～4	小川 慎一	
	経営行動科学	秋	2	2～4	正木 郁太郎 ※	
	企業環境マネジメント論	春	2	2～4	孫 穎	
	地域環境マネジメント論	秋	2	3～4	孫 穎	
	イノベーション・マネジメント論	秋	2	2～4	貴志 奈央子	
	産業分析	春	2	3～4	貴志 奈央子	
	技術経営論	春	2	2～4	真鍋 誠司	【注 1】
	金融システム論 I	春	2	2～4	高橋 正彦 ※	
	金融システム論 II	秋	2	2～4	高橋 正彦 ※	
	比較経営史	秋	2	2～4	青木 洋	

・アカウンティング分野

(※は非常勤講師)

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	財務会計論 I	春	2	2～4	木村 晃久	
	財務会計論 II	秋	2	2～4	木村 晃久	
	管理会計論 I	春	2	2～4	中村 博之	
	管理会計論 II	秋	2	2～4	中村 博之	
	監査論	春	2	2～4	前山 政之	
	監査制度論	秋	2	2～4	前山 政之	
	政府・非営利会計論	秋	2	2～4	齋藤 真哉	
	税務会計論	春	2	2～4	藤井 誠 ※	
	生態会計論	春	2	2～4	八木 裕之	
	マクロ会計論	秋	2	2～4	大森 明	
	財務分析論		2	3～4	休講	
	戦略会計論	秋	2	3～4	高橋 賢	

・マネジメント・サイエンス分野

(※は非常勤講師)

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	意思決定論	春	2	2～4	郭 沛俊	
	オペレーションズ・リサーチ	春	2	2～4	成島 康史 ※	
	消費者行動論	春	2	2～4	寺本 高	
	マーケティング・サイエンス	春	2	2～4	本橋 永至	
	流通論	秋	2	2～4	鶴見 裕之	
	経営数学		2	2～4	休講	
	ファイナンシャル・リスク・マネジメント		2	2～4	休講	
	ビジネスゲーム	春	2	3～4	田名部 元成	
	情報システムとイノベーション	秋	2	3～4	田名部 元成	
	Operations Management	春	2	3～4	松井 美樹	GBE 科目

・グローバルビジネス分野

(※は非常勤講師)

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	国際経営論Ⅰ	春	2	3～4	河野 英子	
	国際経営論Ⅱ	秋	2	3～4	河野 英子	
	国際人的資源管理論	春	2	3～4	柴田 裕通	
	国際イノベーション・マネジメント論	秋	2	3～4	高田 直樹 ※	【注 1】
	国際会計制度	春	2	3～4	高須 悠介	
	国際市場戦略論	春	2	3～4	谷地 弘安	
	国際経営史	秋	2	3～4	竹内 竜介	
	Business Reading	春	2	3～4	中野 弘美	GBE 科目
	Business Reading	秋	2	3～4	中野 弘美	GBE 科目
	International Business	秋	2	3～4	横澤 公道	GBE 科目
	English for Business	秋	2	3～4	小林 正佳	GBE 科目
	City Marketing and Tourism	秋	2	3～4	ミハイル マリノフ ※	GBE 科目

・法律科目

経営学部開講の全ての法律関係授業科目は、経済学部と共同で開講しています。経営学部の科目(時間割コードが3で始まる科目)で履修登録した場合は経営系の学部教育科目、経済学部の科目(時間割コードが2で始まる科目)で履修登録した場合は経済系の学部教育科目となります。

同一名称の科目は同一科目なので、重複履修はできません。履修登録する際には注意してください。

(※は非常勤講師)

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経営系	憲法	春	2	2～4	御幸 聖樹	
	行政法	春	2	3～4	友岡 史仁 ※	
	人・物と法	春	2	2～4	宮澤 俊昭	
	取引と法	秋	2	2～4	今村 与一	
	契約と法	秋	2	2～4	渡邊 拓	
	家族と法	春	2	3～4	常岡 史子	
	商法Ⅰ	春	2	3～4	竹内 明世 ※	
	商法Ⅱ	秋	2	3～4	竹内 明世 ※	
	有価証券法	秋	2	3～4	笹岡 愛美	
	裁判法		2	3～4	休講	

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	備考
特殊講義	グローバルビジネス実践論	秋	2	2～4	関 仁 ※	
	ホスピタリティ・マネジメント	秋	2	2～4	森田 洋	【注 2】 【注 3】 GBE 科目
	Hospitality Management					
	実務家が説く会計・監査・税務の最新事情	秋	2	2～4	木村 晃久	【注 2】
	税理士による大学生のための租税法講義	春	2	2～4	原 俊雄	【注 2】
	マーケティング・プラクティス	春	2	2～4	伊藤 淳司 ※	
	マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1～4	井上 徹 伊藤 淳司 ※	
	社会における実践体験－富丘会メッセージ	春	2	2～4	石原 健一 ※	
	金融システムと金融機関 (ニッセイアセットマネジメント寄附講座)	秋	2	2～4	伊藤 有希 有江 慎一郎 ※	【注 2】
	アジアグローバル経営基礎	秋	2	2～4	国際交流委員長	GBE 科目
	Electric Vehicles and Corporate Strategy	秋	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	GBE 科目
	The Business of Mobility	春	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	GBE 科目
	横浜 DeNA ベイスターズスポーツ経営論		2	2～4		【注 2】 別途掲示
	ビジネス慣行に学ぶ東南アジア諸国の本質	秋	2	2～4	森田 洋	【注 2】
	International Business Accounting and Reporting - Intermediate	秋	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	GBE 科目
	Basics of Business Accounting	春	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	GBE 科目
	Basics of Business Accounting	秋	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	GBE 科目
	International Management and Strategy	秋	2	1～4	シング マヘンデラ ※	GBE 科目
	Technology Enabled Business	秋	2	1～4	シング マヘンデラ ※	GBE 科目
	特殊講義東京証券取引所連携講座 ファイナンシャルマーケット・ストラクチャー	秋	2	2～4	石田 慈宏 ※	【注 2】
	銀行論 横浜銀行連携講座	春	2	2～4	森田 洋	【注 2】
	ハイパフォーマンス企業研究 アクセンチュア連携講座	春	2	2～4	関根 幸児 ※ 高橋 康文 ※	【注 2】
	ソーシャルマネジメント論 富士ゼロックス連携講座	春	2	2～4	林田 昌也	【注 2】
英語	経営英語演習A	春	2	2～4	掛川 啓子 ※	【注 4】
	経営英語演習A	春	2	2～4	白井 明 ※	【注 4】
	経営英語演習B	秋	2	2～4	掛川 啓子 ※	【注 4】
	経営英語演習B	秋	2	2～4	白井 明 ※	【注 4】
インターンシップ	インターンシップ	[90 ページを参照してください]				

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	備考
海外 履修	英語討論(ベトナム)	秋	2	1～4	国際交流委員長	別途掲示
	英語討論(豪州)	春	2	1～3	国際交流委員長	別途掲示

【注 2】民間企業等との連携講義のため、必ずしも毎年開講するとは限りません。履修計画を立てる際は留意してください。

【注 3】「ホスピタリティ・マネジメント」と「Hospitality Management」は同一科目で同一曜日・時限に開講されますが、クラス分けを行います。日本語名称科目の時間割コードで履修登録した場合は日本語で行うクラスを、英語名称科目の時間割コードで履修登録した場合は英語で行うクラスを受講します。なお、英語で行うクラスを GBEEP 学生が履修した場合は、GBE 科目となります。また、「ホスピタリティ・マネジメント」と「Hospitality Management」を重複して履修することはできません。

【注 4】「経営英語演習 A・B」の単位は、全学教育科目の「英語科目」の単位に算入されます。

< 専門応用科目・経済系 >

・専門応用科目 I

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経済系	国際貿易政策	春	2	2～4	シャンギ マテウス	GBE 科目
	国際金融	春	2	2～4	西川 輝	
	現代外国為替論	春 1	2	2～4	佐藤 清隆	
	国際環境経済論	春	2	2～4	氏川 恵次	
	途上国経済	春	2	2～4	山崎 圭一	
	中国経済	春 1	2	2～4	木崎 翠	
	ロシア東欧経済	春 1	2	2～4	中村 靖	
	比較経済学	春 1	2	2～4	シュレスタ ナゲンドラ	
	ゲーム理論	春	2	2～4	佐野 隆司	
	金融論	秋 4	2	2～4	奥村 綱雄	
	財政学	春	2	2～4	笠松 怜史	
	ファイナンス	春 1	2	2～4	鈴木 雅貴	
	公共経済学	秋 4	2	2～4	岩瀬 祐介	
	労働経済学	春 1	2	2～4	大森 義明	
	産業組織論	春	2	2～4	鶴岡 昌徳	
	比較農業政策	春 1	2	2～4	池島 祥文	
	地域経済政策	春	2	2～4	居城 琢	
	現代社会福祉	秋 4	2	2～4	相馬 直子	
	地方財政	春	2	2～4	伊集 守直	
	国際経済史	春	2	2～4	松永 友有	
	アジア経済史	秋 4	2	2～4	加島 潤	
	日本経済史	春	2	2～4	邊 英治	
	現代経済史	春	2	2～4	鈴木 理彦	
	経済学史	秋	2	2～4	深貝 保則	
	人・物と法	春	2	2～4	宮澤 俊昭	
	取引と法	秋	2	2～4	今村 与一	
	契約と法	秋	2	2～4	渡邊 拓	
	刑事法	秋	2	2～4	内海 朋子	
	国際法	秋	2	2～4	荒木 一郎	

・専門応用科目Ⅱ

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経済系	中級世界経済	秋 5	2	3～4	張 馨元	
	中級国際経済史	秋	2	3～4	松永 友有	
	中級アジア経済史	秋 5	2	3～4	加島 潤	
	中級国際環境経済	秋	2	3～4	氏川 恵次	
	中級比較農業政策	春 2	2	3～4	池島 祥文	
	中級途上国経済	秋	2	3～4	山崎 圭一	
	中級中国経済	春 2	2	3～4	木崎 翠	
	中級ロシア東欧経済	春 2	2	3～4	中村 靖	
	中級財政学	秋	2	3～4	笠松 怜史	
	中級公共経済学	秋 5	2	3～4	岩瀬 祐介	
	中級労働経済学	春 2	2	3～4	大森 義明	
	中級現代社会福祉	秋 5	2	3～4	相馬 直子	
	中級地域経済政策	秋	2	3～4	居城 琢	
	中級地方財政	秋	2	3～4	伊集 守直	
	中級日本経済史	秋	2	3～4	邊 英治	
	中級現代経済史	秋	2	3～4	鈴木 理彦	
	Language, Communication and Identity	秋	2	3～4	マッコーレー アレクサンダー	GBE 科目
	Language, Communication and Identity 分野別演習	秋	1	3～4	マッコーレー アレクサンダー	GBE 科目
	中級国際経済学	秋 5	2	3～4	竹内 紘子	GBE 科目
	中級国際経済学 分野別演習	秋 5	1	3～4	西川 輝	GBE 科目
	中級国際金融	秋	2	3～4	西川 輝	
	中級現代外国為替論	春 2	2	3～4	佐藤 清隆	
	中級金融論	秋 5	2	3～4	奥村 綱雄	
	中級ファイナンス	春 2	2	3～4	鈴木 雅貴	
	中級産業組織論	秋	2	3～4	鶴岡 昌徳	
	International Trade Policy	秋	2	3～4	シャンギ マテウス	GBE 科目
	International Trade Policy 分野別演習	秋	1	3～4	佐藤 清隆	GBE 科目
	数理経済学	秋	2	3～4	岸下 大樹	
	中級数理統計	秋	2	3～4	永井 圭二	
	中級計量経済学	秋 5	2	3～4	小林 正人	
	中級経済統計	秋 5	2	3～4	岡部 純一	
	中級ゲーム理論	秋	2	3～4	佐野 隆司	
	Statistical Theory and Applications	春 2	2	3～4	シュレスタ ナゲンドラ	GBE 科目
	Statistical Theory and Applications 分野別演習	春 2	1	3～4	シュレスタ ナゲンドラ	GBE 科目
	家族と法	春	2	3～4	常岡 史子	
	商法Ⅰ	春	2	3～4	竹内 明世	
	商法Ⅱ	秋	2	3～4	竹内 明世	
	有価証券法	秋	2	3～4	笹岡 愛美	
	行政法	春	2	3～4	友岡 史仁	
	経済法	春	2	3～4	青柳 由香	
	労働法	春	2	3～4	石崎 由希子	
	裁判法		2	3～4	休講	
	知的財産法	秋	2	3～4	白鳥 綱重	【注 1】
	社会保障法	秋	2	3～4	関 ふ佐子	

・専門応用科目(その他) ※受講制限をする場合があります。

講座	授業科目名	学 期 ターム	単位	履修学年	担当教員	備考
経済系	英語討論(欧州)	秋	2	1～4	経済学部履修案内を 参照してください。	
	英語討論(アジア)	秋	2	1～4		
	Applied Economics Intensive	秋	2	1～4		
	課題プロジェクト演習 Economic Theory	春	2	2～4	ヴェチスラヴ オウツシ	GBE 科目
	課題プロジェクト演習 Applied Economics	秋	2	2～4	渡辺 雅仁	GBE 科目
	課題プロジェクト演習 International Economic Policy	秋	2	2～4	植村 博恭	GBE 科目
	課題プロジェクト演習 The Japanese and International Economies	春	2	2～4	植村 博恭	GBE 科目
	課題プロジェクト演習 Public Policy	秋	2	2～4	吉本 惣一	GBE 科目
	課題プロジェクト演習 Speech and Debate on Economic Issues	秋	2	2～4	石渡 圭子	GBE 科目
	Principles of Economics	秋	2	1～4	ヴェチスラヴ オウツシ	GBE 科目
	International Political Economy	春	2	1～4	ヴェチスラヴ オウツシ	GBE 科目
	Visiting Scholar Guest Lecture 1	春	2	1～4	シャノン ジェンキンス	GBE 科目 【注 5】
	Visiting Scholar Guest Lecture 2	春	2	1～4	シャノン ジェンキンス	GBE 科目 【注 5】
	Visiting Scholar Guest Lecture 1	秋	2	1～4	ハウル ペリー	GBE 科目 【注 5】
	Visiting Scholar Guest Lecture 2	秋	2	1～4	ハウル ペリー	GBE 科目 【注 5】
	Visiting Scholar Guest Lecture 3	秋	2	1～4	ハウル ペリー	GBE 科目 【注 5】
	Visiting Scholar Guest Lecture 4	秋	2	1～4	ハウル ペリー	GBE 科目 【注 5】

【注 5】 別途掲示を確認してください。

・Global Business and Economics(GBE)科目群

学部教育科目一覧(42 ページ～48 ページ)の備考欄に「GBE 科目」と記載のある科目が対象となります。

なお 10 単位を超えて GBE 科目の単位を修得した場合は、超過した分の単位を「専門基幹科目・経済系」、「専門応用科目・経営系」、「専門応用科目(専門応用科目Ⅰ・Ⅱ)・経済系」のうち、当該科目の属する区分に振り替えます。

4. 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち次の表にある科目の単位を修得した場合は、最大 60 単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業にかかわる単位数に算入します。

それぞれの上限単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および、卒業認定時に減算するので注意してください。

なお、修得した単位の取扱いについては、a～g のとおりです。

① 経済学部学部教育科目(自由選択科目) ≤ 14 単位	}	①+②+③+④+⑤ ≤ 60 単位
② 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ≤ 8 単位		
③ 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)認定科目 ≤ 8 単位		
④ 学部教育科目として認定される国際交流科目 ≤ 8 単位		
⑤ 交換留学(派遣)・休学中の留学による単位認定 ≤ 60 単位		

※ただし、入学前の既修得単位が本学の単位として認定された学生については、その認定単位数(最大 30 単位)を上限 60 単位から控除します。

a. 経済学部開講科目

経済学部の学部教育科目は、14 単位まで卒業にかかわる学部教育科目(自由選択科目)の単位数に算入します。ただし、ゼミナール等相互履修できない科目もありますので時間割表や掲示を確認してください。

b. 教育学部、理工学部および都市科学部開講科目

一般プログラムと同様です。(30 ページを参照)

c. 地域交流科目

一般プログラムと同様です。(30 ページを参照)

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

一般プログラムと同様です。(30 ページを参照)

e. 横浜市内大学間単位互換制度(放送大学含む)

一般プログラムと同様です。(30 ページを参照)

f. 国際交流科目

一般プログラムと同様です。(31 ページを参照)

g. 留学による単位認定

一般プログラムと同様です。(31 ページを参照)

5. ゼミナール

一般プログラムと同様です。(31 ページを参照)

6. 卒業論文試験

GBEEPの学生については卒業論文試験の受験は必須ではありません。卒業論文の提出については所属するゼミナール担当教員と相談してください。なお、時期・受験資格や提出手順は一般プログラムの学生と同様です。(32 ページを参照)

履修モデル: Global Business and Economics EP

経営学主専攻・経済学副専攻

社会的ニーズと育成する人材: グローバルに事業展開する企業では、経営学と経済学の両方の専門知識を持ち、英語で自由にコミュニケーションをとる能力が求められている。専門的知識(経営学と経済学)と高いレベルの英語運用能力を有し、グローバル企業で活躍できるビジネス・パーソンを育成する。

科目群	全学教育科目	学部教育科目 98 単位以上				
卒業 132 単位以上	34 単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	専門応用科目	GBE 科目	演習科目
1 年次	英語(4) 統計学 I -A(2)	【経営系】 経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2) 【経済系】 ミクロ経済学入門(2) マクロ経済学入門(2)	【経営系】 キャリア・マネジメント(2) 簿記論 I (2) 経営情報論(2)		Basics of Business Accounting(2)	経営学リテラシー(4)
2 年次	英語(4) 初修外国語(2)		【経営系】 経営戦略論(2) コーポレート・ファイナンス(2) 【経済系】 ミクロ経済学 1&2(4) マクロ経済学 1&2(4)	【経営系】 経営管理論(2) イノベーション・マネジメント論(2) 財務会計論 I (2) 財務会計論 II (2) マーケティング・サイエンス(2) 【経済系】 ゲーム理論(2) 産業組織論(2)	アジアグローバル経営基礎(2) International Economics(2) Global Economy(2)	基礎ゼミナール(2)
3 年次	海外学修科目(2) (留学, 海外インターンシップ, 英語討論等)					
	高度全学教育科目			【経営系】 国際経営論 I (2) 国際経営論 II (2) 国際人的資源管理論(2) 国際イノベーション・マネジメント論(2) 産業分析(2) 流通論(2) 【経済系】 国際貿易政策(2) 国際金融(2)	International Business(2)	ゼミナール I (4)
4 年次				【経営系】 戦略会計論(2) ビジネスゲーム(2) 国際会計制度(2) 国際市場戦略論(2) 国際経営史(2) 【経済系】 途上国経済(2) 国際環境経済論(2)	City Marketing and Tourism(2)	ゼミナール II (4)
卒業後のキャリア・イメージ		【日本企業】総合商社・製造業・金融機関など、【外資系企業】製造業・金融機関など、【国際機関職員】【国内外の大学院への進学】				

【全学教育科目】

項目・科目名等			チェック欄	修 得 単位数	必要・上限 単位数	高度全学 教育科目 ※5
基礎科目	人文社会系		/		4単位以上	〔3年次以降に 4単位以上〕
	自然科学系 ※1	統計学Ⅰ－A（必修科目）			4単位以上	
		その他自然科学系科目	/			
グローバル教育科目			/		－	
イノベーション教育科目			/		－	
英語	全員対象	英語プレゼンテーション			8単位	
		英語ライティング				
		英語 LR				
		自立英語				
	TOEFL-ITP450 点 未満対象	経営英語演習 A ※2				
		経営英語演習 B ※2				
	TOEFL-ITP450 点 以上対象	英語演習1 ※3				
		経営英語演習 （A, Bのいずれか）※2				
英語以外の外国語				2単位		
健康スポーツ科目（選択科目）※4		/		2単位まで		
合計①					34単位以上	

- ※1 自然科学系は統計学の単位数を含む
- ※2 経営英語演習 A・B は学部教育科目として開講しますが、全学教育科目の英語の単位に振り替えられます。
- ※3 英語演習1 (TOEFL-ITP450 点以上)は、TEOFL-ITP のスコアに応じて、英語演習1a～1c いずれか 1 科目が必修となります。
- ※4 健康スポーツ科目は2単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。2単位を超えて卒業にかかわる単位数に算入することはできません。
- ※5 高度全学教育科目は、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、学部指定基礎科目の中から3年次以降に4単位以上修得する必要があります。

【学部教育科目】

項 目			チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数	
必 修	経営学リテラシー				4単位	
選択必修	専門基礎科目	経営系			4単位以上	
		経済系			4単位以上	
	専門基幹科目	経営系			8単位以上	
		経済系			8単位以上	
	専門応用科目	経営系			32単位以上	
		経済系(専門応用科目Ⅰ・Ⅱ)			12単位以上	
	GBE 科目群 ※1	経営系			10単位以上	
		経済系				
海外学修科目				2単位以上		
自由選択	実践科目	インターンシップ			合計6単位まで	
		海外インターンシップ				
		特殊講義			—	
	その他科目 ※3	国際社会科学府経営学専攻 博士課程前期開講科目			8単位まで	交換留学等 の単位と併せ て60単位ま で
		横浜市内大学間単位互換 (放送大学含む)			8単位まで	
		国際交流科目			8単位まで	
		経済学部開講 学部教育科目 (選択必修以外) ※2			14単位まで	
	ゼミナール	基礎ゼミナール			最大10単位	
ゼミナールⅠ						
ゼミナールⅡ						
合計②					98単位以上	
合計①+合計②					132単位以上	

- ※1 GBE 科目について
10 単位を超えて修得した場合は、履修案内の「学部教育科目一覧表」に記載されている区分（専門基幹科目、専門応用科目等）に基づいて、10 単位を超過した分の単位をそれぞれの区分に振り替えます。
- ※2 経済学部開講 学部教育科目について
この科目は、選択必修で単位を修得した経済系専門基礎・専門基幹・専門応用科目Ⅰ・Ⅱおよび GBE 科目群の単位に算入される科目以外の科目を履修した場合、14単位まで卒業単位に算入することができます。
- ※3 その他科目について
経済学部開講 学部教育科目 ＋ 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ＋ 横浜市内大学間単位互換（放送大学含む）＋ 学部教育科目として認定される国際交流科目 ＋ 留学認定科目 ≤ 60 単位
という上限があります。合計60単位を超えて卒業にかかわる単位数に算入することができませんのでご注意ください。
（但し、入学前の既修得単位が本学の単位として認定された学生については、その単位数を 60 単位から控除します。）

◎個別成績表に「卒業資格基準外科目」がある場合は「総合計」から減算するので注意してください。

2016年度以前入学者用 (昼間主コース)

V. 2016 年度以前入学生 <昼間主コース>

1. 卒業要件

- ① 経営学部で 4 年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目および単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算 GPA(Grade Point Average)が 2.0 以上あること(GPA については8ページを参照)
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(経営学)」の学位を授与します。

(1) 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養教育科目(教養コア科目、基礎演習科目、外国語科目および健康スポーツ科目)および専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までにこれらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表(昼間主コース)

教養教育科目	教養コア科目	基礎科目〔人文社会系〕	4 単位以上	計 24 単位以上
		基礎科目〔自然科学系〕【注 1】	4 単位以上	
		現代科目	2 単位以上	
		総合科目	2 単位以上	
	基礎演習科目(選択科目)【注 2】		2 単位	
	外国語科目	英語	8 単位	
		英語以外の外国語(1 または 2 ヶ国語)	6 単位	
	健康スポーツ科目(選択科目)【注 3】		2 単位まで	
計			38 単位以上	
専門教育科目	学部必修科目		6 単位	
	学科必修科目【注 4】		4～8 単位	
	選択必修科目【注 5】		8～12 単位以上	
	法律関係授業科目		6 単位以上	
	ゼミナール【注 6】		8 単位	
	自由選択科目		—	
	計		76 単位以上	
合 計【注 7】			128 単位以上	

【注1】 基礎科目(自然科学系)に該当する必修科目があります。「(「教養コア科目必修科目表」を参照)

【注 2】 基礎演習は 2 単位の選択科目で 2 年次秋学期に開講します。2 年次の春学期に行われるゼミナール加入ガイダンスにて提示される手引きを参考にして、履修してください。(62 ページを参照)

【注 3】 健康スポーツ科目の単位は 2 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注 4】 所属の学科によって必修科目および必要単位数が異なります。「(「専門教育科目履修基準表」を参照)

【注 5】 所属の学科によって必要単位数が異なります。「(「専門教育科目履修基準表」を参照)

【注 6】ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は、専門教育科目から単位を修得してください。(77 ページを参照)

【注 7】合計 128 単位のうち、教養教育科目 38 単位および専門教育科目 76 単位を除いた 14 単位分は、教養教育科目または専門教育科目のどちらから修得しても構いません。

(2) 1 単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目 1 単位当たりの授業時間を次のとおり定めています。

講義(外国語科目を除く)、基礎演習およびゼミナール I・II 15 時間

外国語科目、実験、実習 30 時間

講義、演習、実験、実習または実技のうち 2 つ以上の方法を併用する授業科目については、その組み合わせに応じ、別途時間数を定めます。なお、時間割上の 1 時限(90 分)は 2 時間として単位を計算します。

外国語科目を除く講義科目、基礎演習およびゼミナールの場合、1 週間に 1 時限の授業であれば、15 週で 2 単位になります。

(3) 9 月卒業について

9 月卒業の要件は下記のとおりです。また、9 月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

<9 月卒業の要件>

以下の①～④全てを満たす者。

- ① 卒業認定の前年度までに卒業論文試験に合格していること
- ② 経営学部にて 4 年 6 ヶ月以上在学していること(休学、停学期間※を除く) ※停学期間が 3 ヶ月を超える場合
- ③ 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目および単位数を修得していること
- ④ 卒業認定時に通算 GPA(Grade Point Average)が 2.0 以上あること

2. 教養教育科目

(1) 履修方法

教養教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『教養教育科目履修案内』に従ってください。なお、教養教育科目は半期 20 単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません。(4 ページを参照)

(2) 教養コア科目必修科目表

教養教育科目・教養コア科目のうち、経営学部各学科で必修科目とするのは、以下の○印のある科目です。

	経営学科	会計・情報学科	経営システム科学科	国際経営学科
統計学 I - A	○	○	○	○
統計学 II - A				
微分積分 I	○	○	○	
微分積分 II				
線形代数 I		○	○	
線形代数 II				

(3) 教養コア科目一覧表

a. 基礎科目:人文社会系(4単位以上)

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
哲学	2	【共通】	1～4	
宗教学	2	【共通】	1～4	
東洋思想史	2	【共通】	1～4	
現代芸術論	2	【共通】	1～4	
Cinema	2	教・済・営・理	1～4	
歌の魅力	2	【共通】	1～4	
音楽の基礎	2	【共通】	1～4	
民族音楽学入門	2	【共通】	1～4	
音楽と自然	2	【共通】	1～4	
美術の見かた	2	【共通】	1～4	
水彩画基礎技術	2	【共通】	1～4	
色彩論	2	【共通】	1～4	※7
基礎造形 B	2	【共通】	1～4	
日本の近代文学	2	【共通】	1～4	
中国の古典文学	2	【共通】	1～4	
英米文学	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ文学	2	【共通】	1～4	
日本の言語	2	【共通】	1～4	
地誌学概論	2	【共通】	1～4	
日本近現代史	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ近現代史	2	【共通】	1～4	
文化人類学の考え方	2	【共通】	1～4	
日本国憲法	2	【共通】	1～4	※1
現代と法	2	【共通】	1～4	
法学概論	2	【共通】	1～4	
法と人間	2	【共通】	1～4	
現代政治(日本)	2	【共通】	1～4	
現代政治(国際)	2	【共通】	1～4	
<良い議論>をするための法哲学	2	【共通】	1～4	
社会科学概論 A	2	【共通】	1～4	
社会科学概論 B	2	【共通】	1～4	
社会科学の方法	2	【共通】	1～4	
社会科学の歴史	2	【共通】	1～4	
現代の経済 A	2	教・営・理・都	1～4	
現代の経済 B	2	教・営・理・都	1～4	
心理学 A	2	【共通】	1～4	
心理学 B	2	【共通】	1～4	
障害と周辺領域 I	2	【共通】	1～4	
心理学史	2	【共通】	1～4	
社会心理学入門	2	【共通】	1～4	
日本語を教えよう	2	【共通】	1～4	
現代社会論	2	【共通】	1～4	
家族生活と法	2	【共通】	1～4	
戦争文化論	2	【共通】	1～4	
World Legal Systems and Management Philosophy	2	【共通】	2～4	※2
Arabic language and its Culture	2	【共通】	1～4	※2

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
Elements of Linguistic Knowledge	2	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art A	2	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art B	2	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art A I (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art A II (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art B I (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art B II (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Elements of Linguistic Knowledge #2	2	【共通】	1～4	※2
Business Japanese Language and Culture A	2	【共通】	1～4	※2
Business Japanese Language and Culture B	2	【共通】	1～4	※2

※1 教育職員免許状取得希望者は「日本国憲法」2 単位を必修とします。

※2 授業は英語で行われます。

b. 基礎科目：自然科学系(4 単位以上)

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
微分積分 I	2	経営	1～4	※3
微分積分 II	2	経営	1～4	※3
線形代数 I	2	経営	1～4	※4
線形代数 II	2	経営	1～4	※4
数理科学 I	2	教・済・営・社	1～4	
数理科学 II	2	教・済・営・社	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き A	1	【共通】	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き B	1	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学A	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学B	2	【共通】	1～4	
統計学 I - A	2	教・済・営・社	1～4	※5
統計学 II - A	2	教・済・営・社	1～4	※5
物理の世界 A	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界 B	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学 A	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学 B	2	教・済・営・社	1～4	
地球と惑星の科学 I	1	【共通】	1～4	
地球と惑星の科学 II	1	【共通】	1～4	
科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	2	【共通】	1～4	
基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界 A(物質観としての化学)	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界 B(生活の化学)	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界 C(環境の化学)	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界 D(生命の化学)	2	教・済・営・社	1～4	※6
生物地理学入門	2	【共通】	1～4	
生命科学	2	【共通】	1～4	※6
古生物の科学 I	1	【共通】	1～4	
古生物の科学 II	1	【共通】	1～4	
生物の世界 I	1	【共通】	1～4	
生物の世界 II	1	【共通】	1～4	
身近な電気と機械	2	【共通】	1～4	
エネルギー工学序論	2	【共通】	1～4	
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	2	【共通】	1～4	

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
図形科学	2	【共通】	1～4	
POV-Ray で学ぶ はじめての 3DCG 制作	2	【共通】	1～4	
情報科学	2	済・営	1～4	
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	【共通】	1～4	
海洋地質学入門	2	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメント I	1	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメント II	1	【共通】	1～4	
天才科学者列伝	2	【共通】	1～4	
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	【共通】	1～4	※2
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1～4	※2
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	2	【共通】	1～4	※2
Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	2	【共通】	1～4	※2
ICT Literacy	2	【共通】	1～4	※2
ICT Project	2	【共通】	1～4	※2
Cyber Studies	2	【共通】	1～4	※2
Modeling with Calculus and Algebra	2	【共通】	1～4	※2
線形代数学入門	2	教・済・営・社	1～4	
数学の見方	2	教・済・営・社	1～4	
例からはじめる微分積分	2	【共通】	1～4	
環境化学概論	2	【共通】	1～4	
Business Problem Solving Logics and Framework	2	【共通】	1～4	※2
Modeling with Statistics and Meta-Data	2	【共通】	2～4	※2

※3 経営学部「経営学科」「会計・情報学科」「経営システム科学科」の必修科目。

※4 経営学部「会計・情報学科」「経営システム科学科」の必修科目。

※5 経営学部全学科の必修科目。

※6 「化学の世界 D(生命の化学)」「生命科学」は、片方の科目のみ履修することができます。すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。

c. 現代科目(2単位以上)

単位を修得しても卒業資格外単位となる科目もあるので、不安な方は経営学務係で確認してください。

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
国際理解 芸術による社会変革ソーシャルインクルージョン入門	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際交流における日本語の役割	2	【共通】	1～4	
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	2	【共通】	1～4	
地域連携と都市再生 B(かながわ地域学)	2	教・済・営・理	1～4	※7
国際理解 日韓関係論	2	【共通】	1～4	
国際理解 日中比較文化論	2	【共通】	1～4	
神奈川のみらい	2	【共通】	1～4	※7
現代の経営	2	【共通】	1～4	
現代の物流経営	2	【共通】	1～4	※7
経営者の役割と従業員の役割	2	【共通】	1～4	
実践新商品企画	2	【共通】	1～4	
実践地域と起業	2	【共通】	1～4	※7
アントレプレナー入門	2	【共通】	1～4	
アート・マネジメント	2	【共通】	1～4	
人と動物の関係学	2	【共通】	1～4	
教育学(教育と人間)	2	【共通】	1～4	

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
職業と教育	2	【共通】	1～4	
家庭科で考えるこれからの人生	2	【共通】	1～4	
特別支援教育入門	2	【共通】	1～4	
学外活動(教育ボランティア)	2	【共通】	1～4	※8
危機管理学	2	【共通】	1～4	
生態工学	2	【共通】	1～4	
科学技術史	2	【共通】	1～4	
海事技術史	2	【共通】	1～4	※7
材料学入門	2	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅰ	1	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅱ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅰ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅱ	1	【共通】	1～4	
地球環境と情報	2	【共通】	1～4	
情報と社会	2	【共通】	1～4	
情報セキュリティ入門	2	【共通】	1～4	
情報ネットワークシステム入門	2	【共通】	1～4	
プログラミングによる思考と表現の基礎	2	【共通】	1～4	
ICT ナレッジマネジメント・コラボレーション	2	【共通】	1～4	
エネルギーと環境	2	【共通】	1～4	※7
安全・環境と社会	2	【共通】	1～4	※7
建築の環境と防災	2	【共通】	1～4	※7
環境リスクとつきあうⅠ	1	【共通】	1～4	
環境リスクとつきあうⅡ	1	【共通】	1～4	
地域連携と都市再生 A(ヨコハマ地域学)	2	教・済・営・理	1～4	※7
応用気象学	2	【共通】	1～4	
居住環境論	2	【共通】	1～4	
食教育論	2	【共通】	1～4	
食育	2	【共通】	1～4	
健康の科学	2	【共通】	1～4	
台湾事情	2	【共通】	1～4	
韓国事情	2	【共通】	1～4	
Business Logics and Team Consensus	2	【共通】	1～4	※2
Business with Accounting & Finance for Entrepreneurs-ST3	2	【共通】	1～4	※2
Business with Accounting & Finance for Entrepreneurs-SM	1	【共通】	1～4	※2
Global Leadership & its Communication-ST1	2	【共通】	1～4	※2
Global Leadership & its Communication-SM	1	【共通】	1～4	※2
Business Problem Solving and Project Management	2	【共通】	2～4	※2
Life-Long Planning and Global Career Design	2	【共通】	1～4	※2
Facilitation and Empowerment for Team Building	2	【共通】	2～4	※2
Business Communication and Emotional Literacy	2	【共通】	1～4	※2
Business Planning with Intellectual Property	2	【共通】	2～4	※2
数理統計	2	【共通】	2～4	※9
知的財産法	2	【共通】	3～4	※9
国際イノベーションマネジメント論	2	【共通】	3～4	※10
技術経営論	2	【共通】	2～4	※11
地域課題実習Ⅰ	1	【共通】	1～4	※7
地域課題実習Ⅱ	1	【共通】	1～4	※7
地域課題実習Ⅲ	1	【共通】	2～4	※7

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
地域課題実習Ⅳ	1	【共通】	2～4	※7
ビジネス・コミュニケーション	2	【共通】	2～4	
キャリア・ケーススタディ	2	【共通】	2～4	
横浜学--地域の再発見--	2	【共通】	1～4	※7
人と動物の幸せな共生を考える	2	【共通】	1～4	
古代ギリシアの神話と歴史	2	【共通】	1～4	
古代ローマの伝説と歴史	2	【共通】	1～4	
学校教育最前線	2	【共通】	1～4	
子どもの発達や課題の理解	2	【共通】	1～4	
トポロジー	2	【共通】	1～4	
ベトナム事情	2	【共通】	1～4	
インドネシア事情	1	【共通】	1～4	
ブラジル事情	2	【共通】	1～4	
パラグアイ事情	2	【共通】	1～4	
中国事情Ⅰ	1	【共通】	1～4	
中国事情Ⅱ	1	【共通】	1～4	
Multicultural Practice	2	【共通】	1～4	※2
Multiethnic Japan	2	【共通】	2～4	※2 ※12
Multiethnic Japan (Seminar)	1	【共通】	2～4	※2 ※12
Yokohama Studies	2	【共通】	2～4	※2 ※13
Yokohama Studies (Seminar)	1	【共通】	2～4	※2 ※13
Business Planning with Accounting and Finance	2	【共通】	2～4	※2
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	2	【共通】	1～4	※2
Plagiarism and its Regulations	2	【共通】	1～4	※2
Multicultural Conferece A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	※2
Multicultural Conferece B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	※2
Collaborative Assistanship A	1	【共通】	1～4	※2
Collaborative Assistanship B	1	【共通】	2～4	※2
Collaborative Associateship A	1	【共通】	2～4	※2
Collaborative Associateship B	1	【共通】	2～4	※2
海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理Ⅱ	1	【共通】	1～4	
Practice in International DiplomacyⅠA	1	【共通】	1～4	※2
Practice in International DiplomacyⅠB	1	【共通】	1～4	※2
Practice in International DiplomacyⅡA	2	【共通】	1～4	※2
Practice in International DiplomacyⅡB	2	【共通】	1～4	※2
Transcultural Practice in OverseasⅠ	1	【共通】	1～4	※2
Transcultural Practice in OverseasⅡ	1	【共通】	1～4	※2
International VolunteerⅠ	1	【共通】	1～4	※2
International VolunteerⅡ	2	【共通】	1～4	※2
Global Economy	2	【共通】	2～4	※9
都市環境リスク共生論A	1	教・済・営・理	2～4	
都市計画と交通	1	【共通】	2～4	
グローバル化と日本人	2	【共通】	1～4	※7
まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2	【共通】	2～4	
Multicultural Conferece C (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	※2
Multicultural Conferece D (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	※2
デジタルクリエイティブ基礎	2	【共通】	2～4	
研究開発論ー大学・企業・イノベーションー	2	【共通】	2～4	

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
現場から考える国際開発協力:JICA 連携講座	2	【共通】	1～4	
グローバル・シティズンシップ	2	【共通】	1～4	
グローバル人材と国際協力:JICE 連携講座	2	【共通】	1～4	
スキル向上につなげる「英語」	2	【共通】	1～4	
Zero Carbon Yokohama —文理融合・産官学民で考えるサステナビリティ—	2	【共通】	1～4	
イノベーション・マネジメント概論	2	【共通】	2～4	

※7 この科目は地域交流科目です。教養コア科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子を確認してください。

※8 この科目は教育職員免許状取得を希望しない学生は履修できません。

※9 経済学部専門教育科目としても開講されています。重複履修はできません。(61 ページ参照)

※10 専門教育科目の「グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅰ」と同一科目のため、専門教育科目として履修済みの者は履修できません。履修予定の者についても、教養教育科目か専門教育科目のいずれか一方のみ選択して履修してください。

※11 専門教育科目の「比較技術経営論Ⅰ」と同一科目のため、専門教育科目として履修済みの者は履修できません。履修予定の者についても、教養教育科目か専門教育科目のいずれか一方のみ選択して履修してください。

※12 「Multiethnic Japan」「Multiethnic Japan (Seminar)」は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

※13 「Yokohama Studies」「Yokohama Studies (Seminar)」は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

d. 総合科目(2単位以上)

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
経済学の諸課題Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済学の諸課題Ⅱ	2	【共通】	1～4	
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	【共通】	1～4	※7
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	【共通】	1～4	
数理科学概論	2	【共通】	1～4	
物理工学概論	2	【共通】	1～4	
物質工学と社会	2	【共通】	1～4	※7
機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1～4	
海洋工学と社会	2	【共通】	1～4	※7
電子情報システム概論	2	【共通】	1～4	
情報工学概論	2	【共通】	1～4	
都市と建築	2	【共通】	1～4	
システム・エンジニアリング	2	【共通】	1～4	※7
イノベーションと社会	2	【共通】	2～4	
ライフキャリアを考える	2	【共通】	1～4	
環境をめぐる諸問題Ⅰ	1	【共通】	1～4	※7
環境をめぐる諸問題Ⅱ	1	【共通】	1～4	※7
Business Planning and Proposal	2	【共通】	2～4	※2
Collaborative Studies #2	2	【共通】	1～4	※2
Collaborative Studies #1	2	【共通】	1～4	※2
Collaborative Studies #3	2	【共通】	1～4	※2
Collaborative Studies #4	2	【共通】	1～4	※2

授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
知的財産権	2	教・済・営・社	2～4	
2020 年東京オリンピック・パラリンピックと共生社会	2	【共通】	1～4	
都市科学 A(グローバル・ローカル)	2	教・済・営・理	1～4	
都市科学 B(リスク共生)	1	教・済・営・理	1～4	
都市科学 C(イノベーション)	1	教・済・営・理	1～4	
工業経営	2	【共通】	1～4	

【授業科目名変更・読替科目等に伴う重複履修禁止科目について】

次の表の「2019 年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

2019 年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	国際理解 12(日本語をめぐる国際交流史) (2015)
国際理解 国際交流における日本語の役割	国際理解 1(留学生支援入門) (2014) 国際学ⅡC:国際交流史＜教育人間科学部専門＞ (2015)
家族生活と法	社会生活と法 (2018)
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き A 名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き B	名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き (2015)
地球と惑星の科学Ⅰ・地球と惑星の科学Ⅱ	地球と惑星の科学 (2016)
古生物の科学Ⅰ・古生物の科学Ⅱ	古生物の科学 (2016)
生物の世界Ⅰ・生物の世界Ⅱ	生物の社会 (2016)
地質リスクマネジメントⅠ・地質リスクマネジメントⅡ	応用地質学 (2016)
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	先端機器分析入門 (2016)
学校教育最前線(現代科目)	学校教育最前線(総合科目) (2013)
横浜学--地域の再発見--(現代科目)	横浜学--地域の再発見--(総合科目) (2014)
地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	地域連携と都市再生B (2014)
地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	地域連携と都市再生A (2014)
化学の世界 D(生命の化学)	生命科学 (2018)
生命科学	化学の世界D(生命の化学) (2018)
土木史と文明Ⅰ・土木史と文明Ⅱ	土木史と技術者倫理 (2016)
国土学とグローバル社会Ⅰ 国土学とグローバル社会Ⅱ	土木工学と社会 (2016)
環境リスクとつきあうⅠ・環境リスクとつきあうⅡ	環境リスクとつきあう (2016)
環境をめぐる諸問題Ⅰ・環境をめぐる諸問題Ⅱ	環境をめぐる諸問題 (2016)
情報工学概論 電子情報システム概論	電子情報工学と社会 (2010)
韓国事情	国際理解 日韓比較文化論 (2016) 国際理解 4(日韓比較文化論) (2015)
台湾事情	国際理解 台湾の文化と社会 (2016) 国際理解 4(台湾の文化と社会) (2012)
Advertisement Art A	Advertisement Art #1 (2016)
Advertisement Art AⅠ (Seminar) Advertisement Art AⅡ (Seminar)	Studio Workshop #1 (2016)
Advertisement Art B	Advertisement Art #2 (2016)
Advertisement Art BⅠ (Seminar) Advertisement Art BⅡ (Seminar)	Studio Workshop #2 (2016)
Arabic Language and its Culture	アラビア語とその文化(国際交流科目) (2013) 英語演習(アラブの言語と文化) (2013) 国際理解3(アラブの言語と文化) (2011)
Business Japanese Language and Culture A	Business Japanese Language and Culture #2 (2016)
Business Japanese Language and Culture B	Business Japanese Language and Culture #3 (2016)
Business Japanese Language and Culture C	Business Japanese Language and Culture #1 (2016) Business Japanese Language #1 (2014)
Business Planning with Accounting and Finance	Business Management with Accounting and Finance (2015)
Elements of Linguistic Knowledge	Elements of Linguistic Knowledge #1 (2016)
Facilitation and Empowerment for Team Building	Team Management and Facilitation (2015)

2019 年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	Facilitation and Management <教育人間科学部専門> (現代科目) (2014)
ICT Project	ICT 応用 (人間文化基礎論 II B) (国際交流科目) (2013)
Multiethnic Japan	Community Studies (2016)
Multiethnic Japan (Seminar)	Multicultural Team-works #1 (2016)
Modeling with Statistics and Meta-Data	Modeling with Statistics (2016) 統計数理 (国際交流科目) (2013)
Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci (2017) Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci <YCCS 専門> (2015)
Transcultural Understanding through Foreign Languages	Transcultural Understanding through English #2 (2016)
World Legal Systems and Management Philosophy	World Legal Systems (2014)
Yokohama Studies	Urban Dynamism of Yokohama (2016)
Yokohama Studies (Seminar)	Multicultural Team-works #2 (2016)
海外旅行安全対策・危機管理 I	Safety and Crisis Management for Overseas Travel I (2016)
海外旅行安全対策・危機管理 II	Safety and Crisis Management for Overseas Travel II (2016)
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work	Comprehensive Reading and Summary Writing I A (2016)
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career	Comprehensive Reading and Summary Writing I B (2016)
Academic Presentation Skills	Academic Presentation Skills A (2016)
Business Presentation Skills	Academic Presentation Skills B (2016)
グローバル化と日本人	グローバルビジネス・コミュニケーション (2016)
国際イノベーションマネジメント論	グローバル・イノベーション・マネジメント論 I <経営学部専門科目> (2018)
技術経営論	比較技術経営論 I <経営学部専門科目> (2018)
Business Planning and Proposal	Business Planning and Proposal <YCCS 専門> (2015)
Cyber Studies	Cyber Studies <YCCS 専門> (2015)
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	Facilitation and Management with Emotional Intelligence <YCCS 専門> (2015)
ICT Literacy	ICT Literacy (国際交流科目) (2013) ICT Literacy <YCCS 専門> (2015)
Modeling with Calculus and Algebra	Modeling with Calculus & Algebra (国際交流科目) (2013)
Multicultural Practice	Multicultural Practice (国際交流科目) (2013)
Plagiarism and its Regulations	Plagiarism and its Regulations <YCCS 専門> (2015)
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci <YCCS 専門> (2015)
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci <YCCS 専門> (2015) Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci (国際交流科目) (2014)
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci <YCCS 専門> (2015) Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci (国際交流科目) (2014)
Global Economy	世界経済論 <経済学部専門科目> (2018)
数理統計	数理統計 <経済学部専門科目> (2018)
知的財産法	法学特別講義・知的財産権法概論 <経済学部専門科目> (2018) 知的財産権法概論 <経済学部専門科目> (2018)

(4) 基礎演習科目

基礎演習科目は 2 年次秋学期に開講される選択科目で、3 年次・4 年次のゼミナールへのプレ・ゼミナールとなります。基礎演習に参加した学生は、原則として同一教員のゼミナールに参加することになります。

- ① 選考時期：2 年次春学期
- ② 単位数：教養教育科目として 2 単位
- ③ 定員：各基礎演習とも 12 名程度(ただし、交換留学(派遣)生は定員外とすることができます。)
※交換留学(派遣)決定者は、帰国後(3 年次秋学期)の基礎演習に参加することになります。

(5) 英語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業にかかわる教養教育科目の単位数に算入します。

経営学部学生は 1 年次に英語実習 1 を 4 科目 4 単位、2 年次に英語実習 2 を 2 科目 2 単位、英語演習を 1 科目 2 単位、合計 7 科目 8 単位を修得してください。

2017 年度から英語実習 1 の名称が変わりましたので、再履修者は注意してください。(詳細は『教養教育履修案内』を参照)

科目名(2016 年度以前)	科目名(2017 年度以降)	単位数	履修年次
英語実習 1S	英語プレゼンテーション	1	1 年次生以上
英語実習 1W	英語ライティング	1	
英語実習 1LR 春学期	英語実習 1LR 再履修クラス	1	
英語実習 1LR 秋学期	英語実習 1LR 再履修クラス	1	
英語実習 2SW	英語実習 2SW	1	2 年次生以上
英語実習 2LR	英語実習 2LR	1	
英語演習	英語演習	2	2 年次生以上

a. 英語実習 1 (半期 1 単位)

LR を春学期・秋学期各 1 科目、S と W を春学期あるいは秋学期に各 1 科目履修します。以上の 4 科目 4 単位が全部揃って、英語実習 1 の履修が完了します。履修するクラスは抽選によって決まります。英語教育部から出される掲示に従って履修してください。

※「英語実習 1」は 4 単位を超えて履修することはできません。

b. 英語実習 2 (半期 1 単位)

SW と LR を、春学期あるいは秋学期に各 1 単位履修します。この 2 科目 2 単位が揃って、英語実習 2 の履修が完了します。英語実習 2 を未履修の者または再履修をする者は、英語教育部から出される指示に従って履修してください。詳しくは英語教育部による履修相談を受けてください。

※「英語実習 2」は 2 単位を超えて履修することは出来ません。

c. 英語演習 (半期 2 単位)

経営学部開講の英語演習と全学部対象の英語演習があります。どちらを履修しても構いません。

① 経営学部開講の英語演習

英語学習システムを活用した TOEIC 対策プログラムです。春学期あるいは秋学期に 1 科目 2 単位を履修します。授業時間外に、YNU ネットラーニング(ATR CALL BRIX)を自学自習します。

受講クラスは選択制です。履修登録前の定められた期間に、経営学務係において希望クラスを予約してください。詳しくは、掲示で確認してください。

② 全学部対象の英語演習

Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work※	卒業にかかわる外国語の単位(英語演習)とすることができます。読替申請等の手続きは必要ありません。
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career※	
Academic Presentation Skills※	
Business Presentation Skills※	
TOEFL iBT スピーキング対策演習(夏季集中)	
英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習(夏季集中)	

※授業科目名変更に伴う重複履修禁止科目があります、61 ページを参照してください。

③ 「TOEFL, IELTS スコアによる単位認定」について

TOEFL または IELTS において、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。スコアは申請月から遡って 12 ヶ月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、単位認定は 1 回限りとし、すでに単位を修得した科目がある場合は認定できません。

認 定 基 準	TOEFL(英語統一テストを含む) iBT100 以上、ITP600 以上 IELTS 7.0 以上
単位認定科目	1 年次の科目の場合 : 英語実習 1LR 春学期、1LR 秋学期、1S、1W の 4 科目 4 単位について、「秀」を認定します。 2 年次の科目の場合 : 英語実習 2LR、2SW の 2 科目 2 単位、もしくは英語演習 1 科目 2 単位について、「秀」を認定します。 3 年次の科目の場合 : 経営の英語 1 科目 2 単位について「秀」を認定します。
申 請 時 期	春学期または秋学期の履修登録期間中に、各実施団体の証明書の写しを添えて申請してください。

(6) 留学生の英語履修について (日本語科目については 66 ページを参照)

① 英語圏からの留学生

ドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語・ロシア語のうちから 1 ヶ国語を選択し、8 単位(実習 4 単位 + 演習 4 単位)を修得することで、英語(外国語科目)の必修単位に読み替えることができます。希望する学生は、履修登録前に、経営学務係に申請してください。

② 英語圏以外からの留学生

英語(外国語科目)8 単位(実習 6 単位 + 演習 2 単位)を修得してください。

(7) 英語以外の外国語科目

英語以外の外国語は、1 ヶ国語または 2 ヶ国語を選択し合計 6 単位を修得する必要があります。次の表のとおり授業を開講します。いずれも春学期または秋学期の半期のクラスで、「実習」科目は 1 単位、「演習」科目は 2 単位です。事前の予備登録や合同授業が実施される場合がありますので、掲示を確認してください。

なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業にかかわる教養教育科目の単位数に算入します。

英語以外の外国語一覧

科目名	単位数	履修学年
中国語実習 1 【注 1】	1	1 年次から実習 1→実習 2→演習の順序で履修します。
中国語実習 2 【注 1】	1	
中国語演習	2	
ドイツ語実習 1 【注 2】	1	
ドイツ語実習 2 【注 2】	1	
ドイツ語演習	2	
フランス語実習 1 【注 2】	1	
フランス語実習 2 【注 2】	1	
フランス語演習	2	
ロシア語実習 1	1	
ロシア語実習 2	1	
ロシア語演習	2	
朝鮮語実習 1	1	2 年次以上
朝鮮語実習 2	1	
朝鮮語演習	2	
イスパニア語実習 1	1	
イスパニア語実習 2	1	
イスパニア語演習	2	
ギリシア語 【注 3】	1	
ラテン語 【注 3】	1	
日本語中級(留学生のみ)	1	日本語プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。
日本語上級(留学生のみ)	1	
日本語演習(留学生のみ)	2	

【注 1】 中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、事前の予備登録等が実施される場合があります。

【注 2】 ドイツ語とフランス語では、「実習 1(会話)」・「実習 2(会話)」のセットを「実習 1」・「実習 2」のセットに代替することができます。ただし、同一の外国語科目の実習を、2 セット(合計 4 単位)を超えて修得した場合は、卒業に必要な外国語の単位ではなく卒業に必要な教養教育科目の単位に算入されます。

【注 3】 ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は、卒業にかかわる外国語の単位には算入せず、卒業にかかわる教養教育科目の単位数として算入されます。

① 実習

「実習」は初級レベルの科目です。同一の外国語について、「実習 1」と「実習 2」をセット(合計 2 単位)で修得してください。「実習(会話)」も同様です。セットが完成していない場合は、「卒業にかかわる外国語の単位」に算入しません。また、同一の外国語実習を 2 セット(合計 4 単位)修得しないと「演習」に進むことができません。

※「実習 1」の単位を修得しないと、「実習 2」を履修できません。「実習(会話)」も同様です。

※同一の外国語科目の実習を、2 セット 4 単位を超えて修得した場合、「卒業にかかわる外国語の単位」ではなく「卒業にかかわる教養教育科目の単位」として算入されます。

② 演習

「演習」は中級レベルの科目です。同一の外国語実習を 2 セット(合計 4 単位)修得した者に限り履修できます。「演習」を履修しない者は、別の外国語実習を 1 セット(「実習 1」と「実習 2」)2 単位を修得する必要があります。

【英語以外の外国語の履修例】

- 1ヶ国語の場合 例1 「中国語実習(1a+2a)」「中国語実習(1b+2b)」「中国語演習」
例2 「フランス語実習(1+2)」「フランス語実習(1+2)(会話)」「フランス語演習」
- 2ヶ国語の場合 例1 「朝鮮語実習(1+2)」「朝鮮語実習(1+2)」「中国語実習(1a+2a)」
例2 「ドイツ語実習(1+2)」「ドイツ語実習(1+2)」「イスパニア語実習(1B+2B)」

(注)中国語の(再)履修について

中国語実習を未履修の者または再履修をする者は、2017年度から次の表に従って履修します。

不合格または未履修の科目	→	(再)履修対応科目
中国語実習 1a／中国語実習 1b	→	中国語実習 1【注1】
中国語実習 2a／中国語実習 2b	→	中国語実習 2【注2】

【注1】「中国語実習 1a」の(再)履修は日本人担当の「中国語実習 1」、「中国語実習 1b」の(再)履修は外国人担当の「中国語実習 1」を履修することを基本とします。

【注2】「中国語実習 2a」の(再)履修は日本人担当の「中国語実習 2」、「中国語実習 2b」の(再)履修は外国人担当の「中国語実習 2」を履修することを基本とします。

(注)イスパニア語の(再)履修について

イスパニア語実習・イスパニア語演習を未履修の者または再履修をする者は、2017年度から次の表に従って履修します。

不合格または未履修の科目	→	(再)履修対応科目
イスパニア語実習 1A／イスパニア語実習 1B	→	イスパニア語実習 1
イスパニア語実習 2A／イスパニア語実習 2B	→	イスパニア語実習 2
イスパニア語演習 A／イスパニア語演習 B	→	イスパニア語演習

③ 実習科目のスキップ履修

ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・イスパニア語において学習歴がある等初等教育相当の能力があると認められた学生は、初級レベルの「実習」を履修せずに中級レベルの「演習」から履修することができます。ただし、「実習」をスキップしても卒業に必要な単位が免除されるということではありません。1ヶ国語または2ヶ国語を選択し、合計6単位修得する必要があります。希望する学生は、各学期の履修登録最終日の1週間前までに学生センター(学務部教育企画課)に申し出てください。

④ スピード履修

時間割の関係等の事情により、実習2セット(合計4単位)を1年間で履修することができない場合は、スピード履修の制度があります。これは日本語および朝鮮語を除く卒業にかかわる英語以外の外国語において、実習1セット(合計2単位)を優以上の成績で修得し、認定試験に合格すれば、その外国語の演習に進むことができる制度です。ただし、卒業に必要な単位数(6単位)は変わりません。希望する学生は、各学期の履修登録最終日の1週間前までに学生センター(学務部教育企画課)に申し出てください。

※実習科目のスキップおよびスピード履修の適用を受けるには、一定の条件があります。詳細は『教養教育履修案内』および経営学務係で確認してください。

⑤ 検定初修外国語科目

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。

認定された場合は、初修外国語の「演習 1 科目 2 単位」として、卒業にかかわる英語以外の外国語の単位に読み替えることができます。

申請する場合は、「検定初修外国語申請書」および検定試験の証明書(本学入学後に取得したもので、かつ取得後 2 年以内のものに限る)を学生センター(学務部教育企画課)に提出してください。(申請書は経営学務係にあります。)なお、複数の外部検定試験のスコアを獲得しても、1 科目につき単位認定できるのは 1 回のみとなります。

授業科目名	単位	外部検定試験のスコア基準
検定ドイツ語	2	ドイツ語技能検定試験(ドイツ語学文学振興会)4 級合格、またはドイツ語検定試験(ゲーテ・インスティトゥート)A2 合格
検定フランス語	2	実用フランス語技能検定試験(フランス語教育振興協会)4 級合格、または DELF(フランス国民教育省フランス語学習資格)A2 合格
検定スペイン語	2	スペイン語技能検定(スペイン語技能検定委員会)5 級合格、またはスペイン語認定証(セルバンテス文化センター東京)DELE A2 合格
検定ロシア語	2	ロシア語能力検定試験(ロシア語能力検定委員会／東京ロシア語学院)4 級合格
検定中国語	2	中国語検定(HSK)3 級合格、または中国語検定試験(日本中国語検定協会)準 4 級合格
検定朝鮮語	2	ハングル能力検定試験(ハングル能力検定協会)5 級合格、または韓国語能力検定(韓国教育財団)1 級合格

※検定初修外国語を含め、1 ヶ国語または 2 ヶ国語を選択し、合計 6 単位を修得してください。

(8) 健康スポーツ科目

「健康スポーツ演習 B」は 2 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

教育職員免許状を取得する場合は必ず履修してください。

受講を希望する者は、『教養教育履修案内』および掲示等で確認してください。履修定員を超えた場合は、抽選を行い掲示により抽選結果を発表します。

(9) 外国人留学生のための授業科目

教養教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

① 日本語科目

大学で学修するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目の単位は「卒業にかかわる英語以外の外国語の単位」として算入されます。その詳細は下の表の通りです。

代替できる外国語と単位	備考
日本語科目 6 単位(実習科目 4 単位、演習科目 2 単位)を初修外国語の単位として読み替えます。	他の外国語を履修した場合でも、左記の日本語科目 6 単位は必修※

※日本語プレイスメントテストで中級と判断された経営学部留学生は、上記 6 単位に加え、「日本語中級」4 単位を履修しなければなりません。

すべての外国人留学生は入学時点で日本語プレイスメントテストを受け、日本語力のレベルによって中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では、1 年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので、注意してください。

中級者は、日本語実習科目のうち、1 年次春学期には日本語中級を履修してください。1 年次秋学期からは、日本語上級と日本語演習を履修していきます。

上級者は日本語中級を履修することができません。1 年次春学期から日本語上級を履修してください。1 年次秋学期からは日本語演習も履修できます。

以下は日本語教育担当教員が勧める日本語科目の履修モデルですので、参考にしてください。

中級者	1 年次春学期 : 日本語中級 4 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 4 単位、日本語演習 2 単位	合計 10 単位
上級者	1 年次春学期 : 日本語上級 2 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 2 単位、日本語演習 2 単位	合計 6 単位

日本語科目一覧

授業科目		セメスター	単位数	履修年次	備考
実習科目	日本語中級 A	春	1	1 年次	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。中級者は 1 年次春学期に履修してください。 ※日本語中級 G は 2 時限連続授業のため 2 単位です。
	日本語中級 C	春	1		
	日本語中級 D	春	1		
	日本語中級 E	春	1		
	日本語中級 F	春	1		
	日本語中級 G	春	2		
	日本語中級 H	春	1		
	日本語上級 A	春	1	1 年次～4 年次	中級者は 1 年次秋学期から履修できます。
	日本語上級 B	秋	1		
	日本語上級 D	秋	1		
	日本語上級 E	春	1		
	日本語上級 F	春	1		
	日本語上級 H	秋	1		
	日本語上級 I	春	1		
	日本語上級 J	秋	1		
	日本語上級 K	春	1		
	日本語上級 M	春	1		
	日本語上級 O	春	1		
演習科目	日本語演習 A	春	2	1 年次～4 年次	演習科目は 1 年次秋学期から履修できます。
	日本語演習 B 【注 1】	秋	2		
	日本語演習 C 【注 1】	秋	2		

【注 1】授業科目名変更等に伴う重複履修禁止科目

次の表の「2019 年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

2019 年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
日本語演習 B	日本語演習 D (2016)
日本語演習 C	日本語演習 E (2016)
日本事情 日本の就職事情	日本事情 日本で働く (2017) 日本事情 H (2016)
日本事情 日本の企業システム	日本の企業システム(国際交流科目) (2016)

② 日本事情科目

日本事情科目は現代科目の単位数に算入されます。

日本事情科目科目一覧

授業科目名	学期	単位	対象学年	備考
日本事情 日本の就職事情	秋	2	1～4	
日本事情 日本の企業システム	春	2	1～4	【注1】【注2】

【注2】「日本の企業システム」(専門教育科目として認定する国際交流科目)との重複履修はできません。

3. 専門教育科目

(1) 履修方法

次の「専門教育科目履修基準表」により、各所属学科の「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業に必要な学部・学科必修科目および選択必修科目は、所属する学科の「専門教育科目一覧表」(69～72 ページを参照)の授業科目から履修してください。それ以外の科目については、「自由選択科目」として、自らの所属と開講学科の別にかかわらず、「専門教育科目一覧」の中から自由に選択することができます。

専門教育科目履修基準表(昼間主コース)

学科 区分	経営学科	会計・情報学科	経営システム科学科	国際経営学科
学 部 必 修 科 目	簿記原理Ⅰ 2単位 簿記原理Ⅱ 2単位 経営の英語 2単位			
学 科 必 修 科 目	経営学総論Ⅰ 2単位 経営学総論Ⅱ 2単位	会計学原理Ⅰ 2単位 会計学原理Ⅱ 2単位 管理会計論Ⅰ 2単位 管理会計論Ⅱ 2単位	経営科学総論 2単位 ビジネス・エコノミクス 2単位 経営情報論ⅠA 2単位 ※2010年度以前入学生のみ 経営情報論ⅡA 2単位【注1】	経営学総論Ⅰ 2単位 経営学総論Ⅱ 2単位 国際経営論Ⅰ 2単位 比較経営論Ⅰ 2単位
選 択 必 修 科 目 【注2】	所属学科の選択必修科目から 12 単位選択			所属学科の選択必修 科目から 8 単位選択
法 律 関 係 科 目	6 単位	{ 経営学部昼間主コースおよび経済学部開講の法律関係科目の中 から選択してください。ただし、経済学部開講の法律関係科目は 「経済学部基幹科目群」の中の法律科目から選択してください。		
ゼミナール	8 単位 {ゼミナールⅠ 4単位 ゼミナールⅡ 4単位}	{ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できな かった場合は 8 単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単 位を、専門教育科目から修得してください。		
自 由 選 択 科 目 【注2】	経営学部昼間主コースで開講している全ての専門教育科目、インターンシップ等から選択できま す。			
計	76 単位以上			

【注1】「経営情報論ⅡA」は、2010年度以前入学生のみ必修です。

【注2】夜間主コース開講科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業にかかわる単位に算入できます(74ページを参照)。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時および卒業認定時に減算するので注意してください。

(2) 専門教育科目一覧表

専門教育科目では授業ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意して下さい。

なお、「授業科目一覧」中で「休講」となっている科目は、2019年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、前ページの「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

a. 昼間主コース 経営学科

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
経営学総論Ⅰ	春	2	1～4	高井 文子	【営】必修、【国】必修
経営学総論Ⅱ	秋	2	1～4	山岡 徹	【営】必修、【国】必修
経営管理論Ⅰ	春	2	2～4	山岡 徹	【営】選択必修
経営管理論Ⅱ		2	2～4	休講	【営】選択必修
経営組織論	秋	2	2～4	佐々木 秀綱	【営】選択必修
経営戦略論	秋	2	2～4	高井 文子	【営】選択必修
組織間関係論	春	2	2～4	ヘラー ダニエル	【営】選択必修
イノベーションマネジメント論	秋	2	3～4	貴志 奈央子	【営】選択必修
経営史	春	2	3～4	公文 蔵人	【営】選択必修
人的資源管理論Ⅰ	春	2	2～4	二神 枝保	【営】選択必修
人的資源管理論Ⅱ	秋	2	2～4	二神 枝保	【営】選択必修
現代コミュニケーション論	秋	2	2～4	中野 弘美	【営】選択必修
行動科学	秋	2	2～4	正木 郁太郎 ※	【営】選択必修
グループ・ダイナミクス		2	3～4	休講	【営】選択必修
産業社会学Ⅰ	春	2	2～4	小川 慎一	【営】選択必修
産業社会学Ⅱ	秋	2	2～4	小川 慎一	【営】選択必修
人間科学Ⅰ		2	2～4	休講	【営】選択必修
人間科学Ⅱ		2	2～4	休講	【営】選択必修
環境マネジメント論	春	2	2～4	孫 穎	【営】選択必修
環境計画学	秋	2	3～4	孫 穎	【営】選択必修
産業分析	春	2	3～4	貴志 奈央子	【営】選択必修
産業組織論		2	2～4	休講	【営】【シ】選択必修

b. 昼間主コース 会計・情報学科

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
簿記原理Ⅰ	春	2	1～4	泉 宏之	学部必修
簿記原理Ⅱ	秋	2	1～4	原 俊雄	学部必修
会計学原理Ⅰ	春	2	2～4	木村 晃久	【会】必修
会計学原理Ⅱ	秋	2	2～4	木村 晃久	【会】必修
制度会計論		2	3～4	休講	【会】選択必修
会計監査論Ⅰ	春	2	3～4	前山 政之	【会】選択必修
会計監査論Ⅱ	秋	2	3～4	前山 政之	【会】選択必修
公会計論Ⅰ	秋	2	2～4	齊藤 真哉	【会】選択必修
公会計論Ⅱ		2	2～4	休講	【会】選択必修
税務会計論Ⅰ	春	2	2～4	藤井 誠 ※	【会】選択必修【注1】
税務会計論Ⅱ	秋	2	2～4	藤井 誠 ※	【会】選択必修【注1】
戦略会計論	秋	2	3～4	高橋 賢	【会】選択必修【注1】
原価会計論	秋	2	2～4	高橋 賢	【会】選択必修

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
管理会計論Ⅰ	春	2	2～4	中村 博之	【会】必修
管理会計論Ⅱ	秋	2	2～4	中村 博之	【会】必修
生態会計論Ⅰ		2	2～4	休講	【会】選択必修
生態会計論Ⅱ	春	2	2～4	八木 裕之	【会】選択必修
国民会計論Ⅰ		2	2～4	休講	【会】選択必修
国民会計論Ⅱ	秋	2	2～4	大森 明	【会】選択必修

【注 1】「税務会計論Ⅰ・Ⅱ」「戦略会計論」は 2016 年度履修者から選択必修科目とします。すでに単位を修得した学生は履修できません。

c. 昼間主コース 経営システム科学科

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	科目区分・備考
経営科学総論	春	2	1～4	郭 沛俊	【シ】必修
ビジネス・エコノミクス	春	2	1～4	森田 洋	【シ】必修
意思決定論	春	2	2～4	郭 沛俊	【シ】選択必修
経営数学		2	2～4	休講	【シ】選択必修
生産システム論	春	2	3～4	松井 美樹	【シ】選択必修
オペレーションズ・リサーチⅠ	春	2	2～4	成島 康史 ※	【シ】選択必修
オペレーションズ・リサーチⅡ	秋	2	2～4	成島 康史 ※	【シ】選択必修
データ解析論	秋	2	2～4	寺本 高	【シ】選択必修
経営情報論ⅠA	春	2	1～4	佐藤 亮	【シ】必修
経営情報論ⅡA	秋	2	2～4	佐藤 亮	【シ】選択必修 (2011 年度以降入学生) 【シ】必修 (2010 年度以前入学生)
グループ思考システム論		2	1～4	休講	【シ】選択必修
マーケティング戦略論	秋	2	2～4	鶴見 裕之	【シ】選択必修
消費者行動論	春	2	2～4	寺本 高	【シ】選択必修
マーケティング・サイエンス	春	2	2～4	本橋 永至	【シ】選択必修
流通論	秋	2	2～4	鶴見 裕之	【シ】選択必修
経営財務論	秋	2	2～4	森田 洋	【シ】選択必修
ファイナンス・リスクマネジメント		2	2～4	休講	【シ】選択必修
証券市場論	秋	2	3～4	石田 慈宏 ※	【シ】選択必修
フィナンシャル・エコノミクス	春	2	3～4	森田 洋	【シ】選択必修
情報システム論	秋	2	3～4	田名部 元成	【シ】選択必修
ビジネスゲーム	春	2	3～4	田名部 元成	【シ】選択必修
インターネット・ビジネス・プランニング	春	2	2～4	瀧澤 哲夫 ※	【シ】選択必修

d. 昼間主コース 国際経営学科

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
国際経営論Ⅰ	春	2	2～4	河野 英子	【国】必修
国際経営論Ⅱ	秋	2	2～4	河野 英子	【国】選択必修
国際人事管理論Ⅰ	春	2	3～4	柴田 裕通	【国】選択必修
国際人事管理論Ⅱ	秋	2	3～4	柴田 裕通	【国】選択必修
国際マーケティング論Ⅰ	春	2	3～4	谷地 弘安	【国】選択必修
国際マーケティング論Ⅱ	秋	2	3～4	谷地 弘安	【国】選択必修
グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅰ	秋	2	3～4	高田 直樹 ※	【国】選択必修

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅱ		2	3～4	休講	【国】選択必修
国際会計論Ⅰ	春	2	3～4	高須 悠介	【国】選択必修
国際会計論Ⅱ	秋	2	3～4	高須 悠介	【国】選択必修
国際財務論Ⅰ	秋	2	3～4	北村 智紀 ※	【国】選択必修
国際財務論Ⅱ		2	3～4	休講	【国】選択必修
比較経営論Ⅰ	春	2	2～4	王 中奇 ※	【国】必修
比較経営論Ⅱ		2	2～4	休講	【国】選択必修
比較経営史Ⅰ	秋	2	2～4	青木 洋	【国】選択必修
比較経営史Ⅱ		2	2～4	休講	【国】選択必修
比較金融制度論Ⅰ	春	2	2～4	高橋 正彦 ※	【国】選択必修
比較金融制度論Ⅱ	秋	2	2～4	高橋 正彦 ※	【国】選択必修
国際コミュニケーション論		2	2～4	休講	【国】選択必修
言語コミュニケーション論	春	2	2～4	小林 正佳	【国】選択必修
比較社会文化論Ⅰ	秋	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	【国】選択必修
比較社会文化論Ⅱ		2	2～4	休講	【国】選択必修
比較技術経営論Ⅰ	春	2	2～4	真鍋 誠司	【国】選択必修
比較技術経営論Ⅱ		2	2～4	休講	【国】選択必修

e. 昼間主コース 経営の英語

「経営の英語」は経営学部の教員が個々の専門性に立脚しながら、英語を使って授業を行う学部必修の専門教育科目です。

クラスは選択制です。履修登録前の定められた期間に、経営学務係において、希望するクラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります。(掲示を十分注意すること)

なお、TOEFL または IELTS のスコアによる単位認定が可能です。詳細は 63 ページで確認してください。

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
経営の英語	春	2	3～4	中野 弘美	学部必修
経営の英語	秋	2	3～4	中野 弘美	学部必修
経営の英語	秋	2	3～4	小林 正佳	学部必修

f. 昼間主コース 法律科目(学科共通)

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
憲法	春	2	2～4	御幸 聖樹	法律関係 【注 1】
行政法	春	2	3～4	友岡 史仁 ※	
民法Ⅰ	春	2	2～4	宮澤 俊昭	
民法Ⅱ	秋	2	2～4	今村 与一	
民法Ⅲ	秋	2	2～4	渡邊 拓	
民法Ⅳ	春	2	3～4	常岡 史子	
商法Ⅰ	春	2	3～4	竹内 明世 ※	
商法Ⅱ	秋	2	3～4	竹内 明世 ※	
商法Ⅲ	秋	2	3～4	笹岡 愛美	
裁判法		2	3～4	休講	
基本租税法研究		2	3～4	休講	

【注 1】 2013 年度以前入学生については下記の科目を履修してください。

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分・備考
企業組織法Ⅰ	春	2	2～4	竹内 明世 ※	法律関係 (2013 年度以前入学生)
企業組織法Ⅱ	秋	2	2～4	竹内 明世 ※	
有価証券法	秋	2	3～4	笹岡 愛美	

a. 昼間主コース 学科共通科目

(※は非常勤講師)

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名	備考
特殊講義	グローバルビジネス実践論	秋	2	2～4	関 仁 ※	
	ホスピタリティ・マネジメント Hospitality Management	秋	2	3～4	森田 洋	【注 1】
	実務家が説く会計・監査・税務の最新事情	秋	2	2～4	木村 晃久	
	税理士による大学生のための租税法講義	春	2	2～4	原 俊雄	
	マーケティング・プラクティス	春	2	2～4	伊藤 淳司 ※	
	マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1～4	井上 徹 伊藤 淳司 ※	
	社会における実践体験－富丘会メッセージ－	春	2	2～4	石原 健一 ※	
	金融システムと金融機関 (ニッセイアセットマネジメント寄附講座)	秋	2	2～4	伊藤 有希 有江 慎一郎 ※	
	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1～4	国際交流委員長	
	Electric Vehicles and Corporate Strategy	秋	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	
	The Business of Mobility	春	2	2～4	ミハイル マリノフ ※	
	横浜 DeNA ベ이스ターズスポーツ経営論		2	2～4		別途掲示
	ビジネス慣行に学ぶ東南アジア諸国の本質	秋	2	2～4	森田 洋	
	International Business Accounting and Reporting - Intermediate	秋	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	
	Basics of Business Accounting	春	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	【注 2】
	Basics of Business Accounting	秋	2	1～4	スチュアート ブライソン ※	【注 2】
	International Management and Strategy	秋	2	1～4	シング マヘンデラ ※	
	Technology Enabled Business	秋	2	1～4	シング マヘンデラ ※	
	銀行論 横浜銀行連携講座	春	2	2～4	森田 洋	
	ハイパフォーマンス企業研究 アクセンチュア連携講座	春	2	2～4	関根 幸児 ※ 高橋 康文 ※	
	ソーシャルマネジメント論 富士ゼロックス連携講座	春	2	2～4	林田 昌也	
	Vietnam-Japan English Dialogue	秋	2	1～4	国際交流委員長	別途掲示
	Australia-Japan English Dialogue	春	2	1～3	国際交流委員長	別途掲示
インターンシップ	インターンシップ	[90 ページを参照してください]				

【注 1】 「ホスピタリティ・マネジメント」と「Hospitality Management」は同一科目で同一曜日・時限に開講されますが、クラス分けを行います。日本語名称科目の時間割コードで履修登録した場合は日本語で行うクラスを、英語名称科目の時間割コードで履修登録した場合は英語で行うクラスを受講します。また、「ホスピタリティ・マネジメント」と「Hospitality Management」を重複して履修することはできません。

【注 2】 旧授業科目名は「企業会計」「企業会計入門」です。重複履修はできません。

(3) 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目名が変更されています。次の新旧対照表を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目で認定します。ただし、旧授業科目の単位を修得済の場合は、新授業科目を履修できません。

2013 年度から変更

学科	新授業科目	単位	旧授業科目	単位
経営システム科学科	マーケティング戦略論	2	マーケティング論Ⅰ	2
	消費者行動論	2	マーケティング論Ⅱ	2
	マーケティング・サイエンス【注1】	2	マーケティング論Ⅲ【注1】	2
	インターネット・ビジネス・プランニング	2	インターネットコミュニティとEコマース	2

2014 年度から変更

学科	新授業科目	単位	旧授業科目	単位
経営学科	産業分析	2	公的規制論	2
経営システム科学科	経営財務論	2	財務論Ⅰ	2
	ファイナンシャルリスクマネジメント	2	財務論Ⅱ	2

【注1】 マーケティング論Ⅲ、マーケティング・サイエンス、流通論の取り扱いについて、履修・単位取得状況によって履修制限があります。特に再履修をする際は注意するようにしてください。

マーケティング論Ⅲ (2012 年度以前)	マーケティング・サイエンス (2013 年度)		流通論	マーケティング・サイエンス (2014 年度以降)
単位修得	(履修×)	→	履修×	履修○
未履修	単位修得	→	履修○	履修×
未履修	不可	→	履修○	履修○(再履修)
不可	単位修得(再履修)	→	履修○	履修×
不可	不可又は未履修	→	履修○(※再履修)	履修○(※再履修)

※マーケティング論Ⅲが不可となり、かつ 2013 年度にマーケティング・サイエンスを不可または未履修の場合は、流通論かマーケティング・サイエンスのどちらでも再履修することができます。また、再履修科目として申請しなかった方の科目は通常通り履修することができますが、経営学務係への申請が必要となりますので注意してください。

(4) 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

科目名	教員名
簿記原理Ⅱ	原 俊雄
会計監査論Ⅱ	前山 政之
管理会計論Ⅱ	中村 博之
国際マーケティング論Ⅱ	谷地 弘安
国際経営論Ⅱ	河野 英子

(5) 夜間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、昼間主コースの学生が、夜間主コースのために開講されている授業科目を、履修時間帯を超えて履修することです。なお、相互履修については以下の制限があるので留意してください。

- ① 相互履修できるのは2年次生からです。
- ② 夜間主コース開講科目のうち、次の授業科目は相互履修できません。
 - ・夜間主教養科目(3から始まる時間割コードの教養教育科目)
 - ・外国語科目
 - ・専門教育科目のうち次の科目
 - 基本科目群、ゼミナール、夜間主開講法律関係科目、学部必修科目および所属学科の学科必修科目と同一名称の科目
- ③ 相互履修により修得した専門教育科目の単位は、30単位まで卒業に必要な単位数に算入することができます。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および卒業認定時に減算するので注意してください。
- ④ 昼間主コースおよび夜間主コース両方に開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- ⑤ 夜間主コースのみに開設されている授業を昼間主コースの学生が履修する場合の区分は、「自由選択科目」となります。
- ⑥ 昼夜同時開講科目

「昼夜同時開講科目」とは、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、主に5時限に開講される科目のことです。これらは昼間主および夜間主コース所属の学生双方のために開講されており、学生は該当科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。よって、単位数についての上述③の制限を受けません。今年度の開講科目は、専門教育科目一覧表(69ページ～72ページ)を参照してください。なお、5時限に開講される科目が全て昼夜同時開講科目ではないので、注意して下さい。

4. 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち次の表にある科目の単位を修得した場合は、最大30単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業にかかわる単位数に算入します。

それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および卒業認定時に減算するので注意してください。

なお、修得した単位の取扱いについては、a～gのとおりです。

① 経済学部専門教育科目 ≤ 8 単位 ② 経済学部法律関係授業科目 ≤ 6 単位 ③ 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ≤ 8 単位 ④ 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)認定科目 ≤ 8 単位 ⑤ 専門教育科目として認定する国際交流科目 ≤ 8 単位 ⑥ 交換留学(派遣)・休学中の留学による単位認定 ≤ 30 単位	$①+②+③+④+⑤+⑥ \leq 30 \text{ 単位}$
---	----------------------------------

a. 経済学部開講科目

- ① 経済学部の専門教育科目は、8単位まで卒業にかかわる専門教育科目(自由選択科目)の単位数に算入します。

② 下記の授業科目は履修の対象から除外します。

- ・履修学年に1年次が含まれている授業科目
- ・集中講義の形式で実施される授業科目
- ・インターンシップ
- ・ゼミナール
- ・教職に関する授業科目

③ 成績は GPA に算定します。

④ 法律関係授業科目の単位の取り扱い(昼間主コースのみ)

昼間主コースの学生は経済学部法律関係授業科目を履修することができます。修得した単位のうち6単位までは上記①の8単位とは別に専門教育科目履修基準表に規定する法律関係授業科目の単位数に算入します。法律関係授業科目の修得単数が6単位を超えた場合のみ、その超過分を上記①の単位数に算入します。

【2014年度以降入学生】

経営学部開講の全ての法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講しています。どちらの学部の科目も同一名称なので、経営学部の科目(時間割コードが3で始まる科目)で履修登録してください。

【2013年度以前入学生】

下記の法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講している同一科目です。経営学部生は経営学部開講の科目名で履修登録してください。

経営学部開講		経済学部開講
企業組織法Ⅰ	↔	商法1
企業組織法Ⅱ	↔	商法2
有価証券法	↔	商法4

⑤ 経営学部生が履修できる経済学部専門教育科目(法律関係授業科目を含む)は配布する時間割表に掲載しています。

b. 教育学部、理工学部および都市科学部開講科目

教育学部、理工学部および都市科学部で開講される専門教育科目のうち、一部の科目を履修することができます。ただし、それらの科目の単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績も GPA に算定しません。履修希望者は経営学務係へ相談してください。

c. 地域交流科目

地域の課題解決を担う人材を実践的に育てることを目的として開設しています。「副専攻プログラム」のひとつです。詳細は、『地域交流科目シラバス』を参照してください。

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

本学大学院国際社会科学府経営学専攻博士課程前期の開講科目を履修することができます。履修を希望する学生は、履修登録前に経営学務係に履修希望届を提出してください。

- ① 提供科目は原則として、社会人専修コース(ビジネス・スクール)を除くすべての開講科目です。
- ② 履修年次は4年次のみです。
- ③ 履修の可否は科目担当教員により決定されます。
- ④ 本人の申し出により、8単位まで卒業にかかわる単位数に算入することができます。
- ⑤ 成績は GPA に算定しません。

- ⑥ 学部の卒業にかかわる単位数に算入せず、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期に進学した場合は、本人の申し出により、8 単位まで修了にかかわる単位数に算入することができます。

e. 横浜市内大学間単位互換制度(放送大学含む)

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある 12 の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。なお、放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、専門教育科目のみです。
- ② 8 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。
- ③ 成績は GPA に算定しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。
- ⑤ 単位認定は科目の内容および成績に基づいて、経営学部で行います。
※全ての科目が認定されるわけではありません。不安な方は経営学務係までお問い合わせ下さい。
- ⑥ 履修希望者は学務部教育企画課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務部教育企画課へ申請してください。
※放送大学の申請手続きは横浜市内大学間の手続きとは異なります。掲示で確認して下さい。
- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、学務部教育企画課より履修希望者に通知します。

f. 国際交流科目

国際交流科目は国際交流科目の時間割コードを用いて履修登録をしますが、単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績は GPA には算定しないので気を付けてください。

ただし、経営学部専門教育科目として認定する科目は 8 単位を上限として卒業にかかわる単位数に算入します。

2019 年度の認定科目は下記のとおりです。 (※は非常勤講師)

科目名	学期	単位	履修年次	担当教員	備考
日本の経営	春	2	1～4	ミハイル マリノフ ※	成績は GPA に算定しません。
日本型生産管理	春	2	1～4	松井 美樹	
日本の企業システム【注 1】	春	2	1～4	長谷川 健治	

※修得単位数が 8 単位を超えた場合は、卒業論文資格認定および卒業認定時に減算するので、注意してください。

【注 1】「日本事情 日本の企業システム」(教養教育科目)との重複履修はできません。

g. 留学による単位認定

交換留学(派遣)制度および休学期間中に外国の大学または短期大学において履修し単位を修得した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位を認定します。単位の認定方法は 94 ページを参照してください。

5. ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールⅠ・Ⅱとも教員の承認を得る必要があります。また、ゼミナールⅠについては基礎演習(62 ページを参照)、ゼミナールⅡについてはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 選考・開始時期

ゼミナールの選考は原則として2年次春学期に行います。ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。

③ 定員

各ゼミナールとも1学年につき12名程度とします。(ただし、交換留学(派遣)決定者は定員外とすることができます。)

④ 単位数

ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位(計8単位)です。ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を専門教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名および辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名することができます。

ただし、学生が辞退を申し出たときは、指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず経営学務係へ申し出てください。

6. 卒業論文試験

① 時期

4年次秋学期

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、3年を超えて在学(休学や3ヶ月を超える停学期間等は除く)し、ゼミナールの単位を除く、卒業にかかわる専門教育科目の単位を48単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年(4年次に受験の場合は3年次)秋学期までの成績で資格の有無が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の専門教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門や夜間主開講科目等卒業にかかわる単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位や、卒業資格外単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

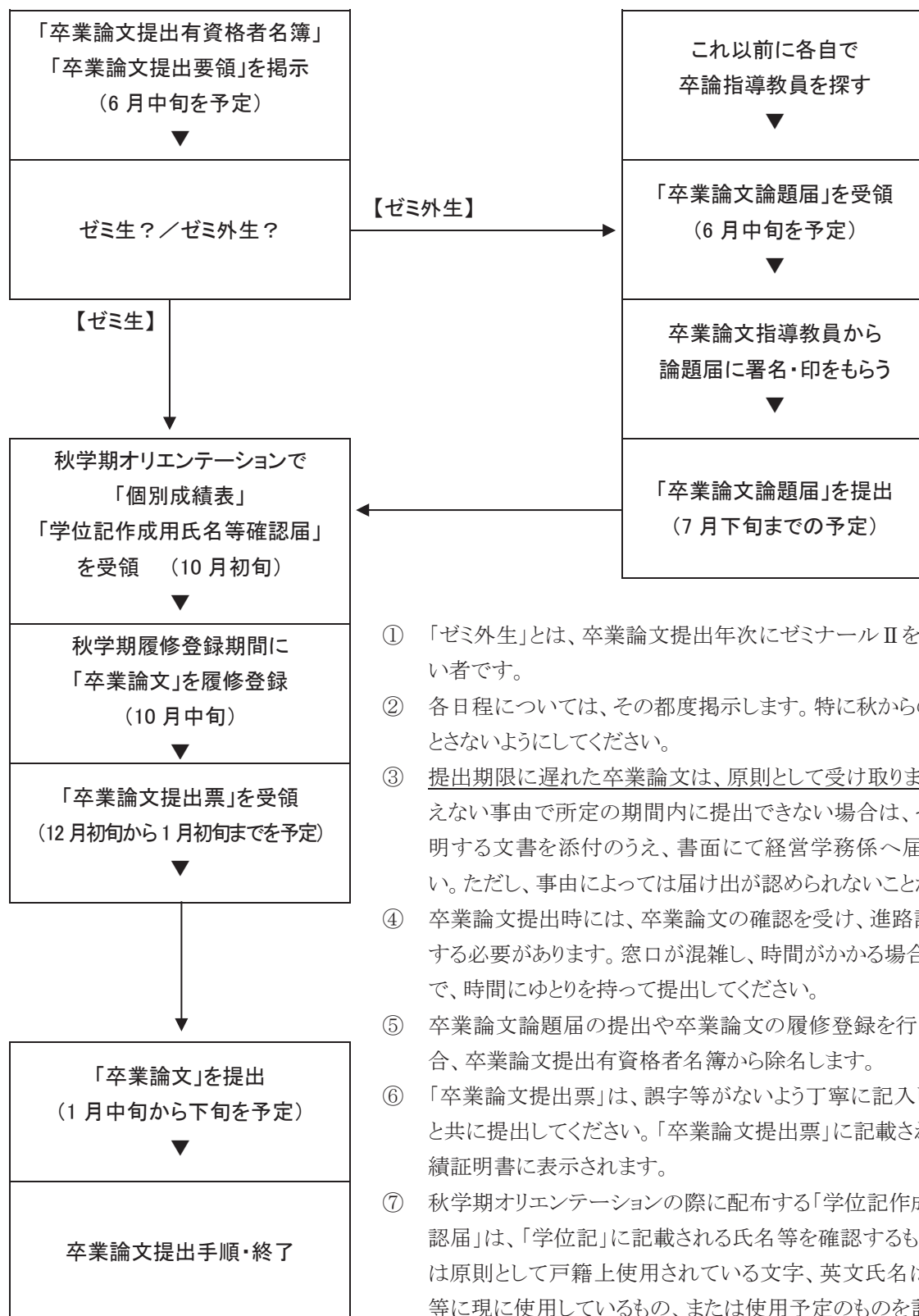
③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の7月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し(経営学務係では斡旋しません)、「卒業論文論題届」を経営学務係へ届け出てください(詳細は6月中旬に掲示します)。届け出なかった場合は、卒業論文有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

次ページ「卒業論文提出の流れ図」を参照してください。

＜卒業論文提出手順の流れ図＞



- ① 「ゼミ外生」とは、卒業論文提出年次にゼミナールⅡを履修していない者です。
- ② 各日程については、その都度掲示します。特に秋からの掲示を見落とさないようにしてください。
- ③ 提出期限に遅れた卒業論文は、原則として受け取りません。やむをえない事由で所定の期間内に提出できない場合は、その理由を証明する文書を添付のうえ、書面にて経営学務係へ届け出てください。ただし、事由によっては届け出が認められないことがあります。
- ④ 卒業論文提出時には、卒業論文の確認を受け、進路調査票を提出する必要があります。窓口が混雑し、時間がかかる場合がありますので、時間にゆとりを持って提出してください。
- ⑤ 卒業論文論題届の提出や卒業論文の履修登録を行わなかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。
- ⑥ 「卒業論文提出票」は、誤字等がないよう丁寧に記入して卒業論文と共に提出してください。「卒業論文提出票」に記載された論題は成績証明書に表示されます。
- ⑦ 秋学期オリエンテーションの際に配布する「学位記作成用氏名等確認届」は、「学位記」に記載される氏名等を確認するものです。氏名は原則として戸籍上使用されている文字、英文氏名は、パスポート等に現に使用しているもの、または使用予定のものを記入してください。

2011～2016 年度入学生用（昼間主コース） 修得単位確認表
（2010 年度以前入学生は経営学務係で配布する卒業要件チェック表を使用してください）

[教養教育科目]

項目・科目名等					チェック欄	修得単位数	必要・上限 単位数
教 養 コ ア 科 目	基礎科目：人文社会系						4単位以上
	基礎科目：自然科学系	必修 科目	経営学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A 微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ			8単位
			会計・情報学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ			12単位
			経営システム科学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ			12単位
			国際経営学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A			4単位
			その他自然科学系科目				－
	現代科目						2単位以上
	総合科目						2単位以上
	基礎演習科目（選択科目）						2単位
教養コア科目＋基礎演習科目（選択科目）						24単位以上	
外 国 語 科 目	英語 ※英語 Advanced での代替可		英語実習1S 英語実習1W 英語実習1LR春学期 英語実習1LR秋学期 英語実習2SW 英語実習2LR 英語演習			8単位	
	英語以外の外国語	1カ国語の場合	実習1 実習2 実習1 実習2 演習			6単位	
	※言語によって要件が存在 することがあります。不安な 方は経営学務係までご相談 ください。	2カ国語の場合	実習1 実習2 実習1 実習2 実習1 実習2				
		言語A 言語B					
健康スポーツ科目（選択科目）						2単位まで	
合計1						38単位以上	

[専門教育科目]

項目・科目名等			チェック欄	修得単位数	必要・上限 単位数
学部必修科目		簿記原理Ⅰ 簿記原理Ⅱ 経営の英語			6単位
学科必修科目	経営学科	経営学総論Ⅰ 経営学総論Ⅱ			4単位
	会計・情報学科	会計学原理Ⅰ 会計学原理Ⅱ 管理会計論Ⅰ 管理会計論Ⅱ			8単位
	経営システム科学科	経営科学総論 ビジネス・エコノミクス 経営情報論ⅠA			6単位
	国際経営学科	経営学総論Ⅰ 経営学総論Ⅱ 国際経営論Ⅰ 比較経営論Ⅰ			8単位
選択必修科目	経営学科				12単位以上
	会計・情報学科				12単位以上
	経営システム科学科				12単位以上
	国際経営学科				8単位以上
法律関係科目		経営学部昼間主コース開講法律科目			6単位以上
自由・特殊科目					夜間主開講科目は30単位まで
ゼミナール(選択科目)		ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ			各4単位
その他 ※2	経済学部開講法律科目 ※1				6単位まで
	経済学部開講専門教育科目 ※1				8単位まで
	国際社会科学府 経営学専攻博士課程前期開講科目				8単位まで
	横浜市内大学間単位互換 (放送大学含む)				8単位まで
	国際交流科目				8単位まで
	インターンシップ				6単位まで
合計2					76 単位以上
合計1 + 合計2					128 単位以上

※1 経済学部開講法律関係科目について
この科目の単位は、6 単位まで法律関係授業科目として算入できます。6 単位を超えて修得した単位は、経済学部専門教育科目として算入することができます。
ただし、経済学部専門教育科目には上限が設定されていますで、8 単位を超えて算入することができません。
（例）法律関係科目 8 単位 ＋ 専門教育科目 6 単位 → 法律関係科目として 6 単位、専門教育科目として 8 単位を卒業にかかわる単位数に算入できる
（例）法律関係科目 8 単位 ＋ 専門教育科目 8 単位 → 法律関係科目として 6 単位、専門教育科目として 8 単位を卒業にかかわる単位数に算入し、法律関係科目として修得した残り 2 単位は卒業資格外単位とする

※2 その他科目について
経済学部法律関係授業科目 ＋ 経済学部専門教育科目 ＋ 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ＋ 横浜市内大学間単位互換（放送大学含む）＋ 専門教育科目として認定される国際交流科目 ＋ 留学認定科目 ≤ 30 単位
という上限があります。合計 30 単位を超えて卒業にかかわる単位数に算入することができませんのでご注意ください。

◎個別成績表に「卒業資格基準外科目」がある場合は「総合計」から減算するのでご注意ください。

2016年度以前入学者用 (夜間主コース)

VI. 2016 年度以前入学生 <夜間主コース>

1. 卒業要件

- ① 経営学部で 4 年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目および単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算 GPA(Grade Point Average)が 2.0 以上あること(GPA については8ページを参照)
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(経営学)」の学位を授与します。

(1) 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養教育科目および専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数を定めており、卒業までにこれら全ての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表(夜間主コース)

教養教育科目	夜間主教養教育科目【注1】		24 単位以上
	外国語科目	英語	8 単位
		英語以外の外国語(1ヶ国語)【注2】	
	健康スポーツ科目【注3】		2 単位まで
	計		36 単位以上
専門教育科目	基本科目群		8 単位以上
	法律関係授業科目		6 単位以上
	ゼミナール【注4】		8 単位
	自由選択科目		—
	計		76 単位以上
合 計【注5】			124 単位以上

【注 1】 昼間主コースの教養教育科目のうち、インターンシップ前提科目、地域交流科目、グローバル副専攻プログラム「グローバル PlusONE」科目群に含まれる科目(卒業資格外単位となる科目を除く)の単位を修得した場合は、卒業資格にかかわる夜間主教養教育科目の単位数に算入します。

【注 2】 英語以外の外国語は「ドイツ語」または「フランス語」から 1ヶ国語を選択履修してください。なお、放送大学科目の「ドイツ語」および「フランス語」の単位を、2 単位まで英語以外の外国語の単位として認定します。(88 ページを参照)

【注 3】 昼間主コースで開設している健康スポーツ科目を履修することができます。修得した単位は、2 単位まで卒業資格にかかわる教養教育科目の単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注 4】 ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は、専門教育科目から単位を修得してください。(89 ページを参照)

【注 5】 合計 124 単位のうち、教養教育科目 36 単位および専門教育科目 76 単位を除いた 12 単位分は、教養教育科目または専門教育科目のどちらから修得しても構いません。

(2) 1 単位当たりの授業時間

昼間主コースと同様です(53 ページを参照)。

(3) 9 月卒業について

昼間主コースと同様です(53 ページを参照)。

2. 教養教育科目

(1) 必修科目

教養教育科目の必修科目は次の表のとおりです。

区分	学科	経営学科
教 養 教 育 科 目	数学Ⅰ・Ⅱ 統計学Ⅰ－B・Ⅱ－B	
英 語	「英語」の 1-1-Ⅰ, 1-1-Ⅱ, 1-2-Ⅰ, 1-2-Ⅱ 2-1-Ⅰ, 2-1-Ⅱ, 2-2-Ⅰ, 2-2-Ⅱ	
英語以外の外国語	「ドイツ語」または「フランス語」の 1-Ⅰ, 1-Ⅱ, 2-Ⅰ, 2-Ⅱ ※放送大学の「ドイツ語」または「フランス語」の単位を修得した場合は、上記科目のいずれかに読み替えます。ただし、放送大学の 2 単位を、本学では 1 単位として認定するので、注意してください。	

(2) 夜間主教養教育科目一覧表

(※は非常勤講師)

分野	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
人文分野	哲学Ⅰ	春	2	1～4	野村 智清 ※	
	哲学Ⅱ	秋	2	1～4	野村 智清 ※	
	論理・倫理Ⅰ	春	2	1～4	長田 怜 ※	
	論理・倫理Ⅱ	秋	2	1～4	長田 怜 ※	
	国語・国文学Ⅰ	春	2	1～4	伊藤 高雄 ※	
	国語・国文学Ⅱ	秋	2	1～4	伊藤 高雄 ※	
	歴史Ⅰ	春	2	1～4	穴山 朝子 ※	
	歴史Ⅱ	秋	2	1～4	穴山 朝子 ※	
	美学及び美術史Ⅰ	春	2	1～4	森山 緑 ※	
	美学及び美術史Ⅱ	秋	2	1～4	森山 緑 ※	
	心理学	春	2	1～4	山田 一子 ※	
社会分野	社会学Ⅰ	春	2	1～4	小林 由里子 ※	
	社会学Ⅱ	秋	2	1～4	小林 由里子 ※	
	社会科学概論Ⅰ	春	2	1～4	飛田 綾子 ※	
	社会科学概論Ⅱ	秋	2	1～4	飛田 綾子 ※	
	経済Ⅰ	春	2	1～4	中田 大悟 ※	
	経済Ⅱ	秋	2	1～4	中田 大悟 ※	
	法学	春	2	1～4	御手洗 大輔 ※	
	日本国憲法	秋	2	1～4	御手洗 大輔 ※	
自然分野	数学Ⅰ	春	2	1～4	落海 望 ※	
	数学Ⅱ	秋	2	1～4	落海 望 ※	
	統計学Ⅰ－B	春	2	1～4	坂原 樹麗 ※	
	統計学Ⅱ－B	秋	2	1～4	坂原 樹麗 ※	

分野	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
自然分野	化学Ⅰ	春	2	1～4	矢ヶ部 重隆 ※	
	化学Ⅱ	秋	2	1～4	矢ヶ部 重隆 ※	
	物理学Ⅰ	春	2	1～4	渋谷 一夫 ※	
	物理学Ⅱ	秋	2	1～4	渋谷 一夫 ※	

(3) 外国語科目

(※は非常勤講師)

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員等	備考
英 語	英語 1-1-I	春	1	1～4	木村 聡雄 ※	
	英語 1-1-II	秋	1	1～4	木村 聡雄 ※	
	英語 1-2-I		1	1～4		
	英語 1-2-II	秋	1	1～4	片岡 雅知 ※	
	英語 2-1-I	春	1	2～4	木村 聡雄 ※	
	英語 2-1-II	秋	1	2～4	木村 聡雄 ※	
	英語 2-2-I	春	1	2～4	片岡 雅知 ※	
	英語 2-2-II	秋	1	2～4	片岡 雅知 ※	
英語以外の 外国語	ドイツ語 1-I		1	1～4		【注1】
	ドイツ語 1-II		1	1～4		【注1】
	ドイツ語 2-I		1	2～4		【注1】
	ドイツ語 2-II		1	2～4		【注1】
	フランス語 1-I	春	1	1～4	平岡 敦 ※	【注2】
	フランス語 1-II	秋	1	1～4	平岡 敦 ※	【注2】
	フランス語 2-I	春	1	2～4	平岡 敦 ※	【注2】
	フランス語 2-II	秋	1	2～4	平岡 敦 ※	【注2】

【注1】ドイツ語を履修する場合は、放送大学のドイツ語科目を履修してください。(88 ページを参照)

【注2】放送大学のフランス語科目を履修することもできます。(88 ページを参照)

a. TOEFL, IELTS スコアによる単位認定について

TOEFL または IELTS において、基準のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。スコアは申請月から遡って 12 ヶ月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、単位認定は 1 回限りとし、すでに単位を取得した科目がある場合は認定できません。

認 定 基 準	TOEFL iBT100 以上、ITP600 以上 IELTS 7.0 以上
単位認定科目	1 年次の科目：「英語」の 1-1-I、1-1-II、1-2-I、1-2-II 4 科目 4 単位について「秀」を認定します。 2 年次の科目：「英語」の 2-1-I、2-1-II、2-2-I、2-2-II のうち、2 科目 2 単位について「秀」を認定します。 3 年次の科目：経営の英語 1 科目 2 単位について「秀」を認定します。
申 請 時 期	春学期または秋学期の履修登録期間中に、各実施団体の証明書の写しを添えて申請してください。

b. 検定初修外国語科目

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。

認定された場合は、卒業にかかわる英語以外の外国語(ドイツ語またはフランス語の場合)の 2 科目 2 単位として読み替えることができます。

申請する場合は、「検定初修外国語申請書」および検定試験の証明書(本学入学後に取得したもので、かつ取得後 2 年以内のものに限る)を学生センター(学務部教育企画課)に提出してください。(申請書は経営学務係にあります。)なお、複数の外部検定試験のスコアを獲得しても、1 科目につき単位認定できるのは 1 回のみとなります。

授業科目名	単位	外部検定試験のスコア基準
検定ドイツ語	2	ドイツ語技能検定試験(ドイツ語学文学振興会)4 級合格、またはドイツ語検定試験(ゲーテ・インスティトゥート)A2 合格
検定フランス語	2	実用フランス語技能検定試験(フランス語教育振興協会)4 級合格、または DELF(フランス国民教育省フランス語学習資格)A2 合格
検定イスパニア語	2	スペイン語技能検定(スペイン語技能検定委員会)5 級合格、またはスペイン語認定証(セルバンテス文化センター東京)DELE A2 合格
検定ロシア語	2	ロシア語能力検定試験(ロシア語能力検定委員会／東京ロシア語学院)4 級合格
検定中国語	2	中国語検定(HSK)3 級合格、または中国語検定試験(日本中国語検定協会)準 4 級合格
検定朝鮮語	2	ハングル能力検定試験(ハングル能力検定協会)5 級合格、または韓国語能力検定(韓国教育財団)1 級合格

3. 専門教育科目

(1) 履修方法

「専門教育科目履修基準表」により、必要な授業科目・単位数を履修してください。基本科目群として履修する科目以外のものについては、「専門教育科目一覧表」(84～85 ページを参照)の中から自由に選択できます。

専門教育科目履修基準表(夜間主コース)

区分	学科	経営学科
基本科目群	経営学総論Ⅰ 簿記原理Ⅰ ビジネス・エコノミクス 国際経営論Ⅰ 上記から 8 単位以上を履修すること。	経営学総論Ⅱ 簿記原理Ⅱ 経営情報論ⅠB 国際経営論Ⅱ
法律関係授業科目	6 単位以上(経営学部夜間主コース開講の法律関係科目に限ります。)	
ゼミナール	8 単位(ゼミナールⅠ・4 単位、ゼミナールⅡ・4 単位) ※ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は 8 単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は 4 単位を専門教育科目から修得してください。	
自由選択科目【注 1】	基本科目群以外の専門教育科目、特殊講義、インターンシップ等から選択できます。	
計	76 単位以上	

【注1】 昼間主コース開講の専門教育科目の単位を修得した場合、30 単位を上限として卒業資格にかかわる単位に算入できます(86 ページを参照)。30 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および卒業認定時に減算するので注意してください。

(2) 専門教育科目一覧表

専門教育科目では授業ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意してください。

「授業科目一覧」の中で「休講」となっている科目は、2019 年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、前述の「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

a. 夜間主コース 経営学科

経営関係授業科目

(※は非常勤講師)

授業科目	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
経営学総論Ⅰ		2	1～4	休講	基本科目群
経営学総論Ⅱ	秋	2	1～4	山岡 徹	基本科目群
経営学原理Ⅰ	春	2	2～4	溝部 陽司 ※	
経営学原理Ⅱ	秋	2	2～4	溝部 陽司 ※	
経営組織論	秋	2	2～4	佐々木 秀綱	
経営戦略論	春	2	2～4	ヘラー ダニエル	
経営史	春	2	3～4	公文 蔵人	
人的資源管理論Ⅰ		2	2～4	休講	
人的資源管理論Ⅱ		2	2～4	休講	
行動科学		2	2～4	休講	
産業社会学Ⅰ		2	2～4	休講	
産業社会学Ⅱ		2	2～4	休講	
人間科学Ⅰ	春	2	2～4	小嶋 正敏 ※	
人間科学Ⅱ	秋	2	2～4	小嶋 正敏 ※	
産業組織論		2	2～4	休講	

会計・情報関係授業科目

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
簿記原理Ⅰ	春	2	1～4	泉 宏之	基本科目群
簿記原理Ⅱ	秋	2	1～4	原 俊雄	基本科目群
会計学原理Ⅰ	春	2	2～4	齋藤 真哉	
会計学原理Ⅱ	秋	2	2～4	齋藤 真哉	
公会計論Ⅰ		2	2～4	休講	
公会計論Ⅱ		2	2～4	休講	
原価会計論		2	2～4	休講	
管理会計論Ⅰ	春	2	2～4	君島 美葵子	
管理会計論Ⅱ	秋	2	2～4	君島 美葵子	
生態会計論Ⅰ	春	2	2～4	八木 裕之	
生態会計論Ⅱ	春	2	2～4	八木 裕之	
国民会計論Ⅰ		2	2～4	休講	
国民会計論Ⅱ		2	2～4	休講	

経営システム科学関係授業科目

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
経営科学総論		2	1～4	休講	
ビジネス・エコノミクス		2	1～4	休講	基本科目群
意思決定論		2	2～4	休講	
生産システム論	春	2	3～4	松井 美樹	
経営情報論ⅠB	春	2	1～4	杉村 倫代 ※	基本科目群
経営情報論ⅡB	秋	2	1～4	杉村 倫代 ※	
マーケティング戦略論	秋	2	2～4	鶴見 裕之	
消費者行動論		2	2～4	休講	
経営財務論		2	2～4	休講	
ファイナンスリスクマネジメント	秋	2	2～4	伊藤 有希	

国際経営関係授業科目

(※は非常勤講師)

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	備考
国際経営論Ⅰ	春	2	2～4	竹内 竜介	基本科目群
国際経営論Ⅱ	秋	2	2～4	竹内 竜介	基本科目群
国際人事管理論Ⅰ		2	3～4	休講	
国際人事管理論Ⅱ		2	3～4	休講	
比較経営史Ⅰ		2	2～4	休講	
比較経営史Ⅱ		2	2～4	休講	
言語コミュニケーション論	春	2	2～4	小林 正佳	
比較技術経営論Ⅰ		2	2～4	休講	
比較技術経営論Ⅱ	秋	2	2～4	真鍋 誠司	

法律関係授業科目およびその他の専門科目

(※は非常勤講師)

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員
法律関係 【注1】	民法1		2	2～4	休講
	民法2		2	2～4	休講
	民法3	春	2	2～4	長 友昭 ※
	商法1	春	2	3～4	西村 将樹 ※
	商法2	秋	2	3～4	西村 将樹 ※
	商法3	春	2	3～4	西村 将樹 ※
インターシップ	インターンシップ	[90 ページを参照してください]			
特殊講義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1～4	国際交流委員長
	ビジネス慣行に学ぶ東南アジア諸国の本質	秋	2	2～4	森田 洋

【注1】2013年度以前入学生については下記の科目を履修してください。

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員
法律関係	企業組織法Ⅰ	春	2	2～4	西村 将樹 ※
	企業組織法Ⅱ	秋	2	2～4	西村 将樹 ※
	有価証券法	春	2	3～4	西村 将樹 ※
	企業活動と法	春	2	2～4	長 友昭 ※
	民法Ⅰ		2	2～4	休講
	民法Ⅱ		2	2～4	休講

(3) 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目名が変更されています。次の新旧対照表を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目名で認定します。ただし、旧授業科目の単位を修得済みの場合は、新授業科目を履修できません。

2013 年度から変更

新授業科目	単位	旧授業科目	単位
マーケティング戦略論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅰ	2
消費者行動論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅱ	2

2014 年度から変更

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
経営財務論〈科目名変更〉	2	財務論Ⅰ	2
ファイナンスリスクマネジメント〈科目名変更〉	2	財務論Ⅱ	2

(4) 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

科目名	教員名
簿記原理Ⅱ	原 俊雄
管理会計論Ⅱ	君島 美葵子

(5) 昼間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、夜間主コースの学生が、昼間主コースの学生のために開講されている授業科目を、履修時間帯を越えて履修することです。

a. 教養教育科目

- ① 1 年次から相互履修することができます。
- ② 教養教育科目のうち履修できる科目

- ・ インターンシップ前提科目（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」
- ・ 地域交流科目（教養教育のみ）
- ・ グローバル PlusONE 副専攻プログラムの科目群に含まれる科目の一部（詳細は経営学務係で確認してください。）

以上の科目を修得した場合は、卒業資格にかかわる夜間主教養教育科目の単位に算入されます。

- ・ 健康スポーツ科目

修得した場合、2 単位まで卒業にかかわる教養教育科目の単位数に算入されます。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

- ・ 英語による授業科目の一部

履修できる科目については掲示および窓口にて一覧を配布しますので、確認してください。単位を修得した場合は、卒業資格外の単位となります。

b. 専門教育科目

- ① 相互履修できるのは2年次生からです。
- ② 相互履修できない科目は、「基本科目群と同一名称の科目」、「経営の英語」、「法律関係授業科目」、「ゼミナール」です。
- ③ 相互履修により修得した専門教育科目の単位は、30単位まで卒業資格にかかわる単位数に算入できます。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および卒業認定時に減算するので注意してください。
- ④ 夜間主および昼間主コースの両方で開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- ⑤ 昼間主コースのみに開設されている授業科目を、夜間主コースの学生が履修登録する場合の授業区分は「特殊講義」となります。
- ⑥ 昼夜同時開講科目
「昼夜同時開講科目」とは、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、主に昼夜相互時間帯（5時限）に開講される科目のことです。これらは昼間主および夜間主コース所属の学生双方のために開講されており、学生は当該科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。よって、単位数についての上述③の制限を受けません。今年度の開講科目は、専門教育科目一覧表（84ページ～85ページ）を参照してください。なお、5時限に開講される科目が全て昼夜同時開講科目ではないので、注意して下さい。

4. 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち下記の表にある科目の単位を修得した場合は、最大30単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。

それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時および、卒業認定時に減算するので注意してください。

なお、修得した単位の取扱いについては、a～gのとおりです。

① 経済学部専門教育科目 ≤ 8 単位	①+②+③+④+⑤+⑥ ≤ 30 単位
② 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ≤ 8 単位	
③ 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)認定科目 ≤ 8 単位	
④ 放送大学の英語以外の外国語科目 ≤ 2 単位	
⑤ 専門教育科目として認定する国際交流科目 ≤ 8 単位	
⑥ 交換留学(派遣)・休学中の留学による単位認定 ≤ 30 単位	

a. 経済学部開講科目

- ① 経済学部の専門教育科目は、8単位まで卒業にかかわる専門教育科目（自由選択科目）の単位数に算入します。
- ② 次の授業科目は履修の対象から除外します。
 - ・履修学年に1年次が含まれている授業科目
 - ・集中講義の形式で実施される授業科目
 - ・インターンシップ
 - ・ゼミナール
 - ・教職に関する授業科目
 - ・法律関係授業科目
- ③ 成績はGPAに算定します。

b. 教育学部、理工学部および都市科学部開講科目

昼間主コースと同様です。(75 ページを参照)

c. 地域交流科目

昼間主コースと同様です。(75 ページを参照)

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

昼間主コースと同様です。(75 ページを参照)

e. 横浜市内大学間単位互換制度(放送大学含む)

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある 12 の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。なお、放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、専門教育科目および英語以外の外国語科目です。
- ② 専門教育科目 8 単位、英語以外の外国語科目(放送大学のみ)2 単位まで、卒業にかかわる単位数に算入します。
 ※放送大学の英語以外の外国語科目のうち、履修できる科目はドイツ語またはフランス語とし、放送大学での 2 単位を、本学では 1 単位として認定します。認定された場合、「ドイツ語」または「フランス語」の 1－Ⅰ, 1－Ⅱ, 2－Ⅰ, 2－Ⅱのいずれかの単位に読み替えます。
- ③ 成績は GPA に算定しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。
- ⑤ 単位認定は科目の内容および成績に基づいて、経営学部で行います。
 ※全ての科目が認定されるわけではありません。不安な方は経営学務係までお問い合わせ下さい。
- ⑥ 履修希望者は学務部教育企画課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務部教育企画課へ申請してください。
 ※放送大学の申請手続きは横浜市内大学間の手続きとは異なります。掲示で確認して下さい。
- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、学務部教育企画課より履修希望者に通知します。

f. 国際交流科目

昼間主コースと同様です。(76 ページを参照)

g. 留学による単位認定

昼間主コースと同様です。(76 ページを参照)

5. ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールⅠ・Ⅱとも教員の承認を得る必要があります。また、ゼミナールⅡについてはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 選考・開始時期

ゼミナールの選考は原則として2年次秋学期に行います。ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。

③ 定員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。(ただし、交換留学(派遣)決定者は定員外とすることができます。)

④ 単位数

ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位(計8単位)です。ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を専門教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名および辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名できます。ただし、学生が辞退を申し出たときは、指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず経営学務係へ申し出てください。

6. 卒業論文試験

① 時期

4年次秋学期

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、3年を超えて在学(休学や3ヶ月を超える停学期間等は除く)し、ゼミナールの単位を除く、卒業にかかわる専門教育科目の単位を40単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年(4年次に受験の場合は3年次)秋学期までの成績で資格の有無が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の専門教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門や昼間主開講科目等卒業にかかわる単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位や、卒業資格外単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の7月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し(経営学務係では斡旋しません)、「卒業論文論題届」を経営学務係へ届け出てください(詳細は6月中旬に掲示します)。届け出なかった場合は、卒業論文有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

昼間主コースと同様です(78ページを参照)。

2011～2016 年度入学生用(夜間主コース) 修得単位確認表

[教養教育科目]

項目・科目名等				チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数
教養教育科目	夜間主教養科目	必修科目	数学Ⅰ 数学Ⅱ 統計学Ⅰ－B 統計学Ⅱ－B			24単位以上
		その他夜間主教養教育科目				
	昼間主教養教育科目(選択科目) ※1					
外国語科目	英語	英語1－1－Ⅰ 英語1－1－Ⅱ 英語1－2－Ⅰ 英語1－2－Ⅱ 英語2－1－Ⅰ 英語2－1－Ⅱ 英語2－2－Ⅰ 英語2－2－Ⅱ				8単位
	英語以外の外国語 ※2	1－Ⅰ 1－Ⅱ 2－Ⅰ 2－Ⅱ				4単位
健康スポーツ科目(選択科目) ※3						2単位まで
合計1						36 単位以上

※1 昼間主教養教育科目は、インターンシップ前提科目(「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」「ベンチャーから学ぶマネジメント」)、地域交流科目およびグローバル Plus ONE 科目群に含まれる科目(卒業資格外単位となる科目を除く)を指します。

※2 放送大学の「ドイツ語」および「フランス語」の単位を読み替えることができます。(※4も参照)

※3 健康スポーツ科目は、昼間主コースの科目を履修することができます。修得した単位は2単位まで卒業資格に関わる単位数に算入することができます。

[専門教育科目]

項目・科目名等		チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数
基本科目群				8単位以上
夜間主自由・特殊科目				—
昼間主自由・特殊科目(選択科目)				30単位まで
法律関係科目	経営学部夜間主コース開講法律科目			6単位以上
ゼミナール(選択科目)	ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ			各4単位
その他 ※4	経済学部開講専門教育科目			8単位まで ※4
	国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目			8単位まで ※4
	横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)			8単位まで ※4
	国際交流科目			8単位まで ※4
	インターンシップ			6単位まで
合計2				76 単位以上
合計1 + 合計2				124 単位以上

※4 経済学部専門教育科目 + 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 + 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む) + 専門教育科目として認定される国際交流科目 + 留学認定科目 ≤ 30 単位
という上限があります。合計 30 単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することができませんのでご注意ください。

VII. キャリア教育

キャリア教育とは就業への意識と適応能力を高め、将来の職業選択に資するための教育です。経営学部では、キャリア教育の一環として、以下の制度を設けています。

1. 経営学部インターンシップ

経営学部インターンシップは、学生が一定期間企業で研修生として働き、自分の将来に関連する就業を体験できる制度です。経営学部ではインターンシップを学部(専門)教育科目として開設しています。同科目を履修した場合は最大 6 単位まで卒業にかかわる単位数に算入します。なお、成績は GPA に算定しません。(海外インターンシップ、インターンシップ留学制度の単位数も合算した上限単位数が 6 単位となるので、注意してください。)

a. 対象となるインターンシップ

国内の企業等で 1 ヶ月以上の業務を行う中長期・実践型のものに限ります。

b. インターンシップ前提科目の履修

インターンシップの実践前に、経営学部が毎年度開講する全学(教養)教育科目、「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の 2 科目のうち 1 科目以上を履修登録済であること。

※夜間主コースの学生も、上記のインターンシップ前提科目を履修できます。修得した単位は、夜間主教養科目の単位となります。

c. インターンシップ受入れ企業等の決定

学生本人が行うこと。ただし、特定の受入れ可能な企業の紹介とマッチングは経営学部が支援します。支援内容等は掲示板で確認してください。

d. 提出書類

インターンシップ受入れ企業等が決定した後、速やかに「インターンシップ単位認定申請書」を経営学務係に提出してください。

インターンシップ終了後、「インターンシップ成果報告書」、受入れ企業が作成した「インターンシップ評価書」を経営学務係に提出してください。提出に必要な用紙は経営学務係にあります。

e. 履修登録

上記「d. 提出書類」をすべて提出した次の学期に、認定単位数に基づき、履修登録を行います。履修登録の方法は掲示で確認してください。単位認定の対象となるインターンシップ実践期間は、履修登録を行う学期の前学期末までです。書類提出締切を設けていますので、掲示で確認してください。なお、この時点でインターンシップを継続中の場合は、経営学務係に報告してください。

f. その他

- ① インターンシップは、休業期間に行うことが原則です。授業への出席に支障があると判断される場合は、履修できないので注意してください。
- ② 認定単位数は、「インターンシップ成果報告書」とインターンシップ受入れ企業等作成の「インターンシップ評価書」を基に、就業 90 時間 1 単位を目安として経営学部教授会で決定します。
- ③ インターンシップ実践において、交通費およびそれに代わる報酬等が支払われない場合には、実習定期乗車券を申請することができます。申請者は、インターンシップ受入れ決定後、直ちに「インターンシップ実習用定期乗車券申請書・交通費無支給証明書」を提出してください。
- ④ 学外でのインターンシップ実践に際しては、受入れ企業側の保険の有無を確認し、保険が適用されない場合には、学生自身の負担において傷害保険および賠償責任保険に加入してください。

2. 海外インターンシップ

下記条件①～③を満たし、経営学部が認定したインターンシップを、経営学部専門科目「海外インターンシップ」として 6 単位を上限に単位認定します。実践時間 60 時間で 1 単位を目安とします。（経営学部インターンシップ、インターンシップ留学制度の単位数も合算した上限単位数が 6 単位となるので、注意してください。）

a. 条件

- ① 海外で、英語等の日本語以外の言語による業務を、一定期間以上行う、実践型インターンシップであること。実践型インターンシップの内容は「経営学部インターンシップ」に準ずる。
- ② 経営学部が認定する組織が実施・仲介するもので、①を満たすもの。もしくは、本学が他の組織と連携して行うもので、①を満たすもの。
- ③ 原則として、春期、夏期の休業期間中に行うものとし、各学期の授業開始日の前日までに帰国するものとする。
【注1】

b. インターンシップ前提科目の履修

インターンシップの実践前に、経営学部が毎年度開講する全学(教養)教育科目「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の 2 科目のうち 1 科目以上を履修登録済であること。

c. 単位認定について

6 単位まで「海外インターンシップ」の単位として認定する。

2017 年度以降入学者については、上記単位の他に、帰国後のレポート提出および報告会での報告により「海外学修(インターンシップ)」として 2 単位を与える。レポート提出要領は別途提示する。

d. 提出書類

インターンシップ受入れ企業等が決定した後、「インターンシップ単位認定申請書」を経営学務係に提出してください。

また、インターンシップ終了後、「インターンシップ成果報告書」、受入れ企業が作成した「インターンシップ評価書(英語版)」もしくは、それに代わる証明書等を経営学務係に提出してください。

e. 履修登録

上記「d.提出書類」をすべて提出した次の学期に、認定単位数に基づき、履修登録を行います。履修登録の方法は掲示で確認してください。単位認定の対象となるインターンシップ実践期間は、履修登録を行う学期の前学期末までです。書類提出締切を設けていますので、掲示で確認してください。

f. その他

受入れ企業側の保険の有無を確認し、保険が適用されない場合には、学生自身の負担において傷害保険および賠償責任保険に加入してください。

【注 1】 本学が他の組織と連携して行う海外インターンシップにおいては、内容を勘案した上で、必要があれば特例措置を講じる。

3. インターンシップ留学制度(海外・地域)

授業期間を含む期間に、下記の要件を満たす学生が、海外、あるいは、通学が不可能な地域で実践型インターンシップを行う場合、「海外インターンシップ」・「経営学部インターンシップ」として単位認定申請が可能です。認定可能な単位数の上限は6単位です。

インターンシップ留学を行う場合、通常の授業科目の履修は不可能であり、当該学期は、インターンシップ留学制度による単位認定申請(単位認定申請が認められた場合は、その認定に基づく履修登録)のみが可能です。また、ゼミナール所属学生がインターンシップ留学を希望する場合は、応募前にゼミナール指導教員の承諾を得なければなりません。

※本学への通学が不可能な地域において、一定期間以上行う実践型インターンシップであること。実践型インターンシップの内容は「経営学部インターンシップ」を参照して下さい。

※経営学部が認定する組織が実施・仲介するもの、または、本学が他の組織と連携して行うものに限ります。

※手続きは、「経営学部インターンシップ」に準じますが、インターンシップ留学制度を適用できるかどうかを審査しますので、事前に、経営学務係、キャリア支援委員、ゼミ担当教員等に相談して下さい。また、申請受理の決定があり次第、迅速に単位認定申請を行って下さい。

【要件】

- ① 原則として3年次以上とする。ただし、本学が他の組織と連携して行う海外インターンシップ等においては、特例として2年次での申請を認める場合がある。1年次でのインターンシップ留学は認めない。
- ② 以下の成績に関する要件を満たしていること
 - ・ 申請時まで修得可能な必修科目を全て修得していること。
 - ・ 申請時における総修得単位数、学部(専門)教育科目単位数、全学(教養)教育科目単位数が、標準的な水準以上であること。
 - ・ GPA3.0以上であること。なお、GPA3.25以上が望ましい。

4. 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス

ビジネス・プラクティスは、所属する専攻(課程・学科)以外の分野を系統的に学習する「副専攻プログラム」の一つです。

ビジネスにおける実践性を重視した下記の「ビジネス・プラクティス科目群」の修得と、現実的な課題への対応能力を養う「ビジネス・プラクティス修了課題」への取り組みによって、企画力・発信力・実現力を養い、ビジネス人材としての価値を高めることを意図しています。

a. ビジネス・プラクティス科目群

コア科目	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論(必修)
	ベンチャーから学ぶマネジメント(必修)
選択科目	経営学部インターンシップ
	マイ・プロジェクト・ランチャー
	マーケティング・プラクティス
	現代の物流経営
	インターネット・ビジネス・プランニング
	ビジネスゲーム
	特定の産業を取り上げ、経営者・実務家から経営ノウハウを学ぶ授業 (「実践から学ぶキャリア・マネジメント」など)
	社会における実践体験－富丘会メッセージ

b. 修了要件

下記の3つの要件をすべて満たした者を修了とします。

- ① コア科目:計 4 単位(「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」および「ベンチャーから学ぶマネジメント」)を修得。
- ② 選択科目:「ビジネス・プラクティス科目群」から 8 単位以上を修得。
- ③ 経営学部キャリア教育委員会が課す「ビジネス・プラクティス修了課題」の合格。

c. ビジネス・プラクティス修了課題と申請手続き

ビジネス・プラクティス修了課題は、年 1 回秋学期に行います。上記の修了要件の①、②を満たしているか、または当該年度の秋学期に単位を修得見込みで、ビジネス・プラクティスの修了を希望する者は、秋学期の履修登録期間中に、ビジネス・プラクティス修了課題受験申請書を、経営学務係に提出してください。申請者にはビジネス・プラクティス修了課題の実施について別途連絡します。

d. 修了証

ビジネス・プラクティス修了課題に合格し、b. の修了要件をすべて満たした者には、当該年度末に副専攻プログラム「ビジネス・プラクティス」修了証を発行します。

VIII. 海外での学修

1. 交換留学(派遣)、私費留学(大学・短期大学)

(1) 交換留学(派遣)について

a. 概要

本学部では、イギリス、アメリカ、オーストラリア、フランス、中国、韓国、ベトナム、スイス、チェコ、インド等 120 校以上の協定校と学生交流の覚書を交わしており、1 年あるいは半年の期間、本学に在学したまま各協定大学へ留学することができます。留学中、授業料は本学へ納入し、相手大学の検定料、入学料、授業料は免除されます。また、留学中に修得した単位は、教授会の議を得て認定の可否が決定されます。

ただし、派遣留学生となるためには、GPA の数値等いくつかの条件を満たさなければなりません。大学ごとに応募資格や派遣定員が決まっていますので、あらかじめ確認し、十分に準備をするようにしてください。

語学面では、英語圏の大学および非英語圏の大学の英語によるコースへの留学希望者の場合には、学内基準として、TOEFL iBT70 または IELTS5.5 が必要です。非英語圏の大学への留学希望者の場合にも、各種語学テストのスコアや初修外国語の履修証明(成績)等が必要になります。

各大学への応募資格、派遣定員、就学期間等の詳細については、学生センター(学務部国際教育課留学交流係)または経営学務係窓口で確認してください。また、経営学部では、留学説明会を実施していますので、積極的に参加するようにしてください。

b. 単位の認定について

- ① 留学先大学での履修科目の内容が、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合には、60 単位(2016 年度以前入学者は 30 単位)を上限に単位を認定します。
- ② 対象となる科目は、全学(教養)教育科目と学部(専門)教育科目の全てです。
- ③ 留学先履修科目 1 科目に対して、経営学部開講科目 1 科目が対応します。ただし、履修科目の単位が 4 単位以上の場合、経営学部開講科目 2 科目で認定することや、異なる 2 科目以上の単位として認定することがあります。また、異なる履修科目の単位を合算して、1 科目分の単位として認定することがあります。
- ④ 対応する科目がない場合(単位修得済みを含む)は、原則として卒業資格外の増加単位となります。ただし、経営学部の学部(専門)教育科目に相当すると判断される科目については、特殊講義として認定することがあります。また、全学(教養)教育科目(外国語科目を含む)について、授業で使用された言語に相当する外国語科目として認定することがあります。
- ⑤ 成績は GPA に算定しません。
- ⑥ 帰国後1ヶ月以内に経営学務係まで申請してください。

(2) 私費留学について

休学期間中に外国の大学または短期大学において履修した授業科目について、教育上有益と認められ経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位の認定をすることがあります。

単位の認定方法は上記「b. 単位の認定について」を参照してください。詳細は、留学前に経営学務係までお問い合わせください。

2. 海外学修科目について（2017 年度以降入学者のみ）

海外での経験を通じて学んだことについて、経営学の学修に有益と認められる場合、海外学修科目として単位を与える。

a. 交換留学(派遣)

帰国後のレポート提出および報告会での報告により、「海外学修(交換留学)」として 2 単位を与える。レポート提出要領は別途提示する。

b. 私費留学(大学・短期大学)

帰国後のレポート提出により「海外学修(私費留学)」として 2 単位を与える。

※私費留学で海外学修科目の履修を希望する場合は、事前に経営学務係に相談してください。

c. 留学以外で海外学修として単位認定されるもの

- ① 英語討論
- ② Applied Economics Intensive
- ③ 海外インターンシップに付随して認定される「海外学修(インターンシップ)」(91 ページを参照)

IX.教育職員免許状（2016 年度以前入学者のみ）

経営学部では教育職員免許状を取得することができます。（2016 年度以前の入学者のみ）

取得できる免許状の種類は「高等学校教諭 1 種普通免許状」、教科は「商業」です。

a. 必要な資格と単位

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法および同法施行規則に規定された以下の資格と科目の単位を修得する必要があります。

基礎資格	学士の学位を有すること。		
教科に関する科目	2010 年度入学生以降:44 単位(「職業指導」4 単位を必ず含めること) 2009 年度入学生以前:42 単位(「職業指導」4 単位を必ず含めること)		
教職に関する科目	教職論		2 単位
	人間形成論【2010 年度以前入学生】	}	2 単位
	教育基礎論【2011 年度以降入学生】		
	教育の心理学		2 単位
	商業科教育法		4 単位
	生徒理解【2010 年度以前入学生】	}	2 単位
	生徒・進路指導論【2011 年度以降入学生】		
	教育実習		3 単位
特に必要なものとして文部科学省令 で定める科目	日本国憲法		2 単位
	体育		2 単位
	外国語コミュニケーション		2 単位
	情報機器の操作		2 単位

b. 履修方法

① 教科に関する科目

教科の関する科目 44 単位(2009 年度入学生以前は 42 単位)は、本学部専門教育科目のうち、商業関係科目の単位で充当します。

商業関係科目については、必要に応じて経営学務係で確認してください。なお、「職業指導」(4 単位)は「人間科学Ⅰ」「人間科学Ⅱ」(計 4 単位)または「人的資源管理論Ⅰ」「人的資源管理論Ⅱ」(計 4 単位)を代替科目として指定しているので、いずれかの組み合わせを必ず履修してください。

② 教職に関する科目

教職に関する科目は開講されない年度があるので、履修については特に注意してください。詳細については、後日学生用掲示板にて別途掲示します。なお、教育学部で開講する教職科目の履修を希望する場合は、経営学務係に事前に相談してください。

③ 特に必要なものとして文部科学省令で定める科目

特に必要なものとして文部科学省令で定める科目は、次の本学部開講科目で履修してください。「体育」は「健康スポーツ演習 B」(2 単位)、「外国語コミュニケーション」は本学部卒業資格にかかわる外国語科目、「情報機器の操作」は「経営情報論ⅠA」「経営情報論ⅡA」「経営情報論ⅠB」「経営情報論ⅡB」(各 2 単位)のいずれか 1 科目です。

c. 教育実習

① 概要

教育実習は事前指導・本実習・事後指導からなり、以下の手順で実施します。なお、いずれの事項も必須です。

教育実習参加前年度	4 月	「教育実習参加仮申込書」を提出
	4 月～	教育実習の受け入れ先を自ら探し、受け入れを依頼
	12 月	教育実習修了者の「事後指導」を見学し、来年度教育実習参加者オリエンテーションに参加
教育実習参加年度 (卒業年度)	4 月	「教育実習申込書」を提出 「教育実習」を履修登録 「事前指導」を受講
	6 月又は 11 月	本実習を実施(2 週間) ※本実習終了後 2 週間以内に教育実習記録をまとめ、経営学務係に提出
	12 月	「事後指導」を受講 ※前日までに本実習レポートを経営学務係に提出

② 履修要件

教育実習は卒業年次に、卒業見込みの者に限り履修できます。

卒業の前年度までに次の科目および単位を修得している必要があります。

専門教育科目	昼間主コース 48 単位以上 夜間主コース 40 単位以上	「職業指導」4 単位を含む。 ゼミナールの単位は除く
教職に関する科目	12 単位 (2010 年度以降入学生) (商業科教育法 4 単位、生徒・進路指導論 2 単位を含む)	

※実習に参加する前に傷害保険および賠償責任保険に加入し、教育実習中の事故等が給付の対象となるか必ず確認してください。

d. 免許状授与申請

教育職員免許状取得希望者は、申請に必要な証明書を経営学務係に請求し、その証明書を持って自ら各都道府県教育委員会に免許状授与申請を行ってください。なお、申請方法、申請受付期間等の詳細については、申請先の教育委員会に照会してください。

X. 学務関係諸手続き

(1) 休学、退学、除籍

a. 休学

休学を希望する学生は、本学所定の「休学願」に必要事項を記載し、事由に応じた証明書類を添付して、経営学務係に申請してください。休学には学長の許可を得なければなりません。

休学の対象となる事由	必要証明書類
本人の疾病または負傷	医師の診断書(様式随意) ※加療に必要な期間(=休学期間)の記載が必要
本人の出産または親として3歳未満の育児に従事	出産に関する医師の診断書等(様式随意)
学資の支弁が困難	父母等の「理由書」(様式随意)および事実を証明する書類
世帯主その他の死亡等により、一時的に家業に従事	父母等の「理由書」(様式随意) および事実を証明する書類
家族の看病又は介護	看病については、父母等の「理由書」(様式随意)および医師の診断書(様式随意)、介護については父母等の「理由書」および事実を証明する書類
勤務の都合	勤務先の証明書(様式随意) 主に社会人教育プログラム、夜間主コース学生が対象。 一般プログラム、GBEEP、昼間主コース学生は自ら起業する場合のみ。 (起業の場合は「登記を証明する書類」を提出)
語学研修および語学研修に伴って特定の専門領域を研修	・受け入れ先の学校の「入学許可書」(本紙を持参のこと。) ・本学所定の「計画書」(経営学務係窓口で受領してください。)
ワーキングホリデー	・ビザ(コピー不可) ・ワーキングホリデー制度の説明書またはパンフレット(コピー可) ・本学所定の「計画書」(経営学務係窓口で受領してください。)

- ・ 休学申請の時期は、原則として春学期または秋学期の開始する1ヶ月以上前までです。なお、学期の開始後に休学の事由が発生した場合は、速やかに証明書類(前述)を添付して経営学務係に申請してください。
- ・ 休学中の学生が、休学期間の延長を願い出る場合は、休学期間満了の1ヶ月前までに経営学務係へ願い出てください。
- ・ 休学期間が満了しないうちに休学事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができます。
- ・ 休学の許可を受けようとする場合は、休学期間開始前の学期の授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

b. 退学

退学を希望する学生は、本学所定の「退学願」を経営学務係に提出してください。退学には、学長の許可を得なければなりません。また、退学の許可を受けようとする場合は、あらかじめ、退学を希望する学期(春学期または秋学期)までの授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

c. 除籍

授業料を納付期限までに納めなかった者、在学期間を超えた者、休学期間を超えた者は、除籍となります。

(2) 学生証の携帯

学生証は常に携帯し、紛失したとき、記載事項に変更が生じたとき、あるいは有効期限が過ぎたときは、早急に再発行の手続きをしてください。学生証の提示がない場合、学期末試験が受験できないほか、本学部生としてのサービスが受けられないので、十分に注意してください。

学生証の再発行は、学生センター(学務部教育企画課)で行ってください。なお、紛失の場合の交付予定日は、申請から7日後(土日・祝日を除く)です。

(3) ゼミ室の使用

ゼミ室の鍵を借りるときは、学生証を必ず経営学務係に提出してください。鍵は学生証と引き換えで貸し出します。鍵の持ち出しあるいは返却する際には、窓口に用意されている「貸出簿」に必要事項を記入してください。

(4) 経営学務係窓口受付時間帯

a. 経営学務係の窓口時間帯

月曜日～金曜日(祝日を除く)	昼間 : 8時30分～12時45分 13時45分～17時00分
	夜間 : 17時00分～20時00分 【授業期間中のみ】

※昼休み時間(12時45分～13時45分)は窓口が閉まりますので注意してください。

※休業期間中の窓口業務は17時00分までとなるので注意してください。

※その他臨時に休業期間中と同じ扱いとすることがあるので掲示に注意してください。

b. 提出物(レポート等)の提出時間帯

授業期間中	月曜日～金曜日(祝日を除く)	8時30分～12時45分、13時45分～20時00分
授業期間外	月曜日～金曜日(祝日を除く)	8時30分～12時45分、13時45分～17時00分

提出締切時間については、掲示等による特別の掲示がない限り以下のとおりです。授業科目の開講時間帯により締切時間が異なるので注意してください。

締切時間	1限～4限の授業科目	17時00分	※締切時間が過ぎたものについては、理由(レポート提出ボックス前の混雑、コピー機の故障等)を問わず、経営学務係では受理しません。
	5限～7限の授業科目	20時00分	

(5) 在学中の証明書の発行

あらかじめ提出先・必要な理由・必要部数を確認し、日程に余裕を持って発行・申請を行ってください。また、証明書の書類によって申込方法が異なるので注意してください。

受付窓口等	証明書の書類		発行日数
証明書自動発行機 (学生センター・経営学部1号館ロビー)	和文・英文	在学証明書 成績証明書 卒業見込証明書	即日
	和文	健康診断書 学生旅客運賃割引証(学割証)	

※上記以外の証明書については経営学務係へ問い合わせてください。申し込みの際は、経営学務係備え付けの

「証明書交付願」に必要事項を記入の上、窓口で申し込んでください。郵送等には応じられません。

※卒業後の証明書発行については、大学ホームページを確認してください。

(6) 住所変更等の届け出

下記の変更があった場合は、学務部教育企画課窓口へ届け出てください。

変更事由	届け出る文書
本人の住所変更	学生住所変更届
本人の本籍の変更	本籍変更届
父母等連絡人の住所変更	父母等連絡人住所変更届
父母等連絡人の変更	父母等連絡人変更届
本人および父母等の転籍、改姓、改名	本学所定の「転籍(改姓・改名)届」および戸籍謄本または戸籍抄本

(7) 経営学部コンタクト教員制度（担任制度・2013 年度以降入学生対象）

経営学部では、特に新入学生に対する就学ケアサポートを充実させるために、経営学部コンタクト教員制度(担任制)を設けています。特に新入生は、担任教員と「face to face」の関係を築いてください。

【2017 年度以降入学者】

一般プログラムおよび GBEEP

- 1 年～2 年春学期終了まで …… 経営学リテラシー担当教員(掲示板に掲示します)
- 2 年秋学期～ (ゼミ生) …… ゼミ教員
- (ゼミ外生) …… 教務・厚生委員

社会人教育プログラム

- 1 年～ …… 演習担当教員(掲示板に掲示します)

【2016 年度以前入学者】

昼間主コース

- 1 年～2 年春学期終了まで …… 担任教員(掲示板に掲示します)
- 2 年秋学期～ (ゼミ生) …… ゼミ教員
- (ゼミ外生) …… 教務・厚生委員

夜間主コース

- 1 年～2 年まで …… 教務・厚生委員
- 3 年～ (ゼミ生) …… ゼミ教員
- (ゼミ外生) …… 教務・厚生委員長

(8) 住所・勤務等届の提出(社会人教育プログラム・夜間主コースのみ)

社会人教育プログラムおよび夜間主コースの学生は、「住所・勤務等届」を経営学務係窓口へ提出してください。

(9) 駐車許可証交付(社会人教育プログラム・夜間主コースのみ)

社会人教育プログラムおよび夜間主コースの学生は、次のいずれかに該当するものについては、学部審議の上、車での通学を許可し駐車許可証を交付します。

- ① 勤務の都合上、車を使用しなければ講義開始時刻に間に合わない。
- ② 自宅が遠く、授業終了後の帰宅の際に交通機関がなくなるため、車を使用しないと帰宅できない。
- ③ 身体に障害があり、車を使用しないと通学が困難である(この場合は、一般プログラム、GBEEP、昼間主コースの学生を含む)

申請書類の配布および受付は、毎年 4 月上旬から中旬に行います。申請する学生は、経営学務係へ問い合わせてください。

(10)進路調査票の提出(4 年次生)

4 年次生は、卒業論文提出時に「進路調査票」(経営学務係にて配布)を提出してください。なお、この「進路調査票」は進路状況調査および卒業生名簿作成のために使用するものです。

(11)留学生支援制度

本学には、留学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるように、留学生のための様々な支援制度があります。

① チューター制度

1 年生・2 年生の留学生に、原則として日本人学生が 1 名ずつチューターとしてつき、勉学上、生活上の個別の課外指導を行い、学習効果の向上の手助けをします。

② 日本語・日本事情に関する指導

留学生担当の指導のもと、定期的集い、時事問題・日本の習慣など身近な話題についての意見交換を行いながら、日本語による表現能力を養います。なお、日本人学生がゲスト・スピーカーとして参加することもあります。

日程は別途掲示します。(希望者のみの受講で、単位は与えられません。)

③ カウンセリング

留学生担当教員が、勉学上、生活上の個別相談に応じます。相談日(オフィス・アワー)は別途掲示します。

④ 留学生関連事項専門掲示板

留学生関連の連絡事項(奨学金・寮の案内・イベント等)を掲示する専用掲示板がありますので、経営学部的一般学生掲示板、国際教育センター掲示板と同様に、常時確認するようにしてください。

⑤ 各種イベント

留学生による日本語スピーチコンテストや実地見学旅行等、留学生対象の各種イベントがあります。

(12)その他

- ① 学生に対する通知・諸連絡等は、全て「掲示」により行います。1 日 1 回は必ず学生掲示板等を見て確認するよう習慣づけてください。他人まかせではなく、自分の目で確認し、主体的かつ計画的に物事を進められるよう努めてください。
- ② 横浜国立大学ホームページの学生情報システムからも、休講・補講等の情報を見ることができます。ただし連絡事項全てがみられるわけではないので注意してください。
大学のホームページ : <https://www.ynu.ac.jp/>
学生情報システム : <https://siss.jmk.ynu.ac.jp/>
- ③ 休講・成績確認・試験日程その他、学務関係の事項について、電話やメールでの問い合わせには一切応じません。
- ④ 「横浜国立大学学則」、「横浜国立大学経営学部規則」等は大学ホームページに掲載されています。これらの規則は大学生活に関する重要事項を規定していますので、適宜参照してください。
- ⑤ 学生に対する個別の連絡等を、メールで行うことがありますので、YNU メール(Office365)で確認してください。携帯電話や別のメールアドレスを使っている場合は、メールを転送する設定を行ってください。なお、メールアドレスを変更したときは、必ず転送先を変更してください。

XI. 横浜国立大学経営学部規則

(平成 16 年 4 月 1 日規則第 701 号)

改正 平成 17 年 1 月 13 日規則第 478 号 平成 18 年 3 月 9 日規則第 35 号
平成 19 年 3 月 15 日規則第 16 号 平成 20 年 3 月 14 日規則第 25 号
平成 29 年 3 月 9 日規則第 43 号

第 1 章 学科、履修コースおよび授業

第 1 条 経営学部(以下「本学部」という。)に経営学科を置く。

第 1 条の 2 経営学科に Global Business and Economics 教育プログラム(以下「GBEEP」という。)および社会人教育プログラムを置く。

第 2 条 本学部の授業科目は、専門基礎科目、専門基幹科目、専門応用科目、実践科目および演習科目並びに基礎科目、イノベーション教育科目、グローバル教育科目、外国語科目および健康スポーツ科目とする。

2 授業は、講義、演習、実験、実習、実技および研究指導とする。

3 学則第 44 条の規定に基づき、本学部における授業科目の 1 単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 講義および演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習および実技については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前 2 号に規定する基準を考慮して、本学部が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

4 授業科目および履修の方法に関する細目は、別に定める。

第 3 条 学生は、年度ごとに履修しようとする授業科目を定め、所定期間内に経営学部長(以下「学部長」という。)に届出なければならない。

第 4 条 学生は、第 3 年次(社会人教育プログラムに所属する学生においては第 1 年次)から研究指導を受けなければならない。ただし、GBEEP に所属する学生である場合又は特別の理由があると認められた場合は、この限りでない。

第 5 条 研究指導を受けない学生は、これに代えて所定の単位数に相当する授業科目を履修しなければならない。

第 2 章 入学

第 6 条 学則第 24 条の規定による本学部入学者の選考は、学力検査および出身学校長の調査書に基づいて行う。ただし、必要な場合は面接を行う。

第 7 条 学則第 27 条第 1 項第 2 号から第 8 号までの規定による編入学者は、本学部と同等とみなすことができる学部等からの者に限り、前条の規定に準じて別に選考する。

第 3 章 認定

第 8 条 学則第 58 条に規定する認定は、授業科目試験、別に定める GPA(Grade Point Average。以下「GPA」という。)の基準および卒業論文試験により行う。ただし、GBEEP に所属する学生および社会人教育プログラムに所属する学生の学則第 58 条に規定する認定は、授業科目試験および GPA の基準により行う。

第 9 条 授業科目試験は、履修を届出、かつ授業時数の 2 分の 1 以上出席した授業科目について行う。

第 10 条 授業科目試験は、その授業が終了する学期末に行う。ただし、担当教員が必要と認める場合は、臨時に行うことができる。

第 11 条 卒業論文試験は、3 年を超えて在学し、専門教育科目に関して別に定める単位数以上を修得し、かつ GPA が 2.0 以上である者について行う。ただし、編入学等による者の在学年数については、この限りではない。

第 12 条 卒業論文試験は、担当の指導教員が行う。ただし、研究指導を受けない学生は、学部長に願い出て特定の教員の審査を受けなければならない。

第 13 条 授業科目の成績は、学則第 47 条第 3 項および第 4 項に基づき、評価を行う。

2 卒業論文試験の結果は、秀、優、良、可および不可とし、可以上を合格とする。

第 14 条 学則第 58 条第 3 項ただし書に規定する者のうち特別の事情があると認められる場合には、授業科目試験 および卒業論文試験を特別な時期に行うことができる。

第4章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、内地留学生および外国人留学生

第14条の2 学則第64条第1項の規定による科目等履修生として入学を許可されることのできる者は、本学部の選考において特定の授業科目を履修する能力を有すると認められる者とする。

第15条 学則第65条第1項の規定による研究生として入学を許可されることのできる者は、同条第2項に該当する者で本学部の選考において特定の専門事項についての研究能力を有すると認められる者とする。

第16条 科目等履修生および研究生の選考は、第6条の規定を準用する。

第17条 学則第67条の規定による特別聴講学生、同第68条の規定による内地留学生等、同第69条の規定による外国人留学生についての選考は、出願に要する書類の審査および面接により行う。ただし、必要な場合には、学力検査を課するものとする。

第5章 留学

第18条 学生が学則第55条の規定に基づき、大学(学部)間協定による留学の許可を受けようとするときは、必要書類を添えて学部長に願い出て、教授会の議を経なければならない。

2 学則第42条第3項の規定は、前項の規定により留学する場合にこれを準用する。

3 前2項に規定するもののほか、留学に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則施行の際、平成16年3月31日に現に本学部に在籍する者については、なお従前の規則のとおりとする。

附 則(平成17年1月13日規則第478号)

この規則は、平成17年1月13日から施行し、平成16年7月8日から適用する。

附 則(平成18年3月9日規則第35号)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日以前に本学部に入学し、在学する者(以下「在学者」という。)および平成18年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学および転入学する者(以下「再入学者等」という。)に係る教養教育科目については、改正後の経営学部規則第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 本学部が必要と認めるときは、在学者および再入学者等に改正後の経営学部規則第2条の規定に基づき平成18年度以降の入学者(再入学者等を除く。)のために開設される本学部の授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の経営学部規則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

附 則(平成19年3月15日規則第16号)

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 平成19年3月31日に現に本学部に在学する者(以下この項において「在学者」という。)および平成19年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学および転入学する者に係る授業科目試験の結果および卒業論文試験の結果については、改正後の経営学部規則第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成20年3月14日規則第25号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月9日規則第43号)

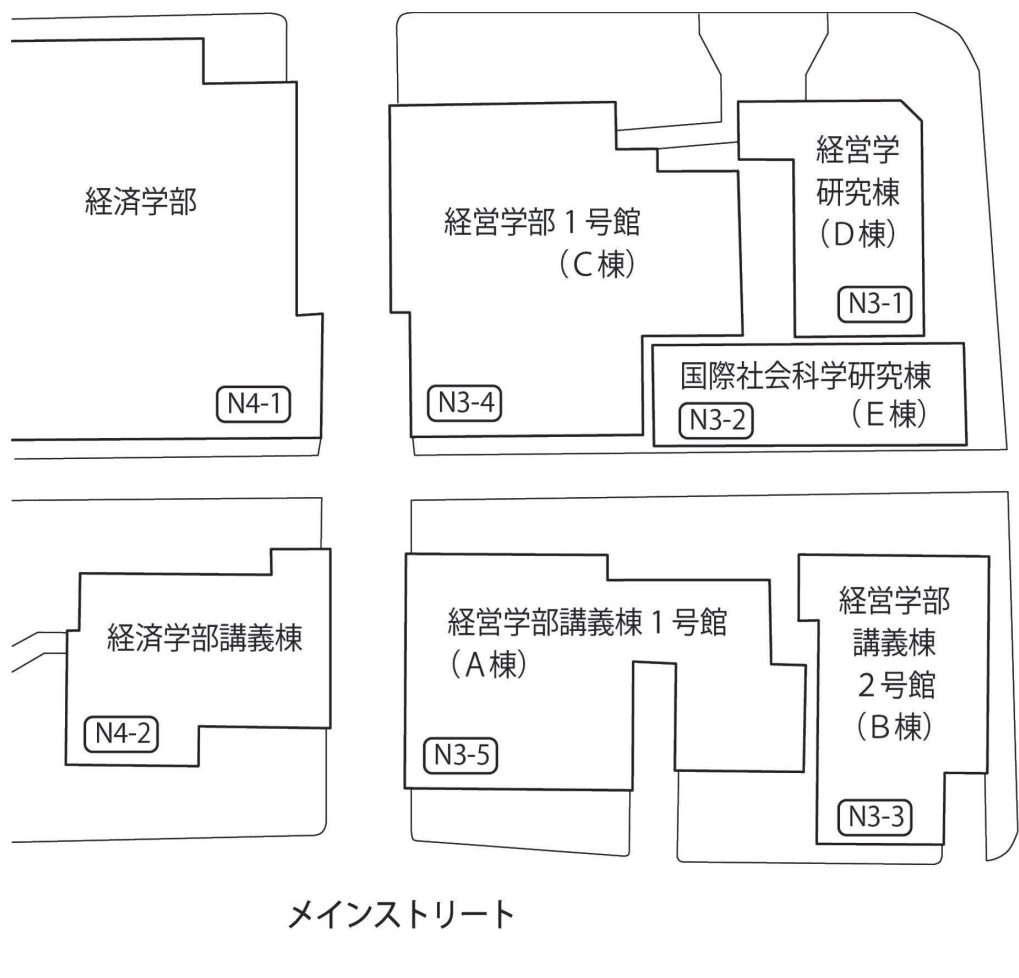
1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。

2 平成28年3月31日に現に本学部に在学する者(以下この附則において「在学者」という。)および平成29年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学および転入学する者(以下この附則において「再入学者等」という。)に係る所属学科およびコース並びに授業科目の区分については、改正後の経営学部規則第1条、第1条の2、第2条、第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 本学部が必要と認めるときは、在学者および再入学者等に改正後の経営学部規則第2条の規定に基づき平成29年度以降の入学者(再入学者等を除く。)のために開設される本学部の授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を改正前の経営学部規則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

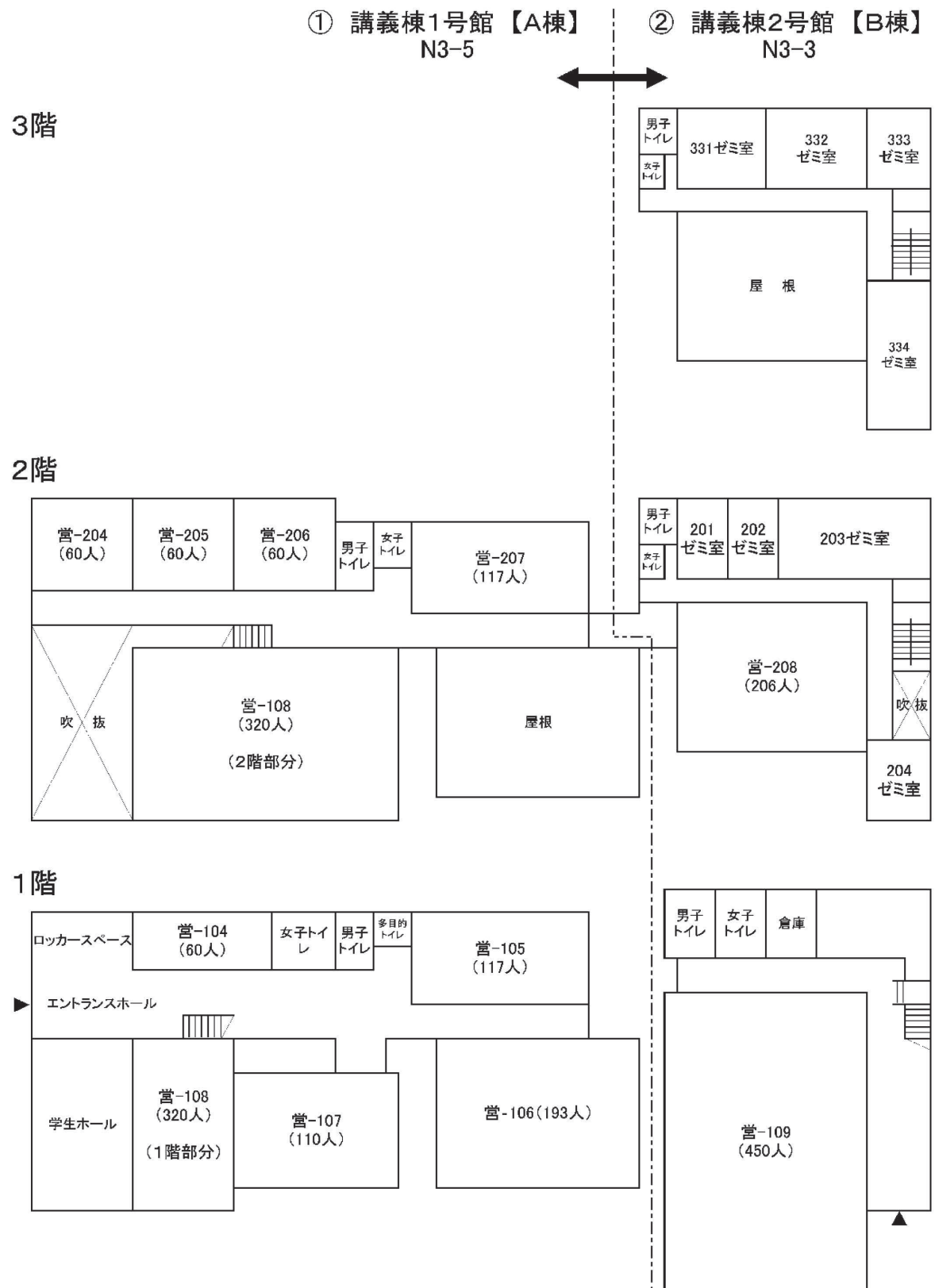
XIII. 経営学部建物および教室配置図

1. 建物配置図

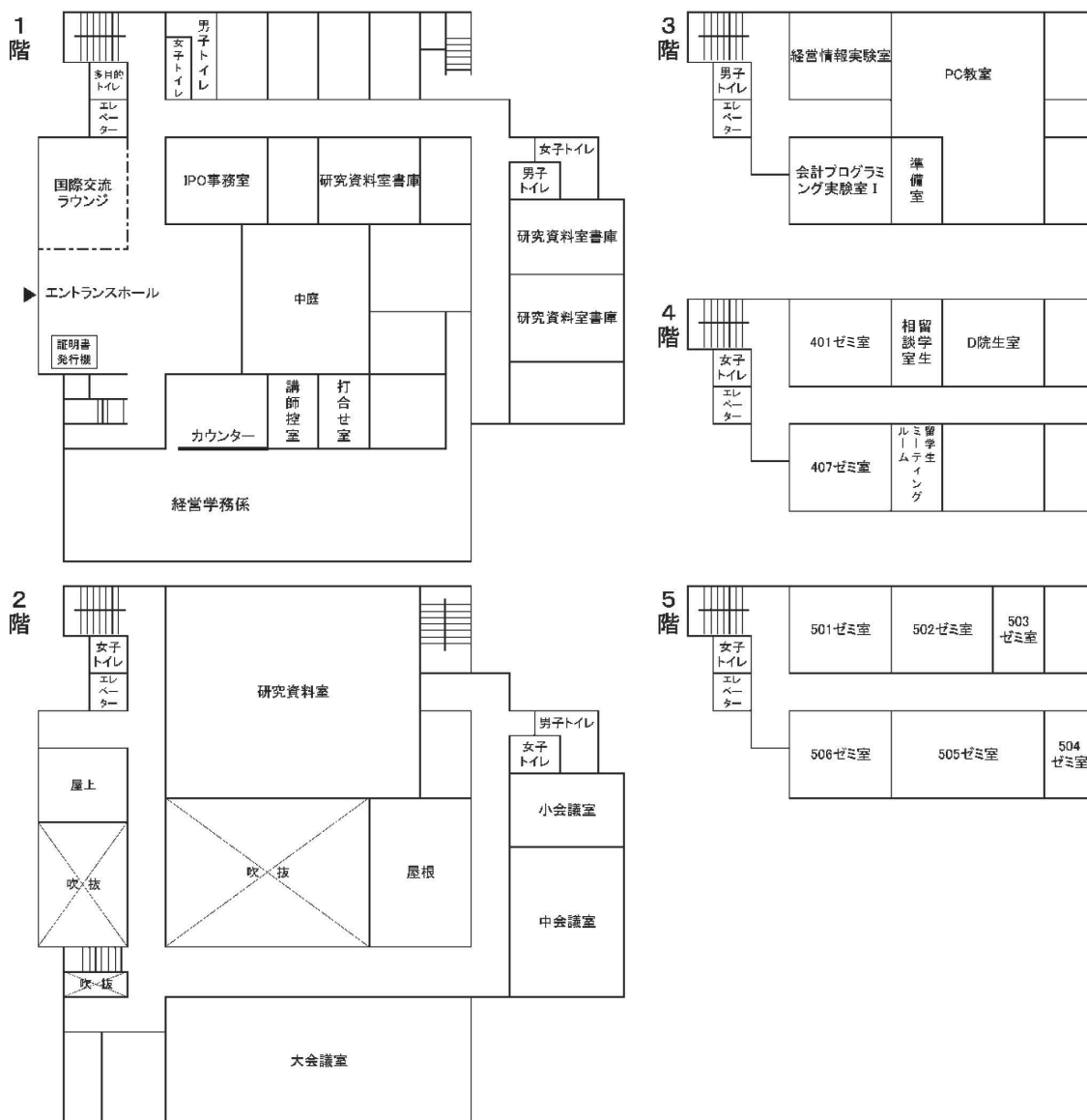


2. 教室配置図

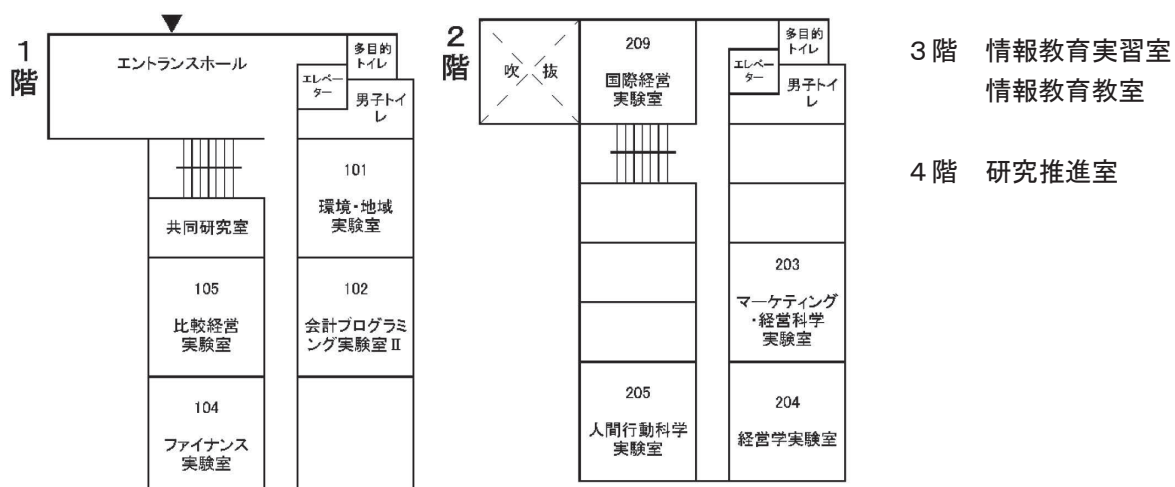
(1) 経営学部講義棟



(2) 経営学部 1 号館 【C棟】 N3-4



(3) 経営学研究棟 【D棟】 N3-1





YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY
COLLEGE OF BUSINESS ADMINISTRATION

2019